

平成 27 年度

神奈川県農業技術センター

業務年報

平成 28 年 8 月

目次

ページ

平成27年度 業務年報

概況

1 沿革	1
2 所在地	2
3 土地及び建物	2
4 機構(平成27年6月1日現在)	3
5 平成27年度決算	3

業務の概要

企画経営部	4
生産技術部	14
生産環境部	22
普及指導部	29
病虫害防除部	32
横浜川崎地区事務所	35
北相地区事務所	
研究課	38
普及指導課	40
三浦半島地区事務所	
研究課	42
普及指導課	45
足柄地区事務所	
研究課	47
普及指導課	49

成果の発表

1 平成26年度成果課題	51
2 研究報告	52
3 論文発表	53
4 学会・研究会等講演発表	54
5 依頼講演	58
6 雑誌等発表	59

受賞・特許等

1	受賞	60
2	権利化されたもの	62
3	出願中のもの	66
4	出願したもの	67

広報及び公開

1	発行物	69
2	記者発表等	69
3	研究成果の展示等	70
4	研究成果発表会	72
5	公開	72

研修・諸会議

1	研修	74
2	試験研究・事業諸会議の開催	74

付表

1	気象表	76
---	-----	----

概況

1 沿革

- 明治29年 7月 横浜市岡野町に農作物の試験研究を目的として「農事試験場」が創立された。
- 明治41年 2月 橘樹郡保土ヶ谷町に移転した。
- 明治41年 4月 落葉果樹の経済的栽培試験と西湘地帯の柑橘栽培改善を目的として、中郡吾妻村（現二宮町）に園芸部が設置された。
- 大正11年 4月 保土ヶ谷町より鎌倉郡大船町岡本1,018（現フラワーセンター大船植物園）に移転した。
- 昭和27年11月 相模原台地に畑作試験のため、相模原畑地灌漑試験地を設置。翌年12月相模原試験地と改称後、昭和41年7月相模原分場と改称された。
- 昭和28年12月 「農事試験場」が「農業試験場」と改称された。
- 昭和34年 4月 平塚市寺田縄496に移転。庶務部（庶務課）、技術研究部（栽培科・病虫科・土壤肥料科・相模原試験地）、営農調査連絡室、普及部（企画課・専門技術員）、農場管理部（農場管理課）となった。
- 昭和36年12月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、中郡二宮町に設置していた園芸分場は園芸試験場として独立した。
- 昭和44年 7月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、相模原分場が園芸試験場に編入され、「農業試験場」を「農業総合研究所」に改称し、管理部（管理課）、技術連絡室（連絡調整科・資料科）、経営研究部（経営調査科・経済試験科・流通調査科・流通技術科）、技術研究部（作物科・葉根菜科・病虫科・土壤肥料科）の4部11課（科）となった。
- 昭和46年 6月 農作物公害の試験研究のため、技術研究部に公害調査科が設置された。
- 昭和61年 4月 技術研究部に生物工学科が設置された。
- 平成 7年 4月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、農業総合研究所に園芸試験場及び蚕業センターを統合し、所在地を平塚市上吉沢1617に移転した。組織は管理部（管理課・経理課）、企画調整部、経営情報部、生物資源部、生産技術部、農業環境部の6部2課で構成され、併せて支所等として「根府川試験場」、「三浦試験場」、「津久井試験場」及び「蚕糸検査場」が設置された。
- 平成10年 3月 神奈川県行政組織規則の一部改正により「蚕糸検査場」が廃止された。
- 平成15年 6月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、管理部及び経理課が廃止された。
- 平成17年 4月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、農業総合研究所、肥飼料検査所、横浜川崎地域農業改良普及センター、横須賀三浦地域農業改良普及センター、湘南地域農業改良普及センター、県央地域農業改良普及センター、足柄地域農業改良普及センター、津久井地域農業改良普及センターを統合し、「農業技術センター」が設置された。
- 平成19年 4月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、病害虫防除所を統合した。
- 平成22年 4月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、かながわ農業アカデミーと畜産技術センターを統合し、支所等として「かながわ農業アカデミー」及び「畜産技術所」が設置された。

平成25年 4月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、企画調整部と経営情報研究部を企画経営部に、野菜作物研究部、果樹花き研究部を生産技術部に統合し、農業環境研究部を生産環境部とし、7部1課を5部1課とした。

平成26年 4月 神奈川県行政組織規則の一部改正により、かながわ農業アカデミーと畜産技術センター（旧畜産技術所）が独立した。

2 所在地

施設名	〒番号・所在地	電話・FAX番号
農業技術センター (本所)	〒259-1204 平塚市上吉沢1,617	電話 (0463)58-0333 FAX (0463)58-4254
農業技術センター 横浜川崎地区事務所	〒226-0015 (横浜農業合同庁舎内) 横浜市緑区三保町2,076	電話 (045)934-2374 FAX (045)934-2377
農業技術センター 北相地区事務所	〒252-0176 相模原市緑区寸沢嵐620-2	電話 (042)685-0203 FAX (042)685-2224
農業技術センター 三浦半島地区事務所	〒238-0111 三浦市初声町下宮田3,002	電話 (046)888-3385 FAX (046)888-1509
農業技術センター 足柄地区事務所	・研究課 〒250-0024 小田原市根府川574-1	電話 (0465)29-0506 FAX (0465)29-0019
	・普及指導課 (足柄上合同庁舎内) 〒258-0021 足柄上郡開成町吉田島2489-2	電話 (0465)83-5111 FAX (0465)83-7214

3 土地及び建物

区分	土地	うち、ほ場面積			建物	
		水田	普通畑	樹園地	棟数	面積
本所	m ² 191,798 (5,796)	2,874 <2,874>	19,779 (1,814)	32,233 <1,277> (2,941)	棟 82	m ² 22,346
横浜川崎地区事務所	-	-	-	-	-	[231]
北相地区事務所	34,836	-	4,230	18,625	11	1,128
三浦半島地区事務所	27,997	-	21,142	-	15	2,018
足柄地区事務所 ・研究課 ・普及指導課	32,056	-	-	30,831	15	1,727
	-	-	-	-	-	[314]
計	286,687 (5,796)	2,874	45,151 (1,814)	81,689 (2,941)	123	27,219 [545]

注1：本所の水田< >内は、旧農業総合研究所（平塚市寺田縄）の研究ほ場、樹園地< >内は、旧園芸試験場の原木園（二宮町）で内数

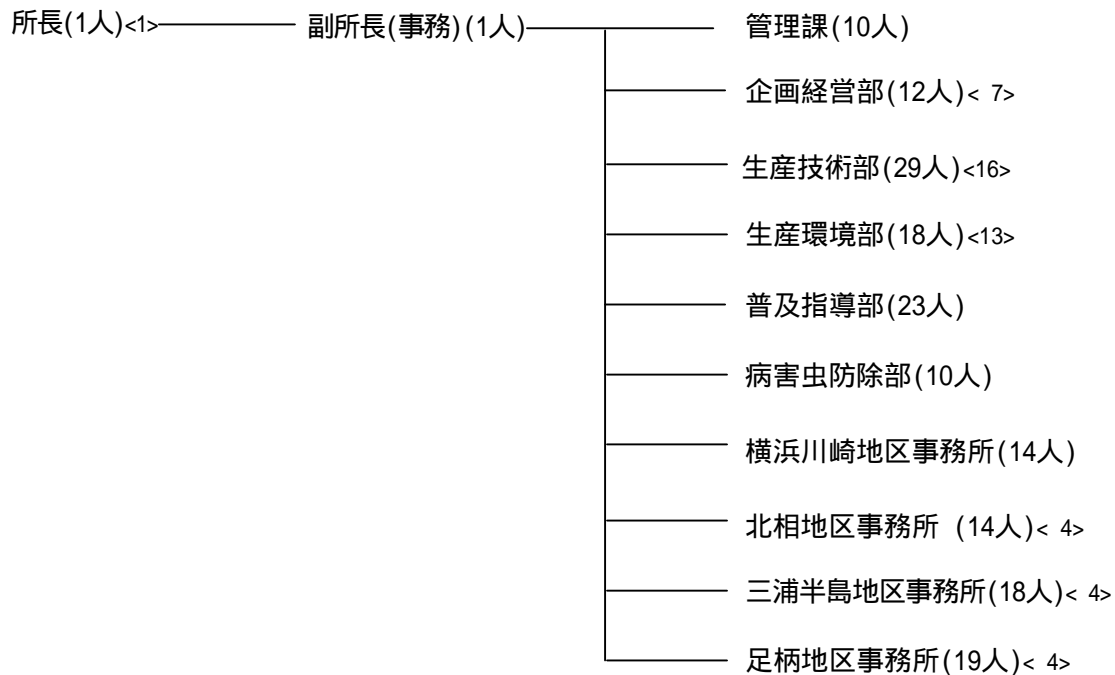
注2：（ ）内は、借用不動産で外数

注3：横浜川崎地区事務所と足柄地区事務所、建物計の [] 内は、占有面積で外数

4 機構 [常勤職員]

平成27年6月1日現在

【農業技術センター】



常勤職員総数 169人
 再任用職員(12人), 臨時的任用職員(3人)を含む
 < >は研究職で内数 < 49人>

5 平成27年度決算

歳入		歳出	
科目	歳入決算額	科目	歳出決算額
	円		円
農林水産業使用料	29,614	総務管理費	99,300,521
農林水産業手数料	84,870	一般管理費	94,621,961
農林水産業費委託金	436,000	財産管理費	4,678,560
財産貸付収入	1,030,320	政策費	14,468,220
生産物売払収入	4,777,497	政策調整費	14,468,220
総務受託事業収入	12,073,220	農業費	198,104,416
農林水産業受託事業収入	33,008,000	農業改良普及費	9,826,307
農林水産業負担交付収入	6,000	農業振興費	2,429,829
農林水産業立替収入	139,498	植物防疫費	5,842,448
雑入	12,046	農業技術センター費	180,005,832
		国際交流費	654,384
		国際交流推進費	654,384
		自然環境保全・再生事業費	500,000
		自然保護費	500,000
計	51,597,065	計	313,027,541

業務の概要

[企画経営部・研究企画担当]

1 農林水産系試験研究機関の研究調整事務

(1) 環境農政局農林水産系試験研究技術連絡会議試験研究成果検討部会の開催

試験研究結果を総合的に検討・判断し、重点的に伝達利用すべき成果を選択するとともに、その具体的な利用方法を検討した。

分科会名	開催日	開催場所
農業（普通作）	H27. 4. 9	農業技術センター
農業（野菜）	H27. 4.21	農業技術センター
農業（果樹）	H27. 4.22	農業技術センター
農業（生産環境）	H27. 4.23	農業技術センター
農業（三浦半島野菜）	H27. 6. 8	三浦半島地区事務所
農業（カンキツ・キウイフルーツ）	H27. 5.25	足柄地区事務所研究課
農業（茶）	H27. 6.11	農業技術センター
農業（花き・観賞樹）	H27. 7. 1	農業技術センター
農業（野菜（秋））	H27.11.18	農業技術センター
畜産	H27. 5.22	畜産技術センター
水産（相模湾、内水面含む）	H27. 8.28	水産技術センター
森林	-	自然環境保全センター

(2) 農林水産技術会議の開催

地域特性を活かした農林水産業の振興に必要な研究開発の充実を図るため、研究目標の設定や研究成果の中間評価等について、農林漁業者や学識経験者等から意見を得るため、次のとおり会議を開催した。

ア 研究課題設定部会開催実績

担当研究所	開催期日	開催場所	検討課題	委員
農業技術センター	H28. 1.22	農業技術センター	農林水産関係試験研究推進構想（農業の部）	明治大学教授 日本大学教授 神奈川県農業協同組合中央会 農政営農部次長 神奈川県経営士協会 理事 2名
水産技術センター	H27.11.30	相模湾試験場	農林水産関係試験研究推進構想（水産業の部）	東京海洋大学 客員教授 神奈川県漁業協同組合連合会 会長
畜産技術センター	H28. 2.26	畜産技術センター	地球環境に優しいエネルギー利用技術の開発	（一財）畜産環境整備機構畜産環境技術研究所 研究統括監 （研法）農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所 主任研究員

注： は学識経験者、 は実務者

イ 研究成果評価部会開催実績

担当研究所	開催期日	開催場所	検討課題	委員
畜産技術センター	H28. 3.10	畜産技術センター	地域資源を活用した飼養技術の確立	日本大学 准教授 (一社)神奈川県畜産会 家畜衛生部長
水産技術センター	H28. 2. 9	横浜市漁業協同組合柴支所	東京湾漁業環境総合調査	(研法)環境研究所 環境リスク研究センター室長 東京湾機船小型底びき網漁業者協議会 会長
自然環境保全センター	H27. 6.19 H27. 6. 3 H28. 2.17	東京都品川区西五反田 千葉県我孫子市 自然活動保全センター	水源林の整備が森林生態系に及ぼす効果把握のうち鳥類群集の調査・解析方法について	(一財)日本野鳥の会 会員 2名 山科鳥類研究所 研究員 神奈川県公園協会 会員

注: は学識経験者、 は実務者

(3) 農林水産関係試験研究推進構想の改定

平成 28 年度から 5 年間の農業技術センターにおける試験研究の基本姿勢を示すものとして「農林水産関係試験研究推進構想(農業の部)」を改定した。本構想では「新鮮で安全・安心な農産物の安定供給と地産地消の推進」、「多様な担い手の育成・確保」、「農業の有する多面的機能の発揮と循環型社会への貢献」の 3 つの研究開発の方向を定め、それぞれの方向に沿って「地産地消を推進するための技術開発」、「農産物の生産段階における安全・安心を確保するための技術開発」、「農業経営の高度化と安定化を促進するための技術開発」、「多様な担い手を育成・確保するための技術開発」、「未利用資源を有効活用する技術開発」及び「環境に調和する農業を推進するための技術開発」の 6 つの研究目標を設定した。

(4) 平成28年度試験研究課題の調整

環境農政局農林水産系試験研究機関の平成28年度試験研究課題の設定に当たり、照会各関係機関・団体(111機関)から提起された要研究問題の総数は、92件であった。

この要研究問題は、試験研究企画調整会議等を通じて各センターに提示し、その対応について調整・検討を行った。その結果、最終的な対応状況については、新規課題及び既存課題の中で対応するもの75件(68%)、継続して検討するもの7件(6%)、既存成果や普及指導機関で対応できるもの11件(10%)、調査指導に協力するもの12件(11%)、実施不可のもの5件(5%)となった(課題により、対応方法が複数存在する)。

なお、各センターで調整・検討された試験研究課題(案)については、環境農政局農林水産系技術連絡会議等で行政機関や研究所間での調整を図った。

(5) 試験研究連絡推進事務

試験研究機関相互の連携を図るとともに、行政・普及関係者に対し試験研究の実施状況の理解を得るため、農林水産系試験研究機関で実施する試験研究計画を一括とりまとめ、「平成27年度農林水産関係試験研究計画書」として作成し、ホームページで公開した。

(6) 実用化研究成果広報事業

農林水産関係試験研究機関が実施した試験研究結果のうち、平成26年度の成績の中から技術連絡会議成果検討部会において選定された試験研究成果の抄録及び全文を農林水産情報システム

(研究成果情報)を通じて、検索利用が行えるようにした。

平成26年度分野別成果課題数

分 野	課 題 数		
	成果	成果	計
経営・経済・地域計画	0	2	2
流通・品質・消費動向・食の安全	1	1	2
機械・施設	0	0	0
栽培法全般	4	0	4
病理・昆虫・農薬・薬品・衛生	0	3	3
土壌肥料・資源リサイクル・バイオマス	0	4	4
飼養管理・生理生態	12	13	25
環境保全・災害・公害	4	4	8
漁法技術	0	0	0
遺伝資源	0	1	1
新品種・系統育成	0	0	0
資源管理、資源増殖	0	2	2
情報科学	1	0	1
その他	0	0	0
合計	22	30	52

*成果の種類

成果 : 普及奨励事項(直ちに普及指導、行政施策に反映できる成果)

成果 : 指導・研究に有効な情報(主に先端技術及び基礎分野からの知見であり、指導、研究に参考となる成果)

2 試験研究企画調整

(1) 国庫助成研究、共同研究の推進事務

効率的な試験研究を推進するため、国や都県研究機関等と調整し、公募型研究事業に参画した。

研究を活性化させ、研究成果を上げる上で、産・学・公の連携が極めて重要となっている。このため、役割分担を明確化した共同研究を積極的に推進した。

ア 共同研究実施状況(受託)

区分	研究課題名	共同研究機関	備考
農水省プロジェクト	被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究(ぼろたん)(H23-27)	(国研)果樹研究所 他	
	持続的な果樹経営を可能とする生産技術の実証研究(福島果樹)(H24-28)	福島県農業総合センター 他	
	農業用アシストスーツの現地実証試験(研究開発)(H26-27)	和歌山大学 他	
	省力型樹形を基盤とする果樹の省力・軽労型生産技術体系の実証(H26-27)	(国研)果樹研究所 他	
	生産コストの削減に向けた有機質資材の活用技術の開発(H27-31)	(国研)中央農業総合研究センター 他	
	実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発(局所加温)(H27-31)	(国研)花き研究所 他	
その他	農地土壌温室ガス排出量算定基礎調査事業(H27-30)	(国研)農業環境技術研究所 他	
	農林水産業におけるロボット技術導入実証事業(大規模実証)(H26-27)	和歌山大学、(株)ニッカリ 他	
	〇細胞膜脂質の過酸化分解系の網羅的解析に基づく青果物鮮度アセスメントシステムの確立(H25-27)	岐阜大学 他	

イ 共同研究実施状況（受託以外）

区分	研究課題名	共同研究機関	備考
大学等	ナタネ完全長発現遺伝子群（完全長cDNAライブラリー）の作成（H22-27）	(独)理化学研究所	県単研究
	農工商連携モデルを基盤とした都市地域における完全人工光型植物工場研究拠点の形成（H25-30）	明治大学	
	圃場廃棄物の水熱分解処理液肥を用いた土壌還元消毒技術開発（H26-27）	明治大学	
	川崎市におけるのらぼう菜の品質特性解明と栽培技術確立（H27-30）	川崎市、明治大学	
	神奈川県における園芸作物の未記録病害等の鯨飲究明と対策（H27-30）	法政大学	
民間	園芸施設における簡易な太陽光発電の活用(H25-27)	日立造船株式会社	
その他	ニュートリゲノミクス手法を基盤とする食の機能性・安全性にかかる評価センター機能の構築を志向した県内産農作物等によるモデル研究(H23-27)	衛生研究所 他	

注：研究課題名に の付してあるのは、共同研究契約（委託契約含む）を締結したものの。

(2)試験研究の推進事務

政策局政策部科学技術・大学連携課が予算化した神奈川重点実用化研究事業を推進した。

研究課題名	共同研究機関	備考
免疫療法の事前評価系の構築と低アレルギー性食品の評価法の確立（H27-28）	衛生研究所	県単研究
地下水熱エネルギーの実態解明及び地下水熱による施設環境制御に関する研究（H25-27）	温泉地学研究所	

3 人材育成

(1)研究人材活性化対策事業

ア 研究推進支援研修

プロジェクト研究等の推進の中で、外部有識者の助言を得ることにより、研究管理能力の向上を図った。

研究機関	課題名	研修責任者
農業技術センター	地球温暖化対策における土壌の役割	生産環境部・土壌環境研究課
	農産物直売所の設置による地域経済効果の測定手法の習得	企画経営部・経営情報担当
水産技術センター	漁業水産現場における防災・省力化に資するロボット化等の先端技術について	相模湾試験場・主任研究員
畜産技術センター	畜舎臭気とエアロゾル拡散抑制技術について	企画指導部・企画研究課
自然環境保全センター	森林の生物多様性に及ぼすシカの影響について	研究企画部・研究連携課

イ 研究高度化研修

今後充実を図る研究分野の研究能力の向上を図るため、大学及び国公立研究機関等に研究職員を派遣し、その施設・設備等を利用した研修を実施することにより、研究人材を育成した。

受講者所属	研修課題	時期・期間	研修場所
農業技術センター 生産技術部・1名	環境制御技術を活用した トマト栽培に関する研究	H28.2.1 -3.11	(独)農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所

(2) その他研修

ア 農林水産関係研修

農林水産技術会議が農林水産関係試験研究機関の研究員を対象に、最新の施策・研究動向、知財関係に関する諸制度・状況への理解を深めるとともに、自己能力開発を目的に実施している研修に研究員を派遣した。

研修課題	所属・職・氏名	時期・期間	研修場所
農林水産関係 若手研究者研修	生産環境部病害虫研究課 ・ 1名	H27.7.8-10 3日間	農林水産技術会議事務局 筑波事務所
農林水産関係 中堅研究者研修	生産環境部土壌環境研究課 ・ 1名	H27.12.2-4 3日間	農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター

イ 研究新任者研修

新しく研究職についての職員を対象に、農業技術センターの概要、課題設定の方法、学会活動、研究方法等について研修を実施した。

実施日	受講者
第1回 平成27年 7月14日	生産技術部・ 3名
第2回 平成27年12月14日	生産環境部・ 1名
第3回 平成28年 3月1日	足柄地区事務所・ 1名

4 研究成果等広報事業

(1) 農業技術センターニュース

業務の現況を県民に広報するため、平成7年度から発行している。内容は研究成果、研究実施状況、成果の現地普及状況などで、平成27年度の掲載テーマは、69ページに記載。発行はA4版、4ページ、年2回、部数4,000部、配布先は表のとおり。

農業技術センターニュースの配布先

配布先	部数
県関係機関	600
市町村・他県・国・独立行政法人等	158
農業関係団体	2,038
消費者（県政総合センター県民課窓口等）	100
見学者用	1,104
計	各4,000

(2) 記者連絡会

県政記者クラブや平塚記者クラブ等へ行事や普及活動について資料送付を行った。発表内容69ページに記載。

(3) 研究成果等の展示

所内のロビー等に写真入りの研究成果の説明パネルを展示するとともに、花菜ガーデンでは研究成果物の展示を行った。詳細は70～72ページに記載。また、農林水産省アグリビジネス創出フェア2015、かながわ科学技術フェア等のイベントに参加し、研究成果の展示を行った。

(4) 公開イベント

文部科学省が全国的に推進する科学技術週間や、県科学技術・大学連携課による子供を対象とした「かながわサイエンスサマー」に参加した。また、一般県民向けの「研究成果発表会」をかながわ県民センターで開催した。詳細は72～73ページに記載。

(5) ホームページの運営管理

地区事務所も含めた農業技術センターのホームページを運営した。平成27年度のインターネットホームページのアクセス件数は、約223万件であった。

5 図書資料管理事業

(1)平成27年度中に受け入れ、整理した図書・資料

当所の資料室では、受け入れた図書・資料をア：単行書、イ：雑誌（逐次刊行物）、ウ：簡易資料（それ以外の広報紙、リーフレット等）に分類して整理している。平成27年度に受け入れ、図書システムに登録した実績は下表のとおりであった。

ア 単行書

分類名	購入図書数	寄贈図書数	合計(冊)
000 総記	1	0	1
300 社会科学	5	1	6
400 自然科学	11	2	13
500 技術	3	0	3
610 農業	37	0	37
620 園芸	18	1	19
640 畜産	0	0	0
650 林業	0	0	0
670 商業	0	0	0
合計	75	4	79

イ 雑誌(逐次刊行物)

分類名	購入図書数	寄贈図書数	合計(冊)
研究報告、紀要、学会誌等	97	157	254
試験成績、成果資料等	-	73	73
業務年報、事業報告等	-	42	42
図書月報、刊行物目録等	-	0	0
統計、統計年報等	-	35	35
上記以外の一般図書	109	233	342
合計	206	540	922

ウ 簡易資料

簡易資料は、図書システムには登録せず、130種ほどを受け入れた。

(2)サービス

平成27年度の図書管理関連のサービス件数は次のとおりであった。

区 分	件 数
ア 職員への貸出	62冊
イ 県立川崎図書館等からの借入	3冊

[企画経営部・普及企画担当]

1 普及活動の企画・調整

農業技術センター普及指導部・地区事務所及び畜産技術センターの普及活動の企画調整と連絡調整を行った。

(1)平成27年度普及活動の評価及び平成28年度普及指導計画策定のための会議の開催

ア 平成27年度普及指導計画進捗状況検討会

9月下旬から10月上旬に普及指導部、各地区事務所、畜産技術センターの平成27年度の普及指導活動について進捗状況の検討を実施した。(6回)

イ 平成28年度普及指導計画策定検討会(平成27年度評価検討を含む)

3月上旬に普及指導部、各地区事務所、畜産技術センターの平成27年度の普及指導活動の評価並びに平成28年度普及指導計画についての検討を実施した。(6回)

(2)普及事業推進のための会議の開催

開催日	場 所	内 容
H27. 7.13	農業技術センター	農業革新支援専門員の活動について
H27. 7.21	農業技術センター	普及情報システム運営会議
H27. 7.30	平塚合同庁舎	協同農業普及事業の実施に関する方針の説明会
H27.10.20	平塚合同庁舎	農業担い手担当者会議 協同農業普及事業活動要領改正に係る検討会

2 普及指導員等研修

普及指導員等の資質向上を目的に国等派遣研修、県外研修、県内研修を実施した。

(1)国等派遣研修

研 修 名	受 講 者	実施日程	研修場所
階層別研修 新規普及職員研修	2名	H27. 9.29~10.2 H27. 9. 2~ 4	農林水産研修所つくば館
実務能力習得研修 新任普及指導員研修	2名 2名	H27.12. 2~ 4 H27. 7. 8~10	農林水産研修所つくば館
	1名	H27.10. 7~ 9	
新任農業革新支援専門員研修	1名	H27. 8.26~28	農林水産研修所つくば館
実務能力習得研修(マネジメントコース)	2名	H27.10.21~23	農林水産研修所つくば館
行政ニーズ対応研修 GAP導入支援研修	1名	H27. 6. 9~12	農林水産研修所つくば館
農作業安全研修	1名	H27. 9. 2~ 4	農林水産研修所つくば館
地球温暖化適応策研修	1名	H27. 6.24~26	農林水産研修所つくば館
鳥獣被害防止対策研修	1名	H27. 6. 2~ 5	農林水産研修所つくば館
環境保全型農業推進研修	1名	H28. 1.26~29	農林水産研修所つくば館
農村地域マネジメント研修	1名	H27. 2.16~19	農林水産研修所つくば館
担い手への農地集積・集約化支援研修	1名	H27.10. 7~ 9	農林水産研修所つくば館
マーケティング研修	1名	H28. 2.23~26	農林水産研修所つくば館
経営分析研修	1名	H27. 5.26~29	農林水産研修所つくば館
業務用需要対応研修	1名	H27.11.25~27	農林水産研修所つくば館
薬用作物産地形成支援研修	1名	H27. 7.29~31	農林水産研修所つくば館
新品種・新技術コディネーター研修 麦類	1名	H27.10. 7~ 9	共同通信会館
野菜	2名	H27. 9.14~16	共同通信会館
果樹	1名	H27.12. 9~11	三会堂ビル

(2)県内研修

研 修 名	受 講 者	実施日程	研修場所
新任者研修	3名	H27.6～H28.1 (12日)	かながわ農業アカデミ ー、企画経営部、生産 環境部、病害虫防除部 農業革新支援専門員等
OJT研修 栽培技術の体系的な習得 、普及方法	3名	H27.4～H28.3	各所属、農業革新支援 専門員等
野菜の技術強化研修(1)	1名	H27.4～H28.3	各所属、農業革新支援 専門員等
野菜の技術強化研修(2)	1名		
新技術研修 野菜	野菜担当普及指導員等全員	H27.5.25 H28.2.12 H28.3.2	横浜川崎地区事務所他 農業技術センター "
果樹	果樹担当普及指導員等全員	H27.5.8 H27.6.12 H27.7.6 H27.7.14 H27.9.30 H27.10.6 H27.11.10 H28.2.9	農業技術センター他 " " " " " " "
花き	花き担当普及指導員全員	H28.2.5 H28.2.9	農業技術センター "
加工労働	加工労働担当普及指導員等全員	H27.12.3 H28.3.24	農業技術センター "
普通作	作物担当普及指導員等全員	H27.12.4～5	農業技術センター
茶	茶担当普及指導員等全員	H27.11.27 H28.3.18	静岡県 足柄地区事務所
畜産	畜産担当普及指導員等全員	H27.5.22 H27.11.30 H28.2.9	畜産技術センター " "

3 普及情報センター機能

(1)現地情報の収集

普及指導部、地区事務所及び畜産技術センターより129事例を収集した。

(2)経営管理支援データベースシステムの管理

普及指導員が農業者の経営状態や問題点を的確かつ継続的に支援するために普及活動に関わる情報を一元管理・共有するシステム（経営管理支援データベースシステム）のバックアップを毎月行った。また、経営管理支援データベースシステムの後継として普及活動日誌ソフトを作成した。

4 団体指導

神奈川県農業経営士協会（会員503名）と国際農業研究会県本部（122名）並びに県央・津久井支部（会員23名）、湘南支部（会員41名）に対する支援を行った。

[企画経営部・経営情報担当]

1 担い手の多様化に対応した経営手法の研究

(1) 経済性標準指標作成と新技術に対する経営評価

ア 作物別・作型別経済性標準指標の策定

ラッキョウ漬けを製造する2経営体の聞き取り調査、作業時間調査を行った。次年度も継続して調査を行う。

当所育成のカンキツ‘湘南ゴールド’は普及が進み、栽培面積が確実に拡大しているため、経営的な目安の作成のため先進的に栽培に取り組む生産者の経営調査を行った。経済性指標を作成予定である。

イ 新技術に対する経営的評価

慣行の仕立て法と比較して安定生産性が高く、作業の省力化も期待できる新たな果樹の仕立てであるジョイントV字トレリス樹形の導入普及の資料として経営評価を行うため、ナシジョイントV字トレリス栽培の成園化に関する経済性データの収集を行った。引き続きデータ収集を行う予定である。

(2) 共同利用施設の利用実態の把握と将来方向の分析

ア 水稲共同利用施設の経営調査

県西地域の水田所有者を対象に実施した作業受委託に関する現状と意向、水田の耕作状況および今後の意向に関する調査結果をもとに今後の受託必要規模は約33haであると試算された。水稲作業の担い手は急激に減少している。水田の担い手として定年帰農者が期待されるため、定年後の10年間に十分活躍するための技術習得や地域定着支援、機械・設備の提供等の必要性を提言した。また、地域の田の担い手として有望視される経営体が、作業受託、借受等で規模拡大を図るために、機械の共同リースなどの支援策を提言した。また、意向調査の結果から、今後水田を維持するために重点的に対策を講じていく必要がある地域を抽出した。

(3) 地域農業の担い手構造変化の把握と将来方向の分析

ア センサスデータを用いた地域農業の構造変化の把握

2015年農林業センサスデータを用い、県内農地の利用集積状況の変化、担い手の動向を分析した。2010年から2015年にかけて、農地を集積して大規模化する経営と、経営規模を縮小する2極化がさらに進展し、離農・縮小の傾向はより強くなっている傾向を明らかにした。農業の担い手は、高齢化と後継者の減少傾向は進んでおり、県西部および県北部でより深刻であることが把握できた。県西部では定年退職者による就農の動きが認められたが、県北部では同様の動きが認められなかったこと、県中央地域においては新設農家の増加の動きが見られるなど、地域別の担い手の動向を把握することができた。引き続き、地域別の担い手の動向については分析を行っていく。

(4) 農産物大型直売所の設置による地域農業へ及ぼす効果の測定

ア 大型直売所の設置後の担い手や農地利用の変化の分析

直売所出荷による経営内容の変化等について農業者への聞き取り調査を行った。直売所での出荷者間の品目の競合による価格競争が生じており、収益確保のため出荷時期を前進、あるいは拡大させるための技術導入を行っていた。今後も引き続き経営モデル作成に向けての調査を行っていく。さらに、農林業センサスデータを用いて、直売所を中心として半径5km内外の農地、担い手の動向について比較を行ったところ、販売先や総農家数増減割合などで差が認められた。また、地域の食品製造業の販路としての活用程度についてパン製造業を事例に調査を行った。引き続き、地域農業、産業への効果については調査分析を行っていく。

イ 農産物直売所における消費者との交流を基盤とした新たな活性化方策の検討

直売所の来店者を実施したアンケート調査から、利用者の食生活や健康に関する意識を4タイプに分け、各タイプの特徴を明らかにした。4タイプのうち、新商品や健康に良いと言われ

る商品に関心は高いが、料理する時間はあまりかけたくないと考える「時短と商品関心型」と、料理が好きで健康に気を使っており、新商品への関心も高い「食と健康マルチ関心型」の2タイプに属する消費者が県内直売所に共通して多く、合わせて6割程度を占めていた。各タイプによって、直売所に求めていることは異なっており、調理時間に配慮したレシピの提供や、直売所の農産物を使った料理の試食等の実施など直売所の活性化につながる対策を提示することができた。

2 地産地消を推進する農畜産物の安定生産技術の開発

(1) 地産地消を推進する安定生産技術の確立

ア LEDを利用した農産物の性状把握

トマトとナシを用いて外観では分からない生理障害等について、近赤外光LEDを利用して果実の透過画像を撮影し、画像解析を行った。LEDの波長により視認性や画像の精細さが異なったこと、果実内部を確認することができた。目的とする生理障害の判定には近赤外LED光の照射方法の再検討と画像解析技術についての検討が必要である。

3 サービス・サポート業務

(1) ホームページによる農業情報配信及び管理

農林水産情報センターでは他の農林水産系研究所も含め11のサブシステムが稼働している。研究活動の成果を情報発信するため、「農林水産情報センター」ホームページを運営するとともに、情報配信に必要な所属間のネットワークシステムの保守管理、気象観測装置等、情報技術を用いた研究開発のための機器の整備、管理を行っている。

[生産技術部・野菜作物研究課]

1 都市農業における経営の安定強化のための調査研究

(1) 農業機械、システム等利用による省力化技術の開発

ア 農業機械等の改良による省力化技術の開発

(ア) アシストスーツの実証試験及び大規模実証試験

露地重量野菜産地である三浦半島の収穫運搬作業やライスセンターなどでの軽労化を図るため、農業用アシストスーツの作業導入のモデル作業試験の実証を行い、軽労効果等を明らかにした。また、大規模実証試験として、農家へのアンケートを行い、軽労効果や装着の問題などを明らかにした。

(イ) パン用小麦品種‘ゆめかおり’の開花期防除同時施肥技術の確立

‘ゆめかおり’の開花期追肥として、N成分量で2～4kgの範囲で行うと、追肥なしに比べて子実蛋白質含量を1%以上向上できた。また開花期に尿素溶液をN成分量で2～4kg葉面散布することにより、葉先に焼けが発生するが収量等への影響はなく、子実蛋白質含量も高くなるので、省力的な開花期追肥方法として利用可能であった。

イ 養液栽培における低コスト安定生産技術の開発

トマト養液栽培の抑制栽培で問題となっている心腐果は定植してから灌水開始時間までの時間が長いと発生が多くなることが明らかになった。

2 新規性・独自性に着目したかながわ特産品の開発

(1) 遺伝子解析手法を活用した新たなかながわ特産品の作出

ア 野菜の新品種育成

(ア) イチゴ

イチゴの早生、多収、大果、良食味、果実形質の優れる促成栽培用品種の育成を目指して交配し、形質を確認した。

(イ) トマト

外観はイタリアンタイプ、食感は日本人向けの調理・生食兼用F1品種‘湘南ポモロン・レッド’（濃桃果）及び‘湘南ポモロン・ゴールド’（橙黄果）に続く系統の選抜・採種を実施した。

(ウ) ナス

‘サラダ紫’の親系統ととげなし品種や様々な外観形質を有する品種と交雑し、育種年限を短縮するため胚珠培養および葯培養による倍加半数体を作成し、その形質を調査した。

(エ) ダイコン

当所で育成したダイコン白首総太り系統(花粉親)と横浜植木系統(種子親)のF1系統(‘湘白’)について、作期拡大のための播種期試験を実施した。

(オ) ネギ

県育成品種である‘湘南’、‘湘南一本’を素材とし、栽培期間の短縮による省力化及び圃場占有期間の短縮を目指し、短葉性の系統と交配や選抜を実施した。

(2) 地産地消を加速する品種の選定

ア 地産地消に適した新品種の導入

(ア) 優良種苗の特性検定試験

a 野菜品種の特性検定

(a) 生食用ナス

‘サラダ紫’他、市販の6品種を供試し、夏秋どり作型で品種比較試験を実施したところ、官能評価等の結果から、供試品種の中で‘サラダ紫’が生食用として適していた。

(b) リーキ

市販など10品種のリーキを供試し、品種比較試験を実施したところ、12月収穫までは収量性及び食味評価から‘ポワロ’（タキイ）が、1月収穫以降では耐寒性や収量性から‘ポ

トフ' が有望であることが明らかになった。

(c) ハクサイ

第66回全日本野菜品種審査会ハクサイ（秋まき冬どり）を開催した結果‘THA-468’（タキイ種苗（株））が立毛や収穫物で評価が高く有望であった。

b 畑作物品種の特性検定

(a) ラッカセイ優良品種選定試験

千葉県が育成した2系統の本県における適応性を検討した。収量・品質の結果から‘千葉P114号’をやや有望、‘千葉118号’は食味が劣ることから試験打ち切りとした。

(b) サツマイモ優良品種選定試験

(独) 作物研究所が育成した2系統の本県における適応性を検討した。対照品種の‘ベニアズマ’と比べ、‘関東141号’は収量が少なく試験打ち切りとした。また、‘関東143号’は食味がやや劣るが、貯蔵後の肉質が粉質とこれまでにない特性があり、再検討とした。

(イ) 奨励品種決定調査事業

a 水稲

奨励品種決定の予備試験として、うるち中生8品種・系統を調査し4系統を継続調査とした。前年度までに有望とした‘ほしじりし’について、収量を所内で検討したところ、対照品種の‘さとじまん’と比べて玄米重は同等であり、食味は優れるが、玄米外観品質は劣っていたため、調査打ち切りとした。

b 麦

小麦は、パン用は‘ユメシハウ’を標準品種として2品種・系統を供試し1系統を再検討とした。麺用は‘さとのそら’を標準品種として1系統を供試し、再検討とした。デュラム小麦は1系統を供試し、試験打ち切りとした。大麦は六条裸麦2系統を供試し、それぞれ特性が把握できたので試験終了とした。二条裸麦は1系統を供試し、プロアントシアニジンフリーの糯性系統であり、新規用途が期待されることから再検討とした。

c 種子生産

水稲奨励品種‘さとじまん’の原種を生産し、県米麦改良協会に有償で提供した。

(ウ) 野菜類育成系統評価検定試験

a キュウリ

(独) 野菜茶業研究所が育成した‘キュウリ安濃交6号’は植物体に毛じやトゲがなく、作業の快適性などを考慮すると有望であるが、標準品種の‘エクセレント節成2号’より、果実に生理障害が出るなど品質面に課題があった。

b 夏ネギ

(独) 野菜茶業研究所が育成した‘ネギ安濃交5号’は短葉性で収穫物の揃いが良く、収量性が高く標準品種の‘夏扇3号’より優れており、‘ネギ安濃交6号’は短葉性であるが、収量性が標準品種より低いため、標準品種と同等とした。また、両検定系統とも対照品種の‘ゆめわらべ’より優れているとした。

c トマト

(独) 野菜茶業研究所が育成した‘トマト安濃交8号’は糖度は高いが収量性が低いことから、標準品種の‘麗容’と同等、‘トマト安濃交9号’は収量性や良果率が高く、食味評価も同等だが、裂果が多いため、標準品種の‘麗容’と同等とした。

3 地産地消を推進する農畜産物の安定生産技術の開発

(1) 野菜類における安定生産技術の開発

ア 半促成キュウリにおける換気温度

半促成キュウリにおける、換気開始温度を午前中は慣行より下げて（23）炭酸ガス濃度の低下を防ぎ、午後は慣行より上げて（28）試験を行ったところ、慣行と比べて収量・品質への影響は‘エクセレント節成2号’では認められず、‘フリーダムハウス2号’は収量が減少した。

イ タマネギの春まき夏秋どり栽培の作型開発

‘湘南レッド’及び‘ルーベ’を供試して、3月まきで7～8月どりを検討したところ、球肥大の前に倒伏して、十分に肥大しなかった。

ウ コンパクトネギにおける密植栽培試験

コンパクトネギの高密度栽培について検討するため、‘湘南一本’を供試して、1畝2条植えを行い2条植えにおける最適栽植密度を検討したところ、慣行より収量性は高いが、葉鞘径は細くなった。その中で、収量性が高い栽植様式として、畝間90cm2条植え、条間10cmが有望であった。

(2) トマト湘南ポモロンの好適栽培技術の確立

ア トマト‘湘南ポモロン’の露地作型における栽培方法が生育と収量に及ぼす影響

‘湘南ポモロン’の着色不良果の発生を抑制するため、日よけ資材の被覆や側枝の伸長などによる品質・収量への影響を調査したところ、無摘心・側枝伸長区で上果収量が多く、また側枝伸長させることで着色不良果の発生を抑制できることが明らかになった。

イ トマト‘湘南ポモロン’の半促成作型における仕立て法が生育及び収量に及ぼす影響

‘湘南ポモロン’の半促成作型における仕立て方法が生育及び収量特性に及ぼす影響を調査したところ、‘湘南ポモロン・レッド’及び‘湘南ポモロン・ゴールド’ともに2本仕立て栽培が1本仕立て栽培と比較して総収量、上果収量及び上果率が高く、‘湘南ポモロン・レッド’では単位面積当たりの総収量、上果収量も2本仕立ての方が高かった。

(3) 養液栽培による低コスト安定生産技術の開発

ア かん水方法がトマト水疱症発生に及ぼす影響

トマトのセル成形苗へのかん水方法が水疱症発生に及ぼす影響を調べたところ、底面かん水で水疱症が多発することが明らかになった。培土の土壤水分が低い乾燥状態からかん水を行う場合、底面かん水より上面からのかん水の方が水疱症の発生程度が抑えられた。

(4) 普通作物における安定生産技術の開発

ア 水稲

(ア) 水稲の高温障害回避技術

高温期における玄米品質の低下を避けるため、後期重点型の肥培管理と疎植栽培の組み合わせによる栽培法について検討した。本年度は日照不足などの条件により、後期重点型の試験区で未熟粒や着色粒が多いなどの問題があったため、次年度以降も検討する予定とした。

(イ) 新導入品種の安定生産技術

新しい水稲奨励品種‘はるみ’の施肥量を検討したところ、後期重点型施肥区は標準と比較して登熟歩合が高く、玄米重が重く、収量性は優れていたが、未熟粒の発生が高かった。本年度は日照量が少ない条件下であり、追肥時期も考慮して検討する予定とした。

イ 麦類

(ア) 新導入品種の安定生産技術

a 麦類

平成25年度に奨励品種に採用された麦類新品種‘さとのそら’、‘ゆめかおり’、‘カシマゴール’の出穂期及び成熟期の予測技術を検討したところ、3月上旬～4月上旬の主稈長または幼穂長を計測することによって比較的高い精度で予測できることが明らかになった。

b マメ類

本県の地域在来大豆系統の‘津久井在来’の適正な播種期を明らかにするため、播種期と開花期、子実重の関係を調査したところ、6～8月の播種では気温や天候等に関わらず、播種日から開花期を比較的高い精度で予測することができた。また、収量性を考慮すると6月下旬から7月上旬が播種適期と考えられた。

6 施設野菜や畜舎管理における斬新な環境制御技術や再生可能エネルギー利用技術の開発

(1)施設園芸における環境制御技術の開発

ア 中小規模ハウスを対象とした複合エコ環境制御技術の確立

イチゴ高設栽培において、内気温設定を通常より3℃低下させ、局所加温を行うと、慣行より投入エネルギーは少なく、収量は増加し、種浮き果などの障害果が減少することを明らかにした。

イ 再生可能エネルギーの利用技術の開発

地下水熱を用いてイチゴ局所環境制御を行ったところ、12月および2月に収量を高める効果を認めた。

7 病害虫防除・予察技術の開発及び改善

(1)かながわ特産品などの生産に必要な農薬の実用化に関する試験研究

ア 新除草剤及び植物調節剤実用化試験

新植物調節剤3剤を検討したが、発根促進効果は不明確であった。新除草剤6剤について除草効果、薬害等を確認した。

8 サービス・サポート業務

(1)優良種苗のウイルスフリー苗の提供

ア サツマイモ

‘クリマサリ’のウイルスフリー苗をJA湘南・大野支所に有償で提供した。なお、次年度以降、メリクロンの原苗の維持は生産環境部で行う。

(2)本県育成品種の維持・増殖・普及

ア 野菜

本県育成の赤タマネギ品種‘早生湘南レッド’及び‘湘南レッド’、‘湘南極早生’、‘二宮丸’、ネギ品種‘湘南一本’、サトイモ品種‘神農総研1号’他19品種・系統、イチゴ58品種・系統、ワケギ13系統、赤シソを維持・増殖した。

また、‘早生湘南レッド’の原種種子生産を行うとともに、‘湘南レッド’のH28年度採種用母球を生産した。

イ 落花生

落花生品種‘改良半立’原種を生産し、相州落花生協議会に有償で提供した。

ウ ナス

本県育成のナス品種‘サラダ紫’の種子を神奈川県種苗協同組合に有償で提供した。

[生産技術部・果樹花き研究課]

1 新規性・独自性に着目した かながわ特産品の開発

(1) 遺伝子解析手法を活用した新たなかながわ特産品の作出

ア 果樹の新品種育成

(ア)ウメ

6-1は連年結実が安定しており、「南高」、「梅郷」、「十郎」と交雑親和性であると考えられた。

イ 果樹の地域系統適応性検定試験による優良系統の選出

(ア)ナシ

第9回地域系統適応性検定試験のための育苗を行った。

(イ)ブドウ

供試した3系統の果房特性が明らかとなり、安芸津28号の果色は赤系だが果房内での着色が不揃い、安芸津29号は黄白色でマスカットの香りが認められたが収穫後に脱粒しやすく、安芸津30号は花穂の着生が少なく開花前から花ぶるいが多く疎着の房が多かった。

(ウ)カキ

第13回地域系統適応性検定試験のための育苗を行った。

(E)ウメ

2系統の果実調査を実施し、和歌山2号、和歌山3号とも収穫期は南高よりも遅く、果実重は小さかった。

ウ 花き観賞樹の新品種育成

(ア)バラ

生産性の高い台木の育成を目的として、オドラータとナタールブリーダー間で交配を行い得られた2系統および既存台木品種を交配し、トゲの発生が少なく、節間長が長く、生育が良好な6個体を選抜し、生産性の検討を行った。

(イ)スイートピー

神奈川県オリジナル品種の育成を目的とし、新規性を有する花色を持つ系統の選抜・固定を行った。また、3月の気温が上昇してきているが、そのような下でも高品質の切り花生産を行えることを目的とし、耐暑性を有する系統の選抜・固定を行った。

(ウ)ハナモモ

2008年から交配・養成したハナモモの開花調査を行った結果、75個体が開花し、「矢口」よりも開花時期が早かったものは26個体であった。比較的育種目標に近い6個体を優良系統として選抜するとともに、交配を継続して行った。

エ 花き・観賞樹の品種特性検定

(ア)花き品種の特性検定

カーネーション(スプレータイプ17品種、スタンダードタイプ34品種)について、現地導入の基礎資料とするため、特性を調査した。また花壇苗について、パンジー・ビオラ17品種の栽培比較を行った。

(イ)観賞樹の特性検定

当所育成品種のアオキ「湘南ひこぼし」「湘南おりひめ」およびサルスベリ「ディアルージュ」等6品種について、耐潮性を調査した。

2 新鮮で安全な農畜産物を安定して提供するための技術開発

(1) 地産地消を推進する安定生産技術の確立

ア 直売等に適した花き・観賞樹の安定生産技術の開発

(ア)直売所出荷に適した花きの検索と栽培技術の確立

無加温栽培で切り花用キンセンカを3月彼岸時期に出荷するために、無加温ハウス内でトンネル被覆処理を行ったところ、「オレンジスター」においては採花時期が早まり十分な切り花長が確保された。

(1) 切り花類の効率的な栽培技術の開発

マイクロアスターは幼苗期に青色LEDを照射することにより開花期が促進するが品種により効果が異なるため‘ステラレッド’他3品種を用い生産農家にて現地実証試験を行った。

イ 消費者ニーズに合致した果樹有望品種の安定生産技術の確立

(ア) 本県育成ナシ新品種の安定生産技術の確立

‘香麗’、‘なつみず’は新梢を弱めに切り戻すことにより、花芽着生の多い側枝を養成できる。

長めの1年生苗であれば、従来より1年早く定植とジョイントが可能である垣根状ジョイント仕立てを、‘香麗’‘なつみず’で実施したところ、6年生樹で‘香麗’1646kg/10a、‘なつみず’2219kg/10aの収量を得た。

穂木分譲依頼のあった全国21場所のうち、‘香麗’は12県で結実し、収穫期の平均は8/1~8/9、平均果実重は391g、平均糖度は12.4%であった。‘なつみず’は13県で結実し、収穫の平均は8/4~8/21、平均果実重は502g、平均糖度は12.8%であった。

(イ) 本県育成ウメ新品種の安定生産技術の確立

5年生‘十郎小町’ジョイント樹で498kg/10a、4年生‘虎子姫’ジョイント樹で50kg/10aの収量が得られた。

(ウ) 直売向けブドウ新品種の安定生産技術の確立

‘シャインマスカット’は着房節葉に尿素500倍液を散布した結果、果粒肥大を促進させるのに有効であった。

(I) 直売向けカキ有望品種の安定生産技術の確立

‘太秋’への夏肥の効果を検討したところ、夏肥施用により、雌花の着生数が多くなり、雄花の着生数が少なくなった。葉果比を検討したところ、収量、果実重、翌年の結果母枝を考慮すると、40:1が優れていた。

(2) 樹体ジョイント仕立てを活用した果樹・枝物の安定生産技術の確立

ア 樹体ジョイント仕立てによる神奈川ナシ産地の持続的発展技術の開発

(ア) ナシ樹体ジョイント仕立ての栽培優位性の検証

樹齢20年を経過した‘幸水’ジョイント仕立て樹は、目標収量3,000kg/10aに対して3390kgの果実が収穫された。平均果実重は394g、果実糖度は12.8%であった。

(イ) ナシ樹体ジョイント仕立て超省力栽培システムの開発

ジョイント新樹形 JV-トレリス の収量は、7年生樹(着果3年目)3,077kg/10a得られたが、樹列間隔が従来の平棚ジョイント栽培に対して広く設定しているため10a当たりの収量は少ない。果実品質の特徴としては慣行栽培よりもバラツキが少なく、着果位置に係わらず品質の揃いが良い。労働時間短縮と軽労化については、せん定および柵付け作業に関して慣行の38%など、各種作業で大幅な省力効果が認められ、作業姿勢については首を後ろに曲げた上向き姿勢や両腕が肩の高さか上にある姿勢が減少した。

(3) ジョイント栽培によるクリ‘ぼろたん’の省力・多収生産及び加工技術の開発

ア クリ‘ぼろたん’の安定生産及び環境負荷低減技術の開発

(ア) クリ‘ぼろたん’のジョイント栽培による早期収穫の検討

4年生樹の収量は、ジョイント・無せん定区が収量255.3kg/10aと最も多く、慣行立ち木仕立て区の50.8kg/10aを大きく上回った。

(イ) ジョイント樹形に合わせた農薬散布削減技術の確立

くり‘ぼろたん’のジョイント樹形では散布の必要のない上部のノズルを閉じることにより慣行散布量を約33%削減することが可能になると考えられた。

(4) 放射性物質汚染地区におけるナシ産地の再生技術の実証研究

ア 新品種を活用したジョイント樹形による早期成園化技術の開発

(ア) 収穫適期判定のための果実表面色カラーチャートの作成

神奈川県産‘香麗’で作成した試作カラーチャートを福島県実証ほで収穫した‘香麗’に

適用したところ、熟度を的確に判定できていると思われた。

(1) ジョイント樹形導入による剪定作業の省力・簡易化技術の確立

前年環状剥皮によって発生した短果枝にジベレリンペーストを塗布することによって、十分な長さの新梢を得ることができた。また、秋期せん定および簡結バンド誘引を利用することにより、冬季のせん定等の作業時間を2割以上削減することが可能であった。

(ウ) 福島県におけるジョイント樹形の栽培実証

ソーラーパネルを用いた簡易な自動かん水装置を用いて育苗試験を行った結果、かん水による新梢生育促進効果が認められた。

福島県福島市での、ジョイント仕立てによる実証ほど、定植2年目の部分について初結実をさせたところ、香麗'477kg/10a、'あきづき'817kg/10aの高い初期収量を得た。

(5) 省力樹形を基盤とする果樹の省力・軽労型生産技術体系の実証

ア ジョイント栽培における省力・軽労型生産技術の体系化及び実証

(ア) 自動走行作業台車活用技術の検討

自動走行車を利用した無人人工受粉を行ったところ、作業時間はラタッチを使用した慣行法に対して80%削減され、花粉使用量も60%削減されたが、結実率に関してはやや低下する傾向が見られた。

自動走行車を利用した収穫作業は、慣行の運搬車利用に対して12~27%削減された。

(イ) 自動走行作業台車を活用したカキジョイント栽培の無人防除技術の確立

カキ等の垣根状ジョイント樹形に対応した自動走行無人防除機として、自動走行作業台車ヘラジコン動噴とタンクをカートに搭載し、ブームノズルを荷台後部に牽引した形式の防除機を試作し、カキジョイント樹形における散布試験で、散布量を128L/10aに削減した散布条件で、目標とする葉への平均付着面積率70%を達成した。

ナシ平棚ジョイント樹形に対応した自動走行無人防除機として、自動走行作業台車ヘラジコン動噴とタンクをカートに搭載し、側枝向きに水平ブーム、主枝および側枝基部向きに斜めブームを配置し、到達性の高い噴口を使用することにより、散布量を271L/10aに削減した散布条件で、目標とする葉への平均付着面積率70%を達成した。

3 複合的なブナの衰退・枯死機構の解明

丹沢大山の犬越路の環境省モニタリングステーションに設置されたオープントップチャンバー(オゾン浄化区と非浄化区)を土盛りの有無によるブナの生育量と葉色、蒸散速度について調査したが、有意差は認められなかった。

4 施設園芸や畜舎管理における斬新な環境制御技術や再生可能エネルギー利用技術の開発

(1) 局所温度制御の高度化と適用作物の拡大

バラ株元加温技術を利用し、バラ苗生産における採穂に特化した作型の開発を行った。また、地下部加温装置を試作し接ぎ挿し苗生産における省エネルギー・低コスト化を試みた。

日没後変温管理による花壇苗生産の省エネルギー高品質生産技術の開発に取り組んでいる。また、バラのアーチング栽培で開発した株元加温システムの他作物への利用拡大を目的とし、ランキュラスにおける株元加温・冷却の効果について検討した。

5 サービス・サポート業務

(1) 有用遺伝資源の収集保存

ア 果樹

ナシ69品種・系統、ブドウ8種・系統、カキ21品種・系統、ウメ11品種・系統を維持管理した。

イ 花き・観賞樹

バラ97品種・系統、サルスベリ56品種・系統、サトザクラ51品種・系統、アオキ15品種等を維持保存した。この他フラワーセンターから移管した323種430系統を維持保存した。

(2) 本県育成品種の維持・増殖・普及

ア 果樹

ナシ「菊水」、 「新高」他8品種、ウメ2品種の原木を保存管理した。

ナシ「香麗」、 「なつみず」、ウメ「虎子姫」の販売用苗木の穂木を品種利用許諾先に供給した。

イ 花き・観賞樹

バラ「マリアージュシャルマン」他9品種、アマリリス「スカーレットニノミヤ」、ハナモモ「照手姫シリーズ」5品種、サルスベリ「ディアシリーズ」3品種、アオキ「湘南ひこぼし」、 「湘南おりひめ」を保存管理した。また、スイートピー「アルテミス」、 「湘南オリオン」、 「リップルシリーズ」3品種、「スプラッシュシリーズ」3品種及び「スイートシリーズ」2品種の種子を更新した。

[生産環境部]

1 環境にやさしい土壌管理技術の開発

(1) 精密土壌管理技術による低コスト施肥技術の開発

ア 野菜作におけるリン酸減肥技術の策定

(ア) 果柄汁液を利用したキュウリの栄養診断方法の検討

県内の施設キュウリにおけるリン酸減肥基準を策定するため、異なる種類の土壌でトルオーグリン酸濃度を変えて、キュウリをポット栽培し、植物体中のリン酸含有率、吸収量と土壌トルオーグリン酸濃度の相関、栽培中の果柄抽出液の水溶性リン酸含量との相関を調べた。

イ 施肥コスト節減対策技術の確立

(ア) 土壌の残存養分を考慮した新資材の利用法の検討

a 混合堆肥複合肥料(豚ふん堆肥配合)の連用試験

堆肥等有機物由来の肥料成分を適切に評価することにより、地域内肥料資源の有効かつ適正な利用方法を確立するため混合堆肥複合肥料(ペレット成型肥料：エコレット)のほ場への連用効果を調査した。

b 近接施肥による減肥方法の検討

キャベツ定植時の堆肥施用と近接施肥によるリン酸の減肥について検討したところ、慣行区と同等の収量が得られたが、リン酸肥料無施用区でも収量の低下は認められず、土壌中に残存するリン酸の吸収等が考えられた。

(イ) 植物の施肥反応を考慮した施肥法の検討

県内土壌のリン酸やカリの蓄積傾向やリン酸肥料やカリ肥料の高騰に対応するため、適正な施肥診断が望まれており、適正で効果的な施肥基準の提示が必要とされるため、コマツナ、チンゲンサイについて、リン酸の吸肥特性・反応性の種間差について調査した。

(ウ) 養分バランスを考慮した牛ふん堆肥の適正施用技術の開発

a 牛ふん堆肥ベースの混合堆肥複合肥料の試作及び特性調査

牛ふん堆肥と他の有機質資材とを組み合わせた混合堆肥複合肥料の製造のため、牛ふんを基に作成した堆肥(完熟)をベースに混合堆肥複合肥料を試作し、製品の物性を評価するとともに、試作した混合堆肥複合肥料の窒素及びリン酸の肥効特性を評価した。

b 各種牛ふん堆肥の混合堆肥複合肥料原料としての適性調査

混合堆肥複合肥料の製造に最適な牛ふん堆肥の性質を把握するために熟度別牛ふん堆肥を製造し、その加工特性、肥効特性を調査した。

(2) 土壌環境の変動要因解明と保全対策の確立

ア 適正施肥のための土壌環境モニタリング調査

(ア) 県内農耕地に設置した定点の土壌調査・肥培管理実態調査

県内農耕地の生産性の維持のため、県内約60地点に設定した農家圃場において、定期的に土壌調査を実施し、土壌環境の経時的変化や管理実態等を把握する。県内を4ブロックに分けたうち、今年度調査した第2ブロック(15地点)の土壌の理化学性は概ね良好であった。

(イ) 有機物連用試験(基準点試験)

一定の栽培条件下における地力の経時的変化の要因を把握することにより、今後の地力維持増強対策を明らかにするため、基準点(各種肥料調整連用区：キャベツ・スイートコーンを20作目)と基準点(各種有機質資材連用区：キャベツ・スイートコーンを2作目)を設置し、雌穂重、茎葉重、植物体(雌穂部、茎部、葉部)中の養分含有率及び養分吸収量、栽培後の土壌化学性等を調査し検討した。

(ウ) 県内土壌の重金属濃度実態調査

食品衛生法の玄米中のカドミウム濃度の基準改正、野菜について規格基準化の検討予定等、また、ヒ素の基準値等の見直しの動きがある。予め、県内の畑土壌のカドミウム等重金属濃度の状況と県内主要作目への影響を把握するために調査を行った。

(イ) 有機物の連用が硝酸性窒素等の化学物質の溶脱に及ぼす影響調査

緑肥の栽培及びそのすき込みが硝酸性窒素の溶脱に及ぼす影響を調査し、環境に対する負

荷の少ない施肥法を確立するため、各種緑肥すき込みによる窒素の放出について検討したところ、緑肥は栽培条件によってCN比が異なり、CN比からすき込み後の窒素発現を予想し、緑肥の窒素濃度含量は土壌中の無機態窒素含量から推定できる可能性を示唆した。

イ 地力保全対策等診断調査

(ア)地力保全対策診断調査

a 1液抽出法による土壌分析の確認試験

全農土壌分析センターの開発した1液抽出分析法は、全国の分析センターでの採用を検討中である。本法による交換性石灰分析値を補正した値と常法(ショーレンベルガー抽出)との比較と、差異の生じる要因について検討した。

(イ)80 16時間抽出による地力窒素評価法の県内土壌への適応性の検討

地力窒素の迅速な評価を行うため、中央農研Cで開発された可給態窒素の簡易判定法の県内土壌(普通畑)での適応性を検討したところ、県内土壌への適応性はあると考えられた。

(3)土壌由来温室効果ガス計測・抑制技術の実証

ア 県内農耕地土壌炭素等定点調査

地球温暖化防止にかかる温室効果ガスの吸収量を算定するための基礎資料となる土壌中の炭素蓄積の実態把握と、土壌の管理に伴う炭素の蓄積量の変化を把握するため、今年度は県内15地点の調査を実施した。

イ 県内農耕地土壌炭素等基準点調査

土壌の管理に伴う炭素の蓄積量の変化を把握するため、一定の条件下で長期的に管理されてきた又は管理されるほ場(所内有機連用ほ)において、土層の仮比重、全炭素、全窒素等を測定した。

2 地域資源の循環と有効利用を促進する技術の開発

(1)低塩類堆肥や機能性堆肥の生産・利用技術の開発

ア 有機物が持つ土壌生物性改善効果の検索と効果的施用技術の検討

(ア)有機物が持つ土壌生物性改善効果の検索

a PCR-DGGEによる土壌生物性評価の検討

緑肥の栽培や各種有機物施用がほ場の土壌生物性におよぼす影響を評価するため、有機物連用ほ場で継続的にPCR-DGGE法により土壌生物性を調査し、年間の変化をモニタリングするとともに微生物相の探索・評価に適切な時期を検討した。

イ 機能性堆肥の有効活用技術の検討

(ア)野菜残さ搾汁物等の花き培養土原料としての適用性の検討

培養土資材の品質や高価格等の問題から、これらを解決する代替培養土資材が求められている。そこで、新たに鉢物培土への利用も可能な堆肥として野菜くず残渣資材及びキャベツ外葉亜臨界水処理物について特性を調査した。

(2)地域内肥料資源の適正施用技術の確立

ア有機物由来の肥料成分の評価

(ア)有機物のリン酸・カリ肥効評価の検討と実証

a 各種溶液抽出リン酸量のリン酸肥効指標としての評価

有機性廃棄物を原料に、副資材や生産方法等の異なる各種の堆肥の流通が増加しており、堆肥中のリン酸、カリ成分を考慮した化学肥料減肥を行うために、堆肥のリン酸、カリの肥効特性の解明が求められている。今年度は各種溶液抽出リン酸含量の牛ふん堆肥リン酸肥効判定指標としての適応性を検討した。

(イ)有機物の形状の違いが肥効特性に及ぼす影響の検討

a 混合堆肥複合肥料(豚ふん堆肥配合)と原料施用の比較

近年、堆肥中肥料成分が上昇傾向にあり、堆肥中成分で化成肥料代替の必要が指摘されている。堆肥等有機物由来の肥料成分を適切に評価し、地域内肥料資源の有効かつ適正な利用方法を確認するため、ペレット成型の有無による肥効の違いを調査した。

b 混合堆肥複合肥料(牛ふん堆肥配合)の肥効特性評価

有機性廃棄物の堆肥化利用促進のため、家畜ふん等の有機性廃棄物の肥料成分の有効利用が求められている。近年、規格化された混合堆肥複合肥料(堆肥、化学肥料等配合のペレット成型肥料)の肥効特性を検討した。

3 担い手の多様化に対応する経営手法の研究

(1) 農業機械、システム等利用による省力化技術の開発

ア 養液栽培による低コスト安定生産技術の開発の開発

(ア) トマト抑制栽培における異なる培養液濃度が植物体に及ぼす影響

適正な作物管理を行うためには生体情報を的確に把握する必要がある。省力的かつ低コストな作物生体情報計測システムを開発するための基礎的データを取得するために、養液濃度を通常の1.5倍で栽培して、慣行栽培と植物体内の硝酸含有率や生育について比較し調査した。

4 農産物の差別化とブランド化を支える新品種の開発と特性の解明

(1) 遺伝子解析手法を活用した新たなかながわ特産品の作出

ア 農作物における遺伝子解析技術の開発

(ア) DNAマーカーの開発

a ダイコン‘湘白’F₁純度検定マーカー

県内農産物の差別化を図るため、品種のブランド保持や育成者権の保護のために品種同定を確実に行うことが求められている。多型性や再現性が高く操作も容易なマイクロサテライトマーカーを用いて、ダイコン‘湘白’のF₁純度検定に有効なDNAマーカーを開発した。

(イ) 果実の肉質形成機構の解明

a 貯蔵温度と品種の違いがトマトの果実肉質へ与える影響

果実における品質の決定には、大きさや形、色、香りなどの外的品質だけではなく、食べた時の歯ごたえや舌触りといった食感も非常に重要である。そこで、食品のテクスチャー測定に用いられるクリープメーターを使い解析を行った。

b 貯蔵温度と品種の違いがトマト果実の細胞壁分解酵素の活性に与える影響

食感の決定には果実細胞間の接着性が関わるとされ、細胞接着にはペクチン分子の架橋やアラビノース側鎖を介した多糖類ネットワークの形成が重要と考えられる。細胞壁において、アラビノースの加水分解に関与する α -アラビノフラノシダーゼに着目した。品種や貯蔵温度の違いと α -アラビノフラノシダーゼの関係を調査した。

c 貯蔵温度がトマト果実の細胞壁関連酵素に与える影響

実際の貯蔵温度での α -アラビノフラノシダーゼの働きを調査した。また、果実成熟時には α -アラビノフラノシダーゼ以外にも多くの細胞壁関連酵素が働くことから、これらの遺伝子発現解析を行い、貯蔵温度が及ぼす果実の肉質形成機構解明のための基礎データを得た。

(ウ) 属間交雑系統の作出と評価

a *Brassica rapa* L.と*Eruca sativa* Millとの属間交雑系統作出

消費ニーズに適合し新たな需要を創造するためコマツナとルッコラを属間交雑し、これまでにない機能性成分や風味を持つ新たな品種の育成を目的に、今年度はコマツナを種子親、ルッコラを花粉親とした属間交雑を行い、胚珠培養により5交雑組合せで13系統合計73株の交雑系統を得た。

b *Brassica rapa* L.と*Eruca sativa* Millとの属間交雑系統評価

コマツナとルッコラとの属間交雑個体の形態を調査した。また、GISH法によりコマツナおよびルッコラ由来の染色体が認められ、雑種であることが確認された。さらに、交雑個体は両種のイソチオシアネートおよびグルコシノレートを含んでいることを明らかにした。

イ 交雑防止基準確立試験

(ア) 在来品種の交雑確認調査

本県固有の在来品種であり、かながわブランド産品として生産・販売が進められているアブラナ科のらぼう菜と大山菜及びダイズの津久井在来について、遺伝子組換え作物との交雑の有無を調査したところ、交雑は認められなかった。

ウ 免疫療法の事前評価系の構築と低アレルギー性食品の評価法の確立

(ア)低アレルギー食品の簡易・高感度スクリーニング法の開発

衛生研究所との共同研究により、超高感度アレルギー試験法を応用した評価系により、アナフィラキシー予防に臨床・食生活の2側面からアプローチする。今年度は、各種農産物のアレルギー性を評価する上で、低アレルギー食品の簡易・高感度スクリーニングのためのタンパク質抽出方法の検討を行った。当所では、トマト、キウイフルーツ等の農産物試料の一般成分分析を行い、衛生研究所に提供した。

(2)県産農畜産物の品質特性・加工特性の解明と高付加価値化に関する研究

ア 県産農産物の品質特性の解明

(ア)品質特性の解明

a トマト‘湘南ポモロン・レッド’の品質特性

トマト‘湘南ポモロン’の作型の違いによる品質特性を明らかにすることを目的に調査を行い、‘湘南ポモロン・レッド’は、何れの作型においても、比重が高く、糖度、カロテン類、アミノ酸が高い傾向にあること、肉質、味ともに生食調理兼用の品質を備えていることを確認した。

b トマト‘湘南ポモロン・ゴールド’の品質特性

トマト‘湘南ポモロン’の作型の違いによる品質特性を明らかにすることを目的に調査を行い、‘湘南ポモロン・ゴールド’は、‘クックゴールド’と同等の品質を有し、作型により糖度、有機酸で違いがあることを明らかにした。

c ニンジンのカロテノイド含有量評価

農産物の有利販売のために、ニンジンのβ-カロテン含有量について評価したところ、カロテンを多く含むとされる‘ベータリッチ’は‘アロマレッド’と比較し有意にカロテン含有量が高いことを確認した。

(イ)加工適性評価及び加工品開発支援

a ダイコン‘湘白’の加工適性評価

ダイコン‘湘白’の品質特性・加工適性を明らかにするため、ツマ加工適性の評価を行い、ツマ加工適性があることを明らかにした。

b トマトジュースの品質評価

六次産業化ネットワーク事業により設立された進和学園の農産加工工場で、JA湘南、JAさがみ管内で生産されたトマトを原料として製造されたトマトジュースの品質評価を実施し、同等な市販品の中での位置づけを明らかにするため、糖度、糖組成、グルタミン酸及び物性を調査したところ、各種トマトジュース製品はそれぞれ特徴があることを明らかにした。

イ 県産農産物の品質保持方法の検討

(ア)エチレン感受阻害剤によるメロンの品質保持方法の検討

a アールスメロン

メロンは、収穫後一定期間の追熟を行って食するが、販売期間が短く生産、流通の障害となっているため、1-MCP処理について検討したところ‘アールスメロン’において、1-MCPくん蒸処理により追熟が抑制され、食べ頃となるまでの期間の数日程度の延長が認められ、貯蔵性向上効果が確認された。

b ホの二号

メロン‘ホの二号’において、1-MCPくん蒸処理により追熟が抑制され、食べ頃となるまでの期間の数日程度の延長が認められ、貯蔵性向上効果が確認された。

c メロン香気に与える影響

メロン‘アールスメロン’において、1-MCP処理により、香気成分の生成が抑制されることが認められた。

ウ 青果物鮮度アセスメントシステムの確立

(ア)施肥条件が品質保持に与える影響

a 窒素施用量がコマツナ品質に与える影響

農産物の鮮度を客観的に評価する方法を開発するため、栽培条件と鮮度保持の関連を解析

することを目的に、施肥条件の異なるコマツナの収穫後の品質保持状態、鮮度評価の指標となる成分の変動を調査したところ、異なる窒素肥料量で栽培したコマツナは、播種時期に係わらず、過剰施肥により生育が抑制傾向となり、体内窒素含有率やSPAD値が高くなる等いくつかのことが明らかになった。

b 窒素施用量がハウレンソウ品質に与える影響

施肥条件、収穫日の異なるハウレンソウの品質及び貯蔵による鮮度評価の指標となる成分の変動を調査したところ、異なる窒素肥料量で冬季に栽培したハウレンソウは、過剰施肥により生育は抑制傾向となり、体内窒素含有率やSPAD値が高くなるが、貯蔵中のアスコルビン酸含量の低下割合が大きくなることが明らかになった。

(1) 農産物の鮮度指標となる揮発性成分の検索

農産物の鮮度を客観的に評価する方法を開発するため、細胞膜脂質の過酸化分解系に注目し、その機序解明によって新たな鮮度保持指標を確立することを目的に、収穫後の農産物揮発性成分の消長が鮮度指標になりうるかを検討し、その検索を行ったところ、テルペン合成誘導物質等概ねターゲットとすべき物質群を特定できた。

5 病虫害の総合的管理技術(IPM)の開発

(1) 病虫害の診断同定および発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立

ア 診断・同定及び防除技術の確立

(ア) 病害及び虫害の診断・同定技術の開発

a 平成27年度の病虫害診断同定結果

診断依頼数は普通作4、野菜82、花き観賞樹62、その他5の計153件。3、4月にトマト茎えそ病(仮称)、5月にトマト黒点根腐病、7月にバジルべと病、11月にトマト黄化病が県内で初めて発生し、これらを同定した。5月にトマト‘CF桃太郎はるか’で葉かび病が発生し、本県初発生のレース2.9と同定された。

b 県内のコマツナ生産ほ場で発生した障害の原因究明

平成26年度に県内のコマツナで発生した3件の障害の原因を、*P. cannabina* pv. *alisale nsis*および*P. syringae* pv. *maculicola*と同定し、コマツナ黒斑細菌病(新称)とした。

(ウ) 難防除病虫害に対する防除法の確立

a ウメ枝枯症状の原因究明と防除対策の確立

県内で発生しているウメの枝枯症状の原因を*Monilinia laxa*と*M. fructicola*によるウメ灰星病と同定した。1年枝の枝枯発生率は‘十郎’が‘白加賀’より高く、品種間差があった。19都府県の聞き取り調査を行い、防除薬剤及び薬剤散布適期を検討した。また、翌年の伝染源となる枯れ枝の剪定時期について検討した。県内で収集した菌株の、チオファネートメチル剤、イプロジオン剤およびオキシポコナゾールフマル酸塩剤に対する薬剤感受性を検討したところ、いずれの薬剤に対しても感受性であった。

b ウメかいよう病の発生実態調査

ウメかいよう病の葉発病および果実発病について調査を行い、降水量や薬剤散布との関係について検討した。

c キュウリの主要害虫に対する総合防除体系の確立

抑制作型におけるタバココナジラミの防除には、スワルスキーカブリダニパック製剤よりポトル製剤が効果的であることが明らかになった。べと病に対してはキャプタン剤等での予防に加えて発生確認後直ちにべと病治療剤を散布することで対応可能であること、褐斑病に対しては耐病性品種を使用し、天敵に影響の少ないキャプタン剤等の散布で効果を確立した。

d 微酸性次亜塩素酸水のトマトうどんこ病に対する防除効果

トマトうどんこ病に対して、微酸性次亜塩素酸水の散布は対照の炭酸水素カリウム80%水溶剤と比較して効果は低く実用性はないことが明らかになった。

e イチゴ炭疽病の育苗中伝搬に対するウレタン製資材設置の影響

県内生産者が開発したウレタン製資材のイチゴ育苗中の炭疽病伝搬に対する影響を検証した。イチゴ育苗中のポット上面、プランター上面およびプランター設置地面へのウレタン資材の設置によるイチゴ炭疽病防除効果は認められなかった。

- f ワタアブラムシに対する薬剤感受性検定
所内のワタアブラムシに対するネオニコチノイド系殺虫剤の効果は高く、抵抗性の発達は認められなかったが、ペルメトリン乳剤の効果は低く、感受性の低下が認められた。
- g ミカンキイロアザミウマに対する薬剤感受性検定
ミカンキイロアザミウマ(所内トマト由来個体群および県内イチゴ由来個体群)に対して効果の高い薬剤はほとんど無く、薬剤だけに依存した防除は難しいと考えられた。
- h 高濃度二酸化炭素くん蒸処理のシクラメンへの影響
シクラメンに対する高濃度二酸化炭素くん蒸処理は、処理直後では影響は認められなかったが、処理後6日後には葉の黄化が認められた。現状の処理条件では高濃度二酸化炭素処理の利用は難しいと考えられた。
- i キャベツ栽培における育苗期灌注剤の処理時期の違いによるネギアザミウマへの防除効果
シアントラニリプロール水和剤は育苗初期に処理を行うことで育苗期と生育初期を同時防除することが可能だと考えられた。
- j 蛍光色素を用いた野外におけるヒメハナカメムシの移動の解明
ヒメハナカメムシはナスとズッキーニ間での移動を確認することができた。しかし、本虫はほ場内とほ場で頻りに個体が入れ替わっており、移動性が高いと推察された。
- k 市販赤色防虫ネットの改良(赤赤ネット)による微小害虫防除効果
市販赤色防虫ネットの縦糸を赤にした赤赤ネットはタバココナジラミおよびミカンキイロアザミウマに対する同じ目合いのネット資材に比較して高い防除効果を示すことが明らかとなった。

(I) 遺伝子診断技術の開発

- a スルホニルウレア系除草剤(SU剤)抵抗性オモダカの変異の交差抵抗性
県内で、SU剤抵抗性雑草の発生がオモダカ、コナギ、イヌホタルイで確認され、オモダカではアセト乳酸合成酵素(ALS)遺伝子の変異による作用点抵抗性(TSR)と、作用点抵抗性に起因しない非作用点抵抗性(NTSR)があることが近年わかっている。そこで、SU剤抵抗性オモダカの交差抵抗性検定を行ったところ、県内で確認された非作用点抵抗性バイオタイプは解毒代謝機能が向上する作用機構による可能性が示唆された。

イ 発生予察及び発生予察技術の開発

水稲・落葉果樹・野菜の病害虫防除を適確で経済的に行うため、調査実施基準に基づいて、県予察ほ場の病害虫発生調査及び予察灯、フェロモントラップ、黄色水盤等を用いた害虫発生調査を実施し、これらの発生要因の解析を行い、予察情報の作成に寄与した。

(2) かながわ特産品等の生産に必要な農薬の実用化に関する試験研究

ア 新農薬実用化試験

(ア) 病害虫に対する薬剤の防除効果試験

殺菌剤13剤、殺虫剤21剤について、トマト、キュウリ、ダイコン、ブロッコリー、ハクサイ、キャベツおよびコマツナ等非結球アブラナ科葉菜類の病害虫に対する防除効果及び作物に対する薬害の有無をほ場において検討し、本県作物栽培に有用な農薬の登録促進を行った。

(イ) マイナー作物に対する農薬登録の促進

- a ニンニクのアザミウマ類に対するアセタミプリド水溶剤(2000倍)の防除効果の検討
ニンニクのアザミウマ類に対するアセタミプリド水溶剤2000倍散布の防除効果および実用性について検討したところ、アセタミプリド水溶剤の2000倍散布は実用性が認められた。
- b アセタミプリド水溶剤2000倍散布のニンニクにおける作物残留
ニンニクにおいてアセタミプリド水溶剤2000倍150L/10a、7日間隔2回散布の処理1日後、3日後および7日後の収穫物における残留量を調査したところ、いずれも残留基準値以下であった。
- c ハコベのオオタバコガに対するペルメトリン乳剤(3000倍)の防除効果の検討
ハコベのオオタバコガについて、ペルメトリン乳剤3000倍散布の防除効果および実用性について検討したところ、ペルメトリン乳剤の3000倍散布は実用性が認められた。

(3) 化学合成農薬の使用を減らすための病害虫防除技術の開発

ア イチゴの主要害虫に対する総合防除体系の確立

イチゴにおいてダニ類天敵製剤の利用によりアザミウマ類等の防除が困難になっている。有色ネット、二酸化炭素利用、アザミウマ類に対する天敵製剤を組み合わせた防除効果を検証した。ハダニ類に対する炭酸ガス処理において、天敵カブリダニ製剤の導入時期・回数・種の検討がさらに必要であることが明らかとなった。また、アカメガシワクダアザミウマ製剤は、導入前からアザミウマ類(害虫種)の寄生率が高いと十分に効果が発揮できないことから、アザミウマ類(害虫種)の施設内への進入を減らす赤色防虫ネットと組み合わせることで、アザミウマ類の被害を軽減できることが明らかになった。

イ 食の安全・安心を確保するための環境に優しい土壌管理技術の開発

(ア) 亜臨界水処理液の原材料や処理条件が土壌還元消毒の効果に及ぼす影響の評価

ほ場残さの亜臨界水処理(水熱処理)液について、土壌還元消毒用資材としての利用方法を検討した。処理液は土壌還元消毒により菌密度低減効果を示したが、この菌密度低減効果は、原材料の作物残さの種類や処理濃度、亜臨界処理条件によって異なることが明らかとなった。亜臨界水処理液のほ場レベルでの土壌還元消毒効果について検討を試みたが、本年は地温が低かったため効果については評価できなかった。

(イ) 亜臨界水処理液の地力窒素の発現動態の解明

処理液により硝化が抑制される傾向は異なっており、原料や処理法により効果が異なることが示唆された。また、土壌還元消毒効果の異なる試料でT-C、CODに大きな差は認められなかった。

ウ 難防除微小害虫行動抑制技術体系の確立

(ア) 誘引・忌避体系の確立、実証

a トマトにおけるアセチル化グリセライド(AG)処理によるコナジラミ忌避効果

タバココナジラミに対しトマトにAG散布を3日間隔3回散布行う場合、高い防除効果が認められ、2回処理でも防除効果が認められた。

b トマトにおけるプロヒドロジャスモン液剤(PDJ)処理による忌避効果

トマトへのPDJ500倍希釈散布処理によりミカンキイロアザミウマに対し防除効果が認められたが、タバココナジラミ成虫に対してはその効果が認められないことが明らかとなった。

c キャベツのネギアザミウマに対するプロヒドロジャスモン液剤処理による忌避効果

寄生前のPDJ灌注および散布処理による忌避効果によって防除効果が得られた。また、すでにネギアザミウマの寄生が認められていても、有効薬剤との混和により長期的な防除効果が得られた。

6 サービス・サポート業務

(1) オープンラボラトリーの運営・管理

平成27年度は、農産加工オープンラボラトリーで、25回(目的外利用22回)、延べ72人(目的外利用66人)、生物学オープンラボラトリーで、54回(目的外利用54回)、延べ107人(目的外利用107人)、が利用した。利用内容は、農産加工では、県内で生産される農産物を原料とした特産加工品開発のための基礎的実験、品質改善・向上のための実験などが行われた。生物学では、茎頂培養が行われた。利用者は、県内農業者、農産物の加工、品質に関心のある一般県民等と多岐にわたった。

[普及指導部]

1 重点指導活動

生産技術の向上と農業経営の安定及び地域農業の振興を図るため、農業者や農業者組織等に対して指導活動を行った。

(1) 新たな農業経営を展開する農業者への支援

ア 新規参入を含め、新規就農者に対し、生産技術、農業経営に関する農業基礎セミナーを開催し、新たな農業経営者を育成した。特に新規参入者、参入法人に対しては、関係機関と連携し経営確立に向けた支援を行った。

イ 個々の農業経営を重視し、経営発展途上にある農業者に対し、経営ビジョンの策定に向けたステップアップセミナーを開催した。

ウ 経営の発展を目指す経営体に対し、経営ビジョンの実現に向け、外部の専門家の協力を得て経営改善計画の策定をするとともに、法人化や新たな商品開発から6次産業化等、個々の経営発展に向けて支援した。新たに法人化した経営体に対しては、経営確立に向けて新作目の導入や商品開発の支援を行った。

(2) 県民の需要に応じた農畜産物の安定生産に対する支援

ア 野菜では、イチゴ栽培において従来の二酸化炭素をより効果的に施用するため、統合環境制御技術の生産管理モデル作成のための調査を行った。育苗時の高温対策については、イチゴ産地全体の課題であるため、適正施肥や高温対策資材の効果的な使用方法を検討した。また施設キュウリの難防除病害虫対策に取り組み、生産安定を図った。中でも新病害である退緑黄化病に対しては、前年度に実施し効果があがった総合対策技術の導入をより一層進めた。

施設のトマト、キュウリ栽培とも生産性向上に向けて、炭酸ガスの適正施用等により光合成速度を向上させるため、地域に合った環境管理方法の紹介、現地調査や管理モデルの作成を行った。

イ 果樹では、高樹齢樹の改植、生産者高齢化や後継者不足が大きな課題であることから、ナシではジョイント仕立て導入ほ場での成園化の推進、ブドウでは平行整枝仕立ての普及を進めた。

ウ 花きでは、苗物生産の産地力強化に向けて、生産段階でのロスを削減するための栽培技術改善をすすめた。特に大規模生産者に対しては工程管理技術の導入などの経営発展に向けた支援を行った。施設切花生産者に対しては、二酸化炭素施用や局所加温技術を中心に環境制御技術の導入をすすめ、切花の高品質・生産安定化をはかり経営向上を支援した。

エ 土地利用型作物では、水稻新奨励品種”はるみ”の生産安定技術の普及により、作付面積拡大を図った。また、学校給食用パン、地粉うどん及び味噌などの加工品開発・製造の取組が増えている小麦・大豆の安定生産を支援した。

(3) 環境にやさしい農業生産に向けた取組に対する支援

有機農業者に対し、個々の経営に応じた技術課題を明らかにし、改善を支援することにより、経営・生産安定を図った。

(4) 食の安全性向上に向けた取組に対する支援

農産加工に取り組む生産者に対し、HACCPの考え方に基づく衛生管理手法を推進した。さらにその実践を担保するための仕組みを確立するため、モデル地区を設定し、セミナーの開催やチェックリストの活用状況調査を行った。また衛生管理促進のためのマニュアル作成に協力した。

(5) 地域振興に向けた取組に対する支援

ア 地域における6次産業化の取組を進めるため、加工に向けた作目や品種の導入を進めた。新たな作目の導入や農産加工にあたっては、ヘルスケアの視点を加え、古くから健康に良いとされる裸麦、ラッキョウ等を使った商品化を支援した。

イ 農地の維持・遊休農地解消に向けて、水稻を中心に新たな農作業受託組織の育成支援を行った。また経営受託による規模拡大に対応するため、戦略作物として飼料米の導入を進めた。併

せて生産意欲の維持、向上に向けて、地域が主体的に実施する有害鳥獣対策を生産技術面から支援した。

ウ トマト‘湘南ポモロン’、‘湘南一本’、‘湘白’等、県育成野菜品種を普及し産地化を図った。

2 調査研究及び各種展示ほ

(1)調査研究

普及指導において、農業技術及び経営で早急に解明や実証が必要な課題について、展示ほ等を設置して調査研究を行った。

ア 高 グルカン裸麦を利用した加工品の商品化にむけて

ヘルスケアに向けた加工原材料の一つである高 グルカン裸麦を利用した金山寺味噌の商品化を目指し、材料及び製造方法について検討したところ、精麦度合についての課題が明確となり、商品化への目処がたった。

イ ナシ新品種‘なつみず’、‘香麗’の現地導入圃場における生育特性の検討

当所育成ナシ新品種‘なつみず’、‘香麗’の現地導入圃場において、側枝の生長量調査、果実横径の比較などの生育調査を行い、安定生産に向けて両品種の生育特性の把握に努めた。

ウ 二宮町のオリーブ新植圃場における生育特性調査

二宮町のオリーブ新植圃場において、各品種の生育状況、病虫害発生状況等を調査したところ、7品種60本のうち6品種26株で開花結実し、‘ミ ッション’、‘ネパディオブランコ’で着果量が多かった。なお品種や定植場所にかかわらず本年度新たに5本の枯死が見られた。今後成木での収量や果実品質について、継続した調査が必要と考えられた。

エ 苗物鉢物生産者の培養土配合実態と土壌物理性について

鉢物苗物生産を行うそれぞれの経営体において、培養土の配合実態と土壌三相、栽培管理方法を調査したところ、気相率は目標値である25～30%に概ね確保されていた。素材の配合割合と土壌三相との強い相関関係は認められなかったが、ピートモス、ペラボン、パーライトやもみぎらの割合を高めることによって気相率を高めることが可能と思われた。

オ 施設野菜におけるD-D剤の適正な処理方法の検証

施設野菜のセンチュウ対策として使用されるD-D剤について、適正な使用方法等により高い効果が期待できるため、処理方法について検討したところ、薬剤処理中の被覆資材により効果及び作業性が異なることが判明した。

カ 切花における栽培技術等の実態調査

一般切花の作目として、生産が増えているトルコキキョウの作型や品種、栽培上の問題点などの実態を把握するため、聞き取り調査を行ったところ、多様な品種が作付けされており、物日出荷の直売に適した品種の選定、作型及び栽培方法などの検討が必要であると思われた。

(2)研究成果導入展示ほ

当センター試験研究成果の迅速な導入普及を図るため、展示ほを設置し技術成果を実証した。

ア 白首総太り系統ダイコン‘湘白’の裂根対策の検討

‘湘白’は青首品種に比べ裂根が多いため、土壌の乾湿の影響を軽減するため、マルチフィルム被覆の有無について検討したところ、収穫調査時点での裂根発生率は、マルチなし区30%、マルチあり区10%だったが、マルチによる裂根の軽減効果は判然としなかった。

イ スイートピーにおける補光の効果確認

スイートピー生産では都市化の進展に伴う日影が増えた影響により、草勢の低下が著しいことから、消費電力が小さく効率がよいLED補光による収量への影響を調査した。調査データからは光条件の勝る無補光区の収量が多かったものの、生産者からは「補光区では例年より落蕾が少なかった」との感想が得られた。

(3)環境保全型農業実証ほ

環境保全型農業を推進するため、減農薬・減化学肥料栽培の実証ほを設置した。

ア 有機栽培ほ場におけるアブラナ科野菜のアブラムシ類対策

有機栽培ではアブラナ科野菜のアブラムシ類による被害が大きく対応に苦慮しているため、赤色防虫ネットと在来天敵を利用した被害軽減効果について検討したところ、赤色ネットのアブラムシ類に対する侵入抑制効果の優位性は認められなかった。また、エンバクは、ムギクビレアブラムシの寄生は見られたもののマミーは見られず、バンカープランツとしての効果は判然としなかった

イ 全面育苗箱施用による施肥量の削減

特別栽培米の生産機運が高まり、県慣行レベルの化学肥料使用量の50%削減基準を満たす技術として、育苗箱全量施肥と堆肥を組み合わせた場合の育苗時の生育及び収量について調査したところ、収量は優れたものの育苗時の草丈が高くなったことから、施用方法について検討が必要と考えられた。

(4)新資材等展示ほ

新肥料、新農薬等の展示ほを設置し、効果の実証に努めるとともに農業者への情報提供を行った。

[病虫害防除部]

1 病虫害発生予察

(1) 発生予察調査

地区予察ほ場10か所（水稲3、ナシ2、カキ1、茶1、野菜3）を設置し、病虫害の発生状況を定期的に調査（週1回）するとともに、各作物の主産地271か所を巡回調査し、病虫害発生動向の把握に努めた。

表1 作物別の調査対象病虫害の数

	調査地点数	病害	害虫
普通作	20	11	11
芋豆類	5	1	2
果樹類	62	16	22
茶	13	3	12
野菜類	161	75	96
計	261	106	143

(2) 防除適期決定圃調査

各農家のほ場における病虫害の発生動向と防除状況を把握するため、栽培農家（防除適期決定ほ調査員102名）に依頼し、作物の生育状況と病虫害の発生や防除状況に関する情報を定期的に収集した。

(3) 予察情報の提供

地区予察ほ場や巡回調査結果及び病虫害防除員から収集した情報に基づき、病虫害発生予察情報等を作成し、生産者及び関係機関に提供した。

ア 予察会議の開催 4月～10月及び3月の各月末 年8回

イ 予察情報の種類

予報：各時期の主要病虫害の発生予想と防除対策（年11報）

特殊報：県内で初発生の病虫害が発見された場合に発表（年7報）

トマト茎えそ病（仮称）、ミナミアオカメムシ、メボウキ（バジル）べと病（仮称）、
トマト退緑萎縮病、トマト黄化病、トマト葉かび病レース2.9、オリーブがんしゅ病

注意報：重要な病虫害の多発が予想され、早期防除が必要な場合に発表（年2報）

(4) 重要病虫害等侵入警戒調査

日本への侵入が警戒される火傷病、スイカ果実汚斑細菌病、チチュウカイミバエ等を早期に発見するため、果樹、野菜の栽培地帯に18か所のトラップを設置、並びに32か所の調査地点を設定し、定期的に調査を実施した。

(5) 特殊病虫害緊急防除事業

県内のウメ生産園15市町31園地で、プラムポックスウイルス（PPV）の発生状況を調査した。目視による病徴は確認されず、また感染確認のため検体を横浜植物防疫所に送付し、検定を行ったところ全て陰性であった。

(6) 発生予察技術の改善

病虫害調査実施基準を改善整備するため、イチゴのコナジラミ類他8作物15病虫害で国が作成した調査基準（案）の実証を行った。

2 病虫害防除の推進指導

(1) 病虫害防除員の活動促進

植物防疫法第33条の規定に基づき病害虫防除員を委嘱（25名）し、担当地域における病害虫の発生動向等を報告してもらうとともに、予察情報や新病害虫、農薬等に関する各種資料を提供し、病害虫発生調査、防除指導、農薬安全使用指導などの活動を促進した。

(2)病害虫総合制御技術推進事業

環境保全型農業の推進を図るため、各種技術を組み合わせたキュウリ施設栽培におけるIPMを検証するため展示ほ（平塚市、大磯町）を設置し調査を行い、技術導入に向けた資料をとりまとめた。

(3)病害虫雑草防除指導指針の作成

関係機関と連携して、「神奈川県病害虫雑草防除指導指針」を作成した。

(4)市町村、農協等に対する防除指導

市、農協等が作成する防除暦等に対して、指導協力を行った。

(5)農薬耐性菌及び抵抗性害虫の検定

農薬に対する耐性菌及び抵抗性害虫の出現を明らかにし、効率的防除を行うため、検定調査を実施し、結果を関係指導機関に提供した。

耐性菌（トマトの灰色かび病）

ウイルス病検定（イネ縞葉枯病）

(6)病害虫の診断と防除指導

病害虫の診断依頼のあった検体について調査を行い、病害虫の種類を明らかにし、防除対策の指導、助言を行った。

診断件数 102件

3 農薬安全使用対策

(1)農薬販売者の届出受理

農薬取締法に基づき、農薬販売者の届出（新規・変更・廃止）の受理を行った（新規185件、変更182件、廃止96件）。

(2)立入検査と巡回指導

農薬販売者及び農薬使用者に対し、農薬の安全適正な取扱いがされるよう立入検査指導及び巡回指導を行った。

販売者に対する指導 201件

使用者（生産者、ゴルフ場）に対する指導 53件

(3)講習会の開催

農薬販売者及び防除関係者に対し、農薬の安全適正な取扱いについての知識の向上を図るため、講習会を開催した。

農薬販売者 2回 105名

防除関係者 2回 251名

(4)農薬管理指導士認定事業

農薬使用管理責任者などの資質向上対策の一環として、農薬の取扱いについて指導的役割を果たすべき農薬管理指導士の更新研修及び養成研修を実施した。

更新研修 4回（代替研修を含む） 287名

養成研修 1回（2日間） 31名

(5)食の安全・安心を確保する農薬安全対策の推進

農薬の使用基準の遵守、飛散防止対策等に関する指導を行った。
また、住宅地等における農薬使用について、周辺住民への農薬飛散による被害の発生を防ぐため、農薬使用に当たって守るべきことなどの指導を行った。

4 肥料検査指導事業

(1)肥料の登録、届出に関する事務

肥料取締法に基づき、肥料生産、販売、輸入者に対して登録、届出の受理を行った。

登録：新規1、更新7、変更3、失効1

届出：新規30、変更114、廃止28

(2)肥料生産者等に対する指導および立入検査

肥料生産、販売、輸入者に対して、指導及び立入検査を行った(立入検査施設数15、収去数15)。

[横浜川崎地区事務所]

1 重点指導活動

(1)新たな農業経営を展開する農業者への支援

ア 農業セミナーの開催

新規就農者の定着には、経営改善能力向上を図る必要があることから、就農から概ね5年以内の農業者のうち経営計画作成を志す者を対象に、農業セミナーを開催した。1年目の基礎コース18名、2年目の経営目標作成コース18名を対象に、野菜、果樹、花きの部門別研修会、各部門共通の全体研修会、個別巡回指導の実施により農業経営に必要な基礎知識及び技術の習得を支援した。

イ ステップアップセミナーの開催

就農から10年以内の農業セミナー修了生等を対象に、経営安定のための経営改善支援を目的に部門別にイチゴ(4名)、ナシ(6名)、シクラメン(4名)、直売(8名)の研修会と個別巡回を実施した。また、経営発展を目的とした全体研修として研修会と視察研修会を開催した。

ウ 都市農業のモデルとなる農業経営体の育成

経営発展を志向する落葉果樹経営体1戸及び施設野菜経営体1戸の計2戸を対象に、関係機関等と協力・連携しながら、個々の経営体の実情に合わせて、普及指導員が経営改善のための指導と支援を行った。

(2)県民の需要に応じた 農畜産物の安定生産に対する支援

ア 共同直売における野菜の端境期対策・新作物の普及

管内の共同直売出荷者約1,450名に対して、出荷競合を避け、消費者に多様な野菜を周年安定供給することをねらいとして、品種や資材等の栽培方法による端境期の作型や新作目の導入支援を行った。作目としてトマト(夏秋どり、黄化葉巻耐病性品種、中玉トマト)、ネギ(夏どり、短葉鞘)、キュウリ(抑制)、ホウレンソウ(春~初夏どり)、ホウレンソウ(9~10月どり)に取り組んだ。

イ ブドウの産地育成支援

J A横浜果樹部南・北地区ブドウ班72名を対象に優良系統の選抜、優良品種の導入選定、増殖技術の導入普及を行った。平成27年度は樹による着色の差が大きく、生産者に系統選抜の動機付けができた。高温でも着色の良い1品種を優良系統として選定した。主要な生産者は緑枝接ぎによる増殖技術を習得した。さらに休眠枝接ぎの指導が要望された。

ウ シクラメンの高品質生産技術支援

管内のシクラメン生産者44戸に対して、高品質生産を目的に、排液汁液濃度管理による施肥法改善を普及指導するとともに、難防除である萎凋病の被害軽減を目指して、発生源の消毒を指導し、あわせて被害が多いアザミウマ類の防除の徹底を図った。

(3)食の安全性向上に向けた取組に対する支援

ア キャベツ農家におけるGAPの普及支援

J A横浜キャベツ共販部会を対象に、GAPチェックシートの回収率と重要項目の達成率の向上を図るため、役員会や出荷検討会において、関係機関と連携して啓発指導を行った。

また、横浜農協が営農指導員に対する研修会を開催し、当所普及指導員が講師を務め、GAPに対する共通認識を深めた。

イ ナシのGAP導入・普及支援

J Aセレサ川崎果樹部のナシ栽培面積10a以上の生産者120名を対象に、通常の巡回検討会に加えて役員対象の現地農場巡回等を通して、病害虫防除課題の共有を進めGAP推進の支援を行った。また、GAP推進の一環となる農協が作成するオンライン用の生産履歴について、助言指導を行った。

(4)地域振興に向けた取り組みに対する支援

ア 地場産物の活用促進を図るための加工等による高付加価値化支援

地場産物活用を生産部門と消費部門の双方から支援し、地産地消流通システムの整備に取り組んだ。管内の農産加工起業希望の農業者や加工組織等に対して、段階別加工・経営セミナーを実施し、新規で16名が経営を開始した。農工商消費者連携の地産地消活動により食農技術を普及し、地場産ブランド商品の完成に至った。

2 調査研究及び各種展示ほ

(1)調査研究

ア 製菓に適した米粉の品質評価および米粉加工品の商品化技術の確立

横浜市内産うるち米（キヌヒカリ・中アミロース米）を、微細米粉（気流粉碎・400ms）と通常米粉（自由粉碎・100ms）にし、焼き菓子（米粉のシフォンケーキ）で品質比較をしたところ、通常米粉のケーキはキメ、気泡量、硬さで製菓に向かないという結果だったが、微細米粉のケーキは薄力粉のものと遜色ない品質であった。このことから、製粉方法や米粉の粒度の違いが品質に影響を及ぼし、気流粉碎が有効であることが明らかとなった。結果を受けて、今後は多産業連携型の商品製造が可能となる。

イ ナシの神奈川県育成品種等のジョイント栽培の実証

ナシ新品种「香麗」、「なつみず」等数品種のジョイント栽培における特性（早期多収性等）について結実2年目のデータを精査したところ、ジョイント部分の収量が全品種平均でおおむね1.63t/10aとなり、順調に成園化に向けて収量が増えていることが実証された。

(2)研究成果導入展示ほ

ア ナシ樹体ジョイント仕立て専用の2年生苗育苗法の実証

ナシのジョイント栽培用の2年生苗（「なつみず」、「幸水」）を、マニュアルに基づいて不織布ポットを用いて育苗し、ジベレリンペーストを新梢伸長期に30日または50日おきに3回塗布することにより、結果的に350cm程度の苗が得られ、十分に定植・接木ジョイントが可能な長さとなったことが実証された。

(3)環境保全型農業普及展示ほ

ナシ「豊水」栽培園において、追肥を慣行の化学肥料から有機質肥料に換えたところ、果実品質等に差は見られず、土壤中の硝酸態窒素は有機質肥料施用区においても化学肥料と同様に8月に減少した。有機質肥料を追肥として利用できる可能性が示唆された。

(4)その他展示ほ

ア ブロッコリーにおける堆肥混合肥料の効果の確認

堆肥を混合した肥料「エコレット808」を元肥に施用して、ブロッコリーの栽培を行った（8月下旬播種、9月下旬定植、12月上旬収穫）ところ、慣行の化成肥料を使用した場合と比べて、生育や収量に大差はなく、有効な肥料と考えられた。

イ 8月播種ニンジン品種比較

8月まき冬どりニンジンの直売向け有望品種を検討するため、4品種について比較検討した（8月上旬播種、12月中旬収穫調査）ところ、食味の優れた品種「アロマレッド」（トーホク）が有望と考えられた。

ウ 9月播きハウレンソウ品種比較

9月中旬播種ハウレンソウの有望品種を検討するため、6品種について比較検討した（9月中旬播種、10月中旬・11月上旬収穫調査）ところ、市場出荷の観点から生育の早さと収穫作業の効率性を重視して、「ミラージュ」（サカタのタネ）と「ピクシー」（渡辺農事）で普及性があると考えられた。

エ 横浜川崎地区における果樹のジョイント栽培の普及状況

今後の普及推進に向け、ジョイント栽培導入の現状を調査したところ、管内における栽培導入農家は、計画面積で横浜市5戸35a、川崎市14戸123aであった。樹種及び導入予定面積は、ナシ16戸130a、カキ4戸26a、スモモ1戸1a、ウメ1戸1aであった。改植が圧倒的に多く、戸数で82%、計画面積で73%が改植であった。品種は、ナシ、カキとも主要品種が上位を占めたが、県

育成ナシ「香麗」、「なつみず」、ウメ「十郎小町」、「虎子姫」、カキの「太秋」などの導入がみられた。

オ 県育成ナシ新品種「香麗」、「なつみず」によるジョイント栽培の導入事例

収穫は、盛期の早いものから「香麗」、「筑水」、「なつみず」、「幸水」、「幸水(4本主枝)」、「豊水(4本主枝)」、「あきづき」の順であった。果実重は、「あきづき」が445gと最大で、以下「なつみず」、「豊水」、「幸水(4本主枝)」、「幸水(ジョイント)」、「香麗」、「筑水」の順であった。収量は、ジョイント栽培で「あきづき」2.28t/10a、以下「筑水」、「幸水」、「香麗」、「なつみず」の順であり、ジョイント栽培全体で1.63/10aであった。規格別割合は、2L以上が「香麗」20.1%、「なつみず」61.8%、「筑水」よりも多く収穫されており、ジョイント栽培においても大果であることが実証された。

[北相地区事務所 研究課]

1 安全・安心な農畜産物の提供

(1) 茶園における放射性セシウムの動態解明と対策技術の開発

ア 茶樹における放射性セシウムの動態解明

(ア) 茶樹における放射性セシウムの動態解明

一番茶新芽の放射性セシウム濃度は前年より減少しているものの、減少割合は鈍化してきている。3月の茶樹冠古葉(越冬葉)と5月の一番茶新芽の放射性セシウム濃度については相関関係がみられた。

(イ) 茶園土壌中における放射性セシウムの動態解明

平成23年以來の茶園土壌中放射性セシウム濃度及び分布の変動を取りまとめた。 $^{134}\text{Cs}+^{137}\text{Cs}$ の垂直分布は、畝間では平成25年までに表面から10cm程度まで均一化しており、平成26年には10cm以下まで拡散が観察された。樹幹下では、表面にとどまる傾向があるが、地点により異なり、比較的深層へ拡散した地点もあった。分布の変化を ^{137}Cs 濃度で検討すると、平成23~26年の間に表面有機物中の放射性セシウムは激減し、その下の土壌0~15cmの ^{137}Cs 平均濃度は上昇した。平成26年は、樹冠下でも5cm以下での濃度上昇が観察された。

2 環境にやさしい土壌管理技術の開発

(1) 適正施肥による土壌環境悪化防止技術の確立

ア 環境負荷軽減に寄与する減肥技術の開発

(ア) 茶の環境保全型施肥体系の確立

a 樹冠下施肥による施肥削減技術の確立

茶の樹冠下に施肥することにより、施肥量を削減することを目的として、平成27年度に栽培試験を実施した。結果は取りまとめ中である。

b 茶園における硝酸化成抑制剤入り肥料(ZN尿素)の効果確認試験

茶栽培では、窒素をアンモニア態で吸収すると茶が高品質となることが知られている。また、現在、県内茶園では硫安が使用されているが、硫安は施用すると速やかに硝化する。そこで、従来品より安価な硝化抑制剤入り尿素(ZN尿素)を用いた施肥試験を実施した。平成27年度に実施した初回試験では、ZN尿素を追肥として施用した区の茶芽の収量及び品質は、対照区と比べて有意差はなかった。また、百芽重では、硝酸化成抑制材(DMPP)入り尿素施用区の方が硫安施用区より重くなった。

3 農畜産物の差別化とブランド化を支える新品種の開発と特性の解明

(1) 新規性・独自性に着目したかながわ特産品開発

ア 遺伝子解析手法を活用した新たなかながわ特産品の作出

(ア) 北相地域に適したウメ優良系統の選定

生産技術部で開発した新品種等を平成22年3月15日に地区事務所内圃場に定植し、平成26年から収穫調査を開始し、平成27年度に第2回収穫調査を実施した。その結果、虎子姫及びび十郎小町は生育及び収量が良かった。

イ 地産地消を加速する品種の選定

(ア) 茶の優良品種の選定

本県における早生・晩生品種の導入について調査するため、早生品種の‘そうふう’と晩生品種の‘はるみどり’について、台付け3年後の生育調査と一番茶の嗜好調査を行った。‘そうふう’は霜害の影響が大きく新芽の生育はばらついた。嗜好調査においては‘はるみどり’の評価が高かった。

4 地産地消を推進する農畜産物の安定生産技術の開発

(1) 新鮮で安全な農畜産物を安定して提供するための技術開発

ア 地産地消を推進する安定生産技術の確立

(ア) 茶の生産量増加と高品質化

- a 被覆資材等の利用による一番茶・二番茶の高品質化技術の開発
一番茶期、二番茶期の新芽に直掛けで簡易被覆を行うことにより、アミノ酸含有量が高まった。収量は被覆によりやや減少する傾向がみられた。

(イ)北相地域特産品の高品質安定生産技術の開発

- a ダイズ品種‘津久井在来’を用いたエダマメ栽培の検討
ダイズ品種‘津久井在来’のエダマメ用栽培に適する施肥量を明らかにするため、窒素施用量を0~10kg/10aとして試験を実施したところ、窒素施用量が増えるほど収量が増加する傾向にあった。
- b ヤマトイモ高品質安定生産技術の開発
ヤマトイモ越冬後切断種芋の出芽促進を図るため、加温による催芽処理を定植前10日間行ったところ、定植後の出芽は従来方法(越冬前低温貯蔵)よりも促進された。
- c 新たな特産品目の検索
 - (a)当地域における春どりダイコン栽培の適性品種を明らかにするため、比較栽培を行った。
 - (b)オタネニンジンを野菜として利用するため、遮光ネットトンネル栽培における遮光率がオタネニンジンの2年生の収量に及ぼす影響を調査したところ、遮光率75%で地下部の肥大が大きかった。一方、肥大が良いものほど赤さび病の発生率が高かった。
 - (c)ヤブカンゾウの金針菜(蕾)及び葉かんぞう(3月の出芽間もない芽)収穫のための栽培技術確立するため、定植時の根茎重と定植2年目金針菜、定植3年目のハカンゾウの収量について調査したところ、金針菜は㎡当たり500~800g、葉かんぞうは300~500gであった。

イ 樹体ジョイント仕立てを活用した果樹・枝物の安定生産技術の確立

(ア)果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システムの開発

- a リンゴの樹体ジョイントによる中山間地直売型栽培技術の開発
定植3年目~6年目の積算収量を誘引強度の強弱で比較すると、‘ふじ’と‘さんさ’は強誘引が多収、‘涼夏の季節’は強弱ほぼ同等、‘昂林’、‘家隆つがる’、‘陽光’では弱誘引が多収となった。‘昂林’と‘涼夏の季節’は、調査年次・試験区より収量または糖度(またはその両方)が低かった。‘昂林’と‘涼夏の季節’以外の品種の糖度は良好だった。平成27年度の可販果収量は、カメムシの被害等により低下した。

5 病害虫の総合的管理技術(IPM)の開発

(1)病害虫防除・予察技術の開発及び改善

ア 病害虫の診断同定および発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立

(ア)診断同定及び防除対策の確立

県内産地の茶園で採集したカンザワハダニの、病害虫雑草防除指導指針記載農薬に対する薬剤感受性調査を実施した。

(イ)発生予察及び発生予察技術の開発

茶の新害虫チャトゲコナジラミの本県における発生消長を明らかにするため、黄色粘着トラップにより成虫の発生消長を調査した。

イ かながわ特産品等の生産に必要な農薬の実用化に関する試験研究

(ア)新農薬実用化試験

新農薬のアスパラガスの茎枯病・ジュウシホシクピナガハムシ、チンゲンサイのアオムシ、コマツナのネギアザミウマ・ハスモンヨトウ、パレイシヨのテントウムシダマシ類、茶のチャトゲコナジラミ・チャハマキに対する効果試験及び茶葉臭試験を実施した。

[北相地区事務所 普及指導課]

1 重点指導活動

(1) 新たな農業経営を展開する農業者への支援

ア 新規参入者等の担い手の経営確立支援

概ね就農3年目までの新規就農者23名(うち新規参入者17名)に対し、農業セミナーを開催し、誰習会と定期的な巡回指導により農業の基本技術と基礎知識の習得を支援した。

また、概ね就農10年以内の農業セミナー修了生等10名に対し、更なる農業経営発展と改善を目的に、ステップアップセミナーを実施した。セミナー生の多くが露地野菜経営を行っているので野菜中心の視察、座学を行った。また、就農後5年を目安に認定農業者に申請することを目標に、制度資金や各種事業の紹介も含め、就農計画および制度資金利用計画の作成・達成を支援した。さらに、経営の高度化を目指す中核的農業経営体に対し、経営改善を支援した。

(2) 県民の需要に応じた農畜産物の安定生産に対する支援

ア J A 津久井郡農協直売所発展に向けた農作物生産安定技術の普及

野菜では、月1回開催されたJ A 農業セミナーや個別巡回等による栽培技術指導で、安定生産や品質向上、有害鳥獣対策を支援した。また、地域の特色ある直売品目としスイートコーン、サツマイモの栽培技術、直売基本品目としてキャベツの播種、栽培等の技術を支援した。

果樹では、栽培講習会やJ A 農業セミナーによる剪定、病害虫防除、貯蔵方法等の指導で、販売量の増大や品質等の向上に向け生産活動を支援した。ブドウでは、改造型の短梢剪定導入について支援を開始した。

花きでは、需要期を中心にしたコギク等の切り花品目の他、出荷が想定されるシクラメンやパンジー等の鉢物、苗物の生産が拡大するよう、巡回指導等により生産技術を支援した。

農産加工品では、加工品出荷希望者や出荷者に対し、講習会・巡回指導等により情報提供や技術の向上を行い、地元産農産物を活用した加工品の品目拡大や出荷者の増加を支援した。

イ 相模原市農協直売所発展に向けた農作物安定生産技術の普及

栽培講習会により、土壌診断、土作り、適期防除等について技術指導した。

野菜では、イチゴ、ヤマトイモ、秋冬野菜について重点的に技術を支援した。また、夏季には、トマト、キュウリ、ナス、オクラ等について、栽培技術を支援した。

果樹では、イチジクの夏季管理方法、ブルーベリーの収穫時期の留意点、クリの出荷時の氷温貯蔵出荷等について指導した。

花きは、技術支援により需要期の盆・秋彼岸向け以外の切花出荷が継続・定着した。

G A Pでは、「農薬に関する項目」「収穫コンテナに関する項目」の2項目について、周知を図った。農薬保管庫点検時に97戸に対して、G A Pチェックシートにより指導した。

2 調査研究

(1) 切花ヒマワリの露地栽培における、発芽の斉一化方法の検討

切花ヒマワリ栽培では、収穫時期と花のサイズを揃えるために発芽を斉一にすることが重要とされている。そこで当地域の直売向け切花の生産拡大に向けヒマワリに適した播種・育苗方法を調査し検討したところ、供試した‘サンリッチレモン(タキイ)’、‘ピンセント2型オレンジ(サカタ)’の2品種は、抑制作型において、直まき栽培・催芽処理なしで、十分斉一な発芽を期待でき、可販率、花の品質とも差がないと考えられた。

(2) パッションフルーツの地域適応性および育苗方法の検討

相模原市に農協大型直売所が開設され、新たな果樹類の導入が検討されている。そこでパッションフルーツの導入について平成25年度から検討を行っており、平成27年度は地域適応性及び育苗方法について検討した。

6月から7月下旬までは伸長が非常に緩慢であった。8月上旬から伸長が盛んとなったが、夏の高温により7月上旬に開花結実したものは14株中2果しかなく、その後高温条件下で9月9日まで開花しなかった。

7月に結実したものの追熟後調査では、糖度、食味ともに良好であった。9月以降に開花結実したものは12月21日を過ぎても熟さず未成熟果で収穫したところ、1月になり着色が始まったが、2月下旬でも食する段階ではないと判断された。

なお、挿し木育苗では、ピートモス50%：鹿沼土50%区の発根率が100%であった。

3 その他（地域の特徴ある活動の成果）

津久井地域農業経営士会は、地域ブランドの創出、遊休農地解消対策、消費者の農業理解を深めることを目的に「津久井在来大豆の栽培と味噌加工」を行っており、当所は実施に当たったの企画等の支援を行った。農業体験事業の参加者は127名で、開催会場4会場、栽培面積280aとなった。

[三浦半島地区事務所 研究課]

1 環境にやさしい土壌管理技術の開発

(1) 適正施肥による土壌環境悪化防止技術の確立

ア 環境負荷軽減に寄与する減肥技術の開発

(ア) ダイコン畑における新しい緑肥栽培の体系化

a マリーゴールド‘エバグリーン’の減肥効果

ダイコンの根重は無施肥区を除き、減肥の有無に関わらず‘エバグリーン’を栽培した区で対照区よりも高くなる傾向が見られた。キャベツの収量は、通常施肥区では‘エバグリーン’を栽培した区で対照区よりも高くなる傾向が見られ、窒素成分を30%減肥した区でも対照区と同程度の収量が得られた。このことから、連用3年目からは緑肥すき込み時に減肥を行うことが可能である事が示唆された。

b 緑肥作物(ライムギ)のネグサレセンチュウに対する防除効果

‘TRY-1’、‘ライ太郎’はキタネグサレセンチュウに対し防除効果はなかった。

c 石灰窒素による緑肥腐熟促進および減肥に対する連用効果

緑肥すき込み後の土壌中無機態窒素量は石灰窒素施用区で高かったが、後作のダイコンの根重は各試験区ではあまり差が見られなかった。キャベツの結球重は、緑肥あり通常施肥区と緑肥あり石灰窒素通常施肥区で対照区よりも増加した。減肥区間で比べると、石灰窒素を施用しなかった区では緑肥のあるなしに関わらず対照区よりも減少したが、緑肥あり石灰窒素減肥区では対照区と同程度であった。このことから、連用2年目からは緑肥すき込み時に石灰窒素を施用する事で減肥を行うことが可能である事が示唆された。

2 地産地消を推進する農畜産物の安定生産技術の開発

(1) 三浦半島の温暖な気候を活かした野菜生産技術の開発

ア 三浦半島主要農産物の栽培・流通体系の維持・安定化技術の開発

(ア) ダイコン・キャベツの栽培体系の開発と流通販売に関する調査

a ダイコンの安定生産とブランド力向上のための品種検討と栽培体系の開発

(a) 冬春ダイコン及び三浦ダイコンの青変症対策技術の開発

11~1月どりの各作型の標準品種及び三浦ダイコン6品種・系統を対象に定温もしくは変温貯蔵により青変症の発生状況を調査したところ、10 以下の貯蔵であれば8~9日程度の貯蔵期間での青変症発生は認められないが、20 に2~3日おかれていると、その後10で貯蔵しても発生するリスクが高いことが明らかとなった。

(b) 三浦ダイコン「中葉」の改良

交雑の結果20粒以上採種できた組み合わせは、保有系統 × 中葉花粉親(T) が11組、中葉花粉親(T) × 保有系統 が8組だった。後代の遺伝的特徴を調査するため、在来4系統 と種子親(H) を交雑したもので20粒以上採種できた組み合わせは4組だった。交雑の結果得られたF₁の形質調査結果から、鈴木系の花粉を花粉親に交雑したF₁の根形が有望と判断し、鈴木系 × 中葉花粉親(T) を3組(計7株)選抜した。また、重イオンビーム照射種子株は播種後に枯死したものが多かったが、300Gy 照射種子株3株を選抜した。今後、自殖および同系統株間交雑によるF₂採種を実施する予定である。

(c) 1月どりダイコンの品種特性

葉の黄化や根元の形状等に課題のある1月どり青首ダイコンについて、試交品種を含めた18品種を供試し、栽培試験を行ったところ、1月上旬及び下旬どりに向く有望品種が選定できた。

(d) 3月どりダイコンの品種特性

3月どりダイコンについて、9品種・系統を供試して試験を行ったところ、葉が大きすぎず、根元の形状や揃いに優れ、かつ晩抽性で在圃性の高い‘THR108’や‘TRI-3215’が有望だった。

(e) 三浦ダイコンの種子保存系統の諸形質調査

当所所有の4系統の品種特性を調査したところ、形状や大きさなどに違いがみられ、各

系統の特徴が概ね把握できた。

b キャベツの安定生産とブランド力向上のための品種検討と栽培体系の開発

(a) 11～1月どり寒玉系キャベツの品種特性

11～1月どり寒玉系キャベツについて、33品種・系統を供試して栽培試験を行ったところ、11月どりでは収穫期の遅れがなく、斉一性や肥大性、結球緊度が高く、寒玉らしい形状など、12月どりでは斉一性や肥大性のよさ、芯の短さなど、1月どりでは病害の発生が少なく、肥大性のよい特性を持った有望品種を選定した。

(b) 三浦型の4～5月どり寒玉系キャベツの栽培体系

品種や被覆資材、マルチなどの組み合わせにより4月下旬～5月下旬までの連続収穫が可能であった。また、東京農大へのサンプル提供による寒玉系品種のカット適性について調査したところ、金系201号より総じてカット適性は高かった。

(c) 3月どりキャベツの品種選定

3月収穫のキャベツについて、9品種で播種時期を9月14日と9月30日に分けて栽培試験を行ったところ、9月30日播種区の‘金春’、‘潮岬’、‘春のかほり’、‘MKS-C544’で2月下旬から3月下旬にかけて収穫を行う事が出来た。しかし、菌核病は播種時期に関わらず‘春のかほり’、‘若妻’以外で高い発生率を示した。9月30日播種の‘春のかほり’と‘若妻’は収穫期、裂皮の少なさ、抽台の進行の遅さ、菌核病の発生率の低さ、収量の点で3月収穫に適していた。

c ダイコン・キャベツにおける亜リン酸資材の効果

増収や品質向上などに効果があるとされている亜リン酸を施用してダイコンとキャベツの栽培試験を行った。ダイコンは、亜リン酸液肥を葉面散布で施用することによって、収量が対照区よりもわずかに増加した。

キャベツ苗のセルトレイ育苗時には、正リン酸を施用せずに亜リン酸を施用すると著しい生育障害が見られ定植には至らなかった。しかし、正リン酸と粒状亜リン酸を同時に施用すると対照区よりも根長が長くなる傾向が見られた。

(イ) 主要夏作の栽培体系の開発と流通販売に関する調査

a 新たなスイカ品種の選定

(a) 部分不活化花粉技術に合った品種の選定

大玉スイカにおける部分不活化花粉の種なし化効果を確認した。また、部分不活化花粉の利用による経済性評価を行った。

(b) 種なし品種、マイクロシード品種の選定

形状や果皮色、マイクロシードタイプの小玉スイカ13品種・系統を供試して有望品種を選定した。

b カボチャの作期拡大のための栽培方法

(a) 遅植カボチャの被覆資材

ビニルトンネル区は初期生育で寒冷紗被覆区に勝っていたが、栽培期間が長くなると徐々に差がなくなっていった。収量は寒冷紗べたがけ区で僅かに低くなったが、寒冷紗浮きかけ区とビニルトンネル区ではあまり差が見られなかった。

c カボチャにおける亜リン酸資材の効果

増収や品質向上などに効果があるとされている亜リン酸を施用してカボチャ‘みやこ’の栽培試験を行った。リン酸減肥に繋がる肥料効果を期待して正リン酸の減肥を行ったが、正リン酸の減肥を行うと第1果、第2果ともに着果率が低下した。正リン酸を標準施肥した対照区で着果率と収量が最も高くなった。正リン酸を減肥した条件では、亜リン酸を施用しない区よりも施用した区に着果率が高まり増収する傾向がみられた。

イ 作型解析やマーケティング調査に基づく新たな特産品の開発・導入

(ア) 新作物の栽培技術開発・栽培実証並びに三浦型経営モデルの開発

a タマネギ極早生品種を用いた1～2月どり作型の開発

1～2月どりのタマネギについて、10品種で播種時期を7月下旬、8月上旬、8月下旬、9月上旬に分けて栽培試験を行った。試験全体を通して、どの品種でも外部、内部分球率が非常に高かった。8月10日播種の‘アリオン’、‘春いちばん’、8月24日播種の‘トップ

ゴールド305'、'トップゴールド320'、9月4日播種の'博多こがねEX'、'スーパーこがね'で半数またはそれ以上の正常球が収穫できた。

b パプリカの多収栽培技術の確立

連作時の青枯病対策として接木栽培を行ったところ、青枯病の発生は認められなかった。

また、LED照明による収穫前の着果促進効果について検討したところ、収穫期が前進する傾向がみられた。

c ズッキーニの多様な作型体系

10品種・系統を供試し、栽培試験を行ったところ、収穫果数や商品果率、可販果収量に大きな差異が認められた。また、植物ホルモン処理によって腐敗果が減少し、可販果収量が増加した。

d 冬どりレタスの安定生産技術

ビニルトンネル栽培および寒冷紗べたがけ栽培について6品種・系統で試験をしたところ、トンネル栽培では12月どり、べたがけ栽培では1月どりとなり、生理障害の少ない'テンション'、'ミッション'が有望であった。

e 12～2月どりプロッコリーの品種選定

12～2月どりの各作型で延べ26品種・系統を供試して栽培試験を行った。極端な高温条件下での試験だったが、その中で安定した生育や品質を有する品種を選定した。

f 冬どりコカブの安定生産技術の確立

2品種を供試し、べたがけ栽培及びトンネル栽培による生育特性を明らかにした。

3 病害虫の総合的管理技術(IPM)の開発

(1)病害虫防除・予察技術の開発及び改善

ア 病害虫の診断同定及び発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立

(ア)難防除病害虫に対する防除法の確立

a 診断・同定及び防除対策の確立

(a)難防除病害虫に対する防除法の確立

a' ダイコン黒斑細菌病の発生生態に対応した防除法

ダイコン黒斑細菌病菌を間引き後に接種したダイコンの栽培試験においては、枯死株率及び黒芯症の発生率共に'夢誉'、'春の浦'、'春宴'が高かった。また、減肥区では'夢誉'、'春の浦'、'春宴'の枯死株率が高かった。黒芯症の発生率は標準施肥区と減肥区で大きな違いは認められなかったが、甚発生により施肥量の違いによる黒芯症発生率の違いがマスクされたためと考えられる。

b 発生予察および発生予察技術の開発

(a)野菜の病害虫発生予察

県予察ほ場のスイカ及びダイコンの病害虫発生状況を調査並びに各種重要害虫フェロモントラップ調査を行い、県予察情報のための資料提供を行った。

イ かながわ特産品等の生産に必要な農薬の実用化に関する研究

(ア)新農薬の実用化試験

ダイコンのキスジノミハムシ、ハイマダラノメイガ及びネグサレセンチュウ、キャベツのハイマダラノメイガ、菌核病に対して、それぞれ数剤の新農薬効果試験を行い、登録申請に活用できる結果が得られた。

(イ)かながわ特産品等マイナー作物に対する農薬登録促進

ハコベに対する農薬(殺虫剤)登録促進試験を実施した。

4 省エネルギー生産技術の開発

(1)気象変動に対応した農作物の生育シミュレーション技術の開発

ア 温暖化に対応した冬春ダイコンの生育モデル・シミュレーション技術の開発

(ア)冬春ダイコンの生育モデル・シミュレーション技術の開発

過去2年間のデータでモデル式を作成したところ、積算温度だけでなく、温度の質を考慮することでより精度が高まる可能性が示唆された。

[三浦半島地区事務所 普及指導課]

1 重点指導活動

(1)産地の育成に向けた取組に対する支援

ア ダイコンの優良品種の選定・普及

国指定野菜である冬ダイコン（青首ダイコン）は品種が多数あり、その品種特性を把握し、地域に合った優良品種を選定することが安定生産に繋がる。このため11～3月どりまでの5作型について其々品種比較展示ほを設置、関係者により検討を行い各作型で優良品種を選定した。その結果については、座談会など地域の研究会で情報提供し、約80%の生産者で選定した優良品種の導入・普及が図られた。

また、県育成品種‘湘白’については、直売主体である地域を中心に導入を勧めた。

イ 早春キャベツの生産安定化技術と優良品種の導入

もう一つの国指定野菜である冬・春キャベツでは、近年、気象条件により根こぶ病が発生し拡大が懸念されている。そこで、根こぶ病対策資料を改訂し研究会組織を通じて配布し注意喚起を行うと共に、発病リスク診断のためのセルトレイ検定の試験的導入し、その結果に基づく発病程度の予測から、作付け前の対策を判断する材料とするための「発病リスク診断マニュアル」を作成した。

優良品種については、既に選定済の5品種について其々適した時期への導入を勧めた。

(2)環境と調和した農業生産に向けた取組に対する支援

ア イチゴ生産における生物的防除技術の普及

三浦半島のイチゴ生産者はイチゴの観光摘み取りの他、露地野菜及びミカンの観光もぎ取りも経営に取り入れている。そのため、他品目の作業と競合し、初期防除の遅れによる病害虫の発生、特にハダニ類の被害が大きい。また、薬剤抵抗性の発生による防除効果の低下が懸念されているため、天敵を利用した生物的防除技術を導入し、予防を中心としたハダニ防除を行い安定的なイチゴ生産を目指している。天敵を用いた体系的防除に取組む生産者に、ハダニ類の発生調査を行いながら、適切な防除について指導を行った。また、導入者拡大のため、他の生産者に対しては講習会等で導入に向けた助言・指導を行った。

イ 休閒畑への新規緑肥カバークロップの導入普及

ダイコン前作に適したフレンチ・マリーゴールド‘エバーグリーン’とキャベツ前作に適したヘアリーベッチの導入を進めるために、各地域の研究会組織へと座談会等を通じて導入の指導を行った。また、次年度以降の導入を拡大するため、手間のかかる移植栽培を行っていた‘エバーグリーン’で直まき栽培を行うための実証ほを設置した。

(3)食の安全・安心の確保に向けた取組に対する支援

ア G A P（農業生産工程管理手法）の導入・普及

三浦半島農業改良推進協議会のG A P推進専門部会として、関係機関が協力しながら、キャベツ及びダイコンを対象とした生産者全員のG A P実施を目標に取り組んでいる。その中で、本年度もチェックシートの配布、回収、そして、その回収状況・集計についての専門部会による検討結果に基づき、農協とともに、生産者にG A Pの取組状況や今後の重点的取組内容について説明した。また、専門部会として、生産現場におけるG A P取組状況を確認した。これらの作業によりG A P取り組み意識の向上等改善を図り、キャベツ生産者で約70%、ダイコン生産者で約80%が実施した。

(4) 地域振興に向けた取組に対する支援

ア 地場農産物の生産促進と農産加工等による高付加価値化支援

三浦郡葉山町の中核的な野菜生産者で組織された「葉山野菜の会」は地域農業の立て直しを意識しており、平成23年の「JAよこすか葉山」「すかなごっそ」開店を契機に野菜生産が活発化している。そこで、新品目としてショウガを導入、加工品安定生産ためコンニャクイモの安定生産について助言・指導を行った。また、加工品の安定生産と新商品開発のため講習会を実施、巡回指導を実施し、ショウガ加工品を新たに商品化した。

2 調査研究

(1) イネ科緑肥・カバークロープがキタネグサレセンチュウ密度に及ぼす影響の検討

一般的にはエンバク‘ハイオーツ’等イネ科緑肥・カバークロープの作付けにより、キタネグサレセンチュウ密度は減少するが、‘ハイオーツ’、ライムギ‘R-007’と‘TRY-1’、オオムギ‘てまいらず’の4品種を作付けたほ場の現地調査の結果、増加する場合があることが分かった。その場合、特にライムギの2品種で顕著であった。

今後、イネ科緑肥・カバークロープをダイコン前作に作付ける場合のリスクとして考える必要について継続して検討する必要があると思われた。

3 地域の特徴ある活動の成果

(1) 環境保全型農業普及展示ほ

ア マリーゴールド‘エバーグリーン’栽植方式の検討

現在、ダイコン前作にフレンチ・マリーゴールド‘エバーグリーン’の作付けを推奨しているが、育苗定植栽培のため規模拡大が鈍い。そこで、省力となる直播栽培を導入して面積拡大をすすめるため、播種機を使った直播栽培の実証を行った。条間50cmで播種機の専用ベルトの種類を替えて播種量を変え作付けを行ったところ、10a当たり100g以上の播種が出来たところでは十分な草丈を確保することが出来た。また、裁断処理後2回の耕うんで残渣をすき込み、D-D剤処理を行わなくてもネグサレセンチュウ被害がないことを確認した。

イ ヘアリーベッチによる連用効果の確認

ヘアリーベッチを4年間栽培を継続しているほ場において経過観察を行っており、排水性が改善され、キャベツの収量は安定した。また、ヘアリーベッチ作付け期間中の抑草効果も確認できた。

4 担い手への支援

(1) 意欲ある農業の担い手に対する支援

ア 農業基礎セミナーによる基礎知識の習得

技術習得及び課題解決能力の向上を図るため農業基礎セミナーを開催した。1年目の受講生9名、2年目21名に対し、月1回の個別巡回を実施した。集合研修についても年間10回(内5回は1年目と2年目と内容は別)実施し、その中で、視察研修会を三浦半島内と千葉県の計2回開催した。

これらにより、就農後間もない新規就農者の基礎的な技術の習得が図られた。

イ 農業セミナー修了生に対する経営力習得支援

22名を対象にステップアップセミナーを開催した。対象者の個別巡回指導のほか、先進事例の視察研修会および新しい農業経営の展開事例、野菜の利用方法や農家経営全体に関わる税制に関する研修会を開催するなど、経営力向上に向けた支援を行なった。

また、うち3年間のセミナーを修了する10名に対し、経営ビジョン作成の支援を行った。

ウ 経営発展を目指す中核的な経営体の支援

雇用できる経営体を育成し、かながわ農業を先導的に担う農業経営体を確保するため、2戸の農業経営体に支援を行った。

普及指導員による指導・助言を行いながら雇用労力の活用、法人化や経営の継承など民間コンサルタントの助言が必要と思われる相談分野については専門のコンサルタント(1件は特定社会保険労務士、もう1件は中小企業経営診断士に依頼)による相談も行った。

現在、法人化や雇用労力の活用による経営発展に向け、それぞれの経営体に助言などを重ねて支援を行っている。

エ 若手農業後継者に対する支援

5団体が所属している「三浦半島農業青少年クラブ代表者会議」の所属クラブに対し、日誌記帳による労働等の見直し、販売方法や消費者の求める野菜のアンケート調査、新作物の導入や肥料試験などプロジェクト学習の助言・指導を行った。また、その結果を発表会で報告するためのとりまとめに関しても指導・支援を実施した。

[足柄地区事務所 研究課]

1 適正施肥による土壤環境悪化防止技術の確立

(1)カンキツ類の施肥合理化技術の確立

ア 肥効調整型肥料による温州ミカンの施肥回数削減技術の確立

カンキツ類の施肥労力軽減のため、肥効調整型肥料を用いた年1回施肥が収量と果実品質に与える影響について検討した。その結果、年1回施肥でも、処理1年目では、慣行施肥と差はなかった。

2 新規性・独自性に着目したかながわ特産品の開発

(1)地産地消を加速する品種の選定

ア カンキツ等有望系統、品種の適応性試験

(ア)カンキツ第10回及び第11回系統適応性検定試験

(独)果樹研究所で育成された系統の本県への適応性について検討した。

(イ)オリーブ等の地域適応性試験

新規導入作物であるオリーブの主要品種について、樹体生育及び収量を調査した。

3 新鮮で安全な農畜産物を安定して供給するための技術開発

(1)地産地消を推進する安定生産技術の確立

ア ウンシュウミカンの低樹高栽培技術の確立

‘大津4号’の低樹高化を図るため、カラタチ台の開心自然形を対照区とし、ヒリュウ台について、仕立て法(開心自然形、主幹形)及び結実開始樹齢の違いによる樹体生長、収量及び果実品質等の比較や樹冠容積等の調査を行った。

イ 優良中晩柑類の栽培技術の確立

‘不知火’、‘はるみ’の樹勢改善及び連年結実を図るため、当所で考案した‘大津4号’の低樹高化技術である「ウサギの耳形整枝法」などによる剪定処理を行い、収量及び果実品質等の比較や樹冠容積の調査を行った。

ウ 片浦イエローの直売用栽培法の確立

‘片浦イエロー’の適切な収穫時期及び、追熟方法の検討を行った。その結果、片浦イエローは満開後日数170日から190日、満開後の積算平均温度が3,800 から4,000 が収穫適期であった。

(2)湘南ゴールドの生産拡大・流通技術の開発

ア 高品質安定生産技術の確立

(ア)連年結実に向けた樹体・果実管理技術の検討

L,M級果実を安定生産するための摘果法の検討を行った。その結果、せん定時に上部1/3の結果母枝をすべてせん除し、その他は横径20mm以下を摘果することが有効であった。

(イ)わい性台木利用技術の検討

わい性台木品種であるヒリュウ台と、一般的な台木品種のカラタチ台との樹体生長、収量等の違いを調査した。

イ 障害果の対策技術の確立

(ア)さび果対策

a 殺菌剤の散布間隔と展着剤利用における、さび果対策(さび果の発生程度)

さび果対策として、6月からの累積降水量別の殺菌剤の散布および、パラフィン系展着剤の薬液への添加の有無による、さび果発生程度との関係性を調査した。

b 殺菌剤の散布間隔と展着剤利用における、さび果対策(炭疽病菌の感染程度)

さび果対策として、6月からの累積降水量別の殺菌剤の散布および、パラフィン系展着剤の薬液への添加の有無による炭疽病菌の感染程度を調査した。

c 遮光による、さび果対策(さび果の発生程度)

さび果の一因である炭疽病菌の感染は、果皮への日射が発症に関与している。そこで果実袋と傘紙で遮光を行い、さび果の発症との関連を調査した。

(イ)赤色斑対策

a 赤色斑の内部調査

外観品質の低下要因である赤色斑は原因が不明である。そこで原因を調査、検討するために、赤色斑発生部の内部形態を調査した。

(ウ)ス上がり対策

a 被覆資材によるス上がり果対策

凍霜害によるス上がり対策として、被覆資材の効果を検討した。

ウ 加温ハウス栽培における高品質安定生産技術の確立

(ア)加温ハウス栽培における時期別灌水量の違いが果実品質に与える影響

満開後120～150日目の灌水量の違いが、果実品質に与える影響について調査した。

4 病虫害防除・予察技術の開発及び改善

(1)病虫害の診断同定及び発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立

ア 発生予察及び発生予察技術の開発

(ア)カンキツ病虫害の予察法の開発

カンキツの主要病虫害(黒点病,かいよう病,貯蔵病害,ミカンハダニ、カメムシ類、ハマキムシ類)の調査のため、県予察ほを設置し、その発生活長を調査して予察情報の基礎資料とした。

(2)かながわ特産品等の生産に必要な農薬の実用化に関する試験研究

ア 新農薬実用化試験

カンキツ、キウイフルーツの病虫害に関する農薬の登録促進のため、薬効・薬害試験を行った。

イ 新除草剤及び植物生長調節剤実用化試験

‘大津4号’と‘青島温州’に、ジベレリンとプロヒドロジャスモン酸を混合散布することで、3月上旬まで貯蔵性を高めることができるか、検討した。

[足柄地区事務所 普及指導課]

1 重点指導活動

(1)新たな農業経営を展開する農業者への支援

- ア 新規就農者に対して、農業セミナーを開催し、栽培技術等の研修や個別巡回指導を行った。また、農業後継者クラブ「みどりの会」の仲間づくりや経営情報の交換等の活動に対し支援を行った。
- イ 経営向上を目指す青年農業者等に対して、ステップアップセミナーを開催し、経営の問題点解析や資金計画の相談等、経営確立支援を行った。
- ウ 新規参入希望者等に対して、就農に際しての相談等の支援を行った。
- エ 経営改善志向農家に対して、目標達成のための支援を行い、認定農業者の再認定・新規認定を促した。また、中核的農業者に対し、経営高度化のため専門家の助言を受け、販売戦略の検討を行った。
- オ 茶栽培の新たな担い手を育成するため、各地域で取り組まれている作業受託組織の運営や栽培技術習得を支援した。
- カ 新規参入法人等に対し、タマネギ栽培の機械化作業体系の確立支援と栽培技術向上の支援を行った。

(2)県民の需要に応じた農畜産物の安定生産に対する支援

- ア 茶
茶の難防除害虫であるクワシロカイガラムシについて、特効的薬剤ブルートMCの適正使用支援と防除適期予測に基づいた防除を徹底した。また、新害虫であるチャトゲコナジラムシの発生生態や防除適期の周知を行った。
- イ 野菜
タマネギの育苗期における病害発生対策として太陽熱消毒の普及と新規作型等の安定生産を支援した。
- ウ 果樹
‘湘南ゴールド’の品質向上に向けて、適切な摘果によるML果比率の向上と外観品質を低下させる主要因であるかいよう病防除対策を支援した。
ウメ生産者に対して、新品種‘虎子姫’の導入に向けて苗木の植え付け方法の技術支援を行った。また、早期生産拡大のためのウメのジョイント栽培について、育苗や棚作成技術の習得を支援した。さらに、かいよう病防除のため、発生状況と防除実態について調査を行った。

(3)環境にやさしい農業生産に向けた取組に対する支援

- 施設バラ、施設カンキツ栽培で、天敵や微生物資材、耕種的防除を組み合わせたIPM技術の導入を支援した。

(4)食の安全性向上に向けた取組に対する支援

- ア GAPの推進支援
足柄茶GAPを深化させるため、指導體制への助言や自己点検結果を個票としてフィードバックするシステムを構築した。

(5)地域振興に向けた取組に対する支援

- ア 鳥獣害に強い集落づくりに対する支援
イノシシ、シカ、ハクビシン等による農作物被害が管内で拡大していることから、関係機関と連携して、鳥獣対策支援チームを結成し、モデル地域を設置した。フィールド・チェックやセンサーカメラにより加害鳥獣を特定し、講習会等で地域間での情報共有化を進め、電気柵や箱ワナ技術の導入等、農業者自らが集落全体で鳥獣害を軽減する取組を支援した。

2 調査研究及び各種展示ほ

(1) 普及指導員調査研究推進事業

ア 受粉とジベレリン処理によるスモモ‘貴陽’の着果安定効果の確認

高品質であるが、着果が不安定なスモモ‘貴陽’に対して、満開20日後のジベレリン処理が、着果率を向上させるために有効な技術であることが確認された。しかし、着果過多により、小果となったため、果実肥大に有効な摘果方法について、検証を継続する必要がある。

イ ウメかいよう病の防除方法の検討

管内の主要なウメ生産園における、枝、葉、果実のかいよう病発生状況及び農薬散布状況を調査し、かいよう病が抑えられる防除体系を検討した。その結果、かいよう病の発生について、農薬散布時期と降雨の関係が示唆された。現地でのかいよう病を減少させるため、引き続き、発生状況について調査し、検証を継続する必要がある。

(2) 各種展示ほ

ア 環境保全型農業推進事業

(ア) 後期加温型ハウスみかんのI P M防除技術の導入

ミカンハダニに対してスワルスキーカブリダニ(天敵)剤、灰色かび病に対してボトキラー水和剤ダクト散布、チャノコカクモンハマキに対してハマキコン-Nを組み合わせたI P M防除を実施したところ、灰色かび病対策及びチャノコカクモンハマキに対して高い防除効果が得られた。今回、スワルスキーカブリダニ剤については、培地の大ふすまが製造元の都合で変更となり、天敵が温存出来なかったため、化学農薬で補完防除を実施した。

イ 研究成果導入展示ほ

(ア) ダイコン新品種‘湘白’の現地適応性試験

県育成のダイコン新品種‘湘白’の県西地域における栽培適応性及び市場適応性を調査した。昨年、発生が見られた裂根対策として、施肥量を4分の3に減らし、うね幅を広くした結果、裂根の発生は減少した。市場では、慣行品種と比較して、A品では平均的に‘湘白’の評価が高かった。しかし、昨年は発生の認められなかった根部の傷が発生したため、原因の究明が必要である。

ウ 茶振興・産地育成事業

(ア) 荒茶品質に対する簡易被覆処理の効果

足柄茶の差別化した高品質茶の生産に向けた簡易被覆処理の効果を検討するため、現地試験を実施した。その結果、試験を行った4ほ場中3ほ場で、荒茶のうま味の指標となる全アミノ酸含量が高いことが確認できた。また、販売単価は、4ほ場全てで慣行栽培区を上回った。

成果の発表

1 平成26年度成果課題

(1) 普及奨励事項（成果）

部所名	課題名
生産技術部	‘湘南ポモロン’の露地作型及び半促成作型における栽植密度と生育及び収量特性
	生食用ナス‘サラダ紫’の露地夏秋栽培における仕立て法と収量及び着果特性
	ナタネの交雑防止基準
	イチゴ果実部局所加温システムの開発
	イチゴ果実部およびクラウン部局所加温システムの省エネルギー効果
北相地区事務所	ブドウ‘シャインマスカット’の果粒肥大促進のための摘心技術
北相地区事務所	茶樹における放射性セシウムの動態解明と剪枝による放射性セシウム濃度低減効果
足柄地区事務所	‘湘南ゴールド’の果実を有孔の高密度ポリエチレンシートで包めば、常温貯蔵庫内で4月下旬まで貯蔵できる

(2) 指導研究に有効な情報（成果）

部所名	課題名
企画経営部	果肉の硬さを目安に3段階でメロンのおいしさを示す指標を作りました
生産環境部	L型(PK低減)肥料連用で露地野菜畑土壌の交換性カリ含量は2年(5作)で基準値下限以下となる
	トマト‘湘南ポモロン・ゴールド’はカロテノイド異性化酵素に変異がありプロリコペンを蓄積して橙黄色になる
	神奈川県におけるSU剤抵抗性イヌホタルイの発生と迅速検定
北相地区事務所	茶冬期樹冠成葉(古葉)と一番茶新芽における放射性セシウム濃度の関係性の解明
	茶園土壌における放射性セシウムの動態解明
三浦半島地区事務所	三浦半島地域の冬春ダイコンにおける青変症の特徴と発生要因
足柄地区事務所	‘湘南ゴールド’さび果の発生には炭疽病菌が関与する

2 研究報告

誌名	課題名	研究者氏名	掲載	発行 年月
神奈川県農業技術センター研究報告 第160号	ダイコン白首総太り品種‘湘白’の育成	北浦健生 太田和宏 吉田 誠 曾我綾香 野路 稔 伊藤智司 岡田秀孝 北 宜裕	1	H28. 3
	神奈川県北相地域におけるハイブッシュ系ブルーベリー品種適応性及び食味評価の比較	武田 甲 川嶋幸喜 曾我部光現 北見 丘	7	
	冬春どりダイコンにおける青変症発生条件の解明（短報）	高田敦之 増田義彦	17	
	原著論文等（2014年11月～2015年10月、著者、表題及び掲載誌）		23	
	口頭発表（2014年11月～2015年10月、発表者、表題及び大会名）		23	

3 論文発表

発表誌名 (発行所)	執筆者名	課題名	巻、号 (発行年月)	掲載
Tropical Agriculture and Development (日本熱帯農薬学会)	立石亮 上吉原裕亮 聖代橋史佳 司馬肇 井村善之 渡辺慶一 野村和成 井上弘明	Characterization and Expression Analysis of a Putative -L-Arabinofuranosidase/-D-xylosidase Gene Derived from Avocado(アボカドにおける -L-アラビノフラノシダーゼ/ -D-キシロシダーゼ遺伝子の性質と発現解析)	Vol.59 No.1 (2015.7)	7-13
農業食料工学会誌 (農業食料工学会)	柴田健一郎	果樹のジョイント栽培における省力・軽労型生産技術	第77巻第6号 (2015.11)	402-406
フードシステム研究 (日本フードシステム学会)	鈴木美穂子 坂本真理 吉田誠 中村宣貴 椎名武夫 鍵和田聡	消費者視点のメロン熟度別おいしさ指標の作成	第22巻第3号 (2015.12)	213-218
関東東山病害虫研究会報 (関東東山病害虫研究会)	小林正伸	ダイコンわか症の発生生態の解明と防除対策	第61集 (2015.12)	1-5
日本感性工学会論文誌 (日本感性工学会)	熊王康宏 安藤利夫 鈴木美穂子 吉田誠 中村宣貴	地域ブランド創出におけるメロンの購買評価と脳波に関する感性評価研究	Vol.15No.1	55-64
雑草と作物の制御	稲毛正彦	都市近郊における規模拡大事例について	第11巻2015 (2106.3)	16-17

4 学会・研究会等発表

学会・研究会	発表者名 (*当日発表者)	課題名	発表期日	要旨集等への掲載頁数
日本土壌微生物学会 (2015年度大会)	*岡本昌広 折原紀子 吉田誠 上山紀代美 松本佳久 廣川隆彦 高橋亮 高見和清 戸川孝則 小原裕三	バイオエタノールの副成分が低濃度エタノール処理の消毒効果に及ぼす影響	H27. 5.22-23	122
日本フードシステム学会 (2015年度大会)	*鈴木美穂子 坂本真理 吉田誠 中村宣貴 椎名武夫	消費者目線のメロンのおいしさ指標の作成	H27. 5.31	86-87
関東東海北陸農業経営研究会 (平成27年度研究大会)	*北畠晶子	神奈川県における茶栽培 荒茶工場の実態と将来方向	H27. 7.17	
農林害虫防除研究会 (第20回農林害虫防除研究 大分大会)	*川田祐輔 松田広子 大矢武志	高濃度二酸化炭素くん蒸 処理によるハダニ類防除 の現地実証	H27. 7.22	6
農林害虫防除研究会 (第20回農林害虫防除研究 大分大会)	*大矢武志 折原紀子 岡本昌広 川田祐輔	キュウリ抑制栽培における IPM防除試験	H27. 7.22	12
日本植物病理学会 (平成27年度関東部会)	*折原紀子 篠原弘亮 三神和彦 上原娘香 圓城寺香織 岡本昌広 植草秀敏	コマツナ黒斑細菌病(新 称)の発生	H27. 9.10	28
日本農業気象学会 (農業環境工学関連5学会 2015年合同学会)	*深山陽子 辻本涉 藤代岳雄 宮内樹代史	イチゴ高設栽培における 果実およびクラウン加温 導入効果	H28. 9.15	46
農業食料工学会 (農業環境工学関連5学会 2015年合同学会)	*吉田誠 曾我綾香 黒木信一郎 中村宣貴 椎名武夫 タマワシ マスイカ 中野浩平	農産物の鮮度指標となる 揮発性成分の検索	H28. 9.15	H203

学会・研究会	発表者名 (*当日発表者)	課題名	発表期日	要旨集等への掲載頁数
日本食料工学会 (農業環境工学関連5学会 2015年合同学会)	*曾我綾香 吉田誠 中村宣貴 黒木信一郎 椎名武夫 クマウチ マスिका 中野浩平	施肥条件が農産物収穫後の品質保持に及ぼす影響	H28. 9. 15	H204
園芸学会 (平成27年度秋季大会)	*坂本真理 吉田誠 中津健 安藤利夫 高村宣貴 椎名武夫	1-MCP処理による神奈川県ハウスメロンの品質特性	H26. 9. 27	309
園芸学会 (平成27年度秋季大会)	*聖代橋史佳 久保深雪 吉田誠 上吉原裕亮 井上弘明	トマト‘湘南ポモロン’における -アラビノフラノシダーゼ遺伝子の発現解析	H26. 9. 27	297
園芸学会 (平成27年度秋季大会)	*久保深雪 聖代橋史佳 坂本真理 吉田誠	橙黄色系トマト‘湘南ポモロンゴールド’のカロテノイド蓄積制御機構	H26. 9. 26	589
園芸学会 (平成27年度秋季大会)	*高田敦之 草野一敬 藤代岳雄 岡田邦彦	キャベツの生育における地球温暖化の影響評価(第7報)温暖化時の抽苔リスク・シミュレーション	H27. 9. 26	203
園芸学会 (平成27年度秋季大会)	*小泉和明 柴田健一郎 曾根田友暁 北見丘	カキジョイント栽培における自動走行作業台車を活用した無人防除技術の開発	H27. 9. 26	358
中央農業総合研究センター (平成27年度関東東海北陸農業試験研究推進会議関東東海土壌肥料研究会)	*曾我綾香	施肥条件が農産物収穫後の品質保持に及ぼす影響	H27.11.18	
日本土壌肥料学会 (2015年度関東支部会群馬学会)	*竹本稔 上山紀代美	各種副資材混合牛ふん堆肥の窒素、リン酸肥効について	H27.11.28	5
日本土壌肥料学会 (2015年度関東支部会群馬学会)	*武田甲 黒澤晃 北浦健生	神奈川県内茶園土壌における放射性セシウム垂直分布の経時変化(第3報)	H27.11.28	11
関東東山病虫害研究会 (第63回研究発表会)	*岡本昌広 島田涼子 中島 修 折原紀子	神奈川県で発生しているウメの枝枯れ症状について	H28. 3. 3	病2-5

学会・研究会	発表者名 (*当日発表者)	課題名	発表期日	要旨集等への掲載頁数
関東東山病害虫研究会 (第63回研究発表会)	*折原紀子 篠原弘亮 瀧川雄一 中村陽香 三神和彦 上原娘香 圓城寺香織 岡本昌広 植草秀敏	神奈川県内のコマツナに発生した黒斑細菌病(病原追加)	H28. 3. 3	病2-9
関東東山病害虫研究会 (第63回研究発表会)	*大矢武志 安井奈々子 徳丸晋 阿部弘文 川田祐輔 植草秀敏	「赤赤」ネットのタバココナジラミに対する防除効果とトマト育苗中被覆における生育及び収量への影響	H28. 3. 3	虫19
関東東山病害虫研究会 (第63回研究発表会)	*川田祐輔 大矢武志	高濃度二酸化炭素くん蒸処理による植物体への影響及び害虫に対する防除効果	H28. 3. 3	虫18
関東東山病害虫研究会 (第63回研究発表会)	*奥村一	神奈川県におけるトマト灰色かび病菌のQoI殺菌剤, PP殺菌剤に対する薬剤感受性	H28. 3. 3	病1-17
日本農薬学会 (第41回大会)	*大矢武志 安部洋 櫻井民人 松浦昌平 川田祐輔 浅見忠男 三富正明 腰山雅巳	ジャスモン酸類縁体を用いた行動制御によるミカンキロアザミウマ防除	H28. 3. 19	A303
園芸学会 (平成28年度春季大会)	*上西愛子 聖代橋史佳 菊池真 木庭卓人 吉田誠 北宜裕	Brassica rapaとEruca sativaとの属間交雑系統におけるイソチオシアネート組成(第1報)	H28. 3. 27	168
園芸学会 (平成28年度春季大会)	*聖代橋史佳 久保深雪 上西愛子 吉田誠 上吉原裕亮 立石亮 井上弘明	生食・加熱調理兼用トマト‘湘南ポモロン・レッド’の肉質形成と-アラビノフラノシダーゼ	H28. 3. 27	460

学会・研究会	発表者名 (*当日発表者)	課題名	発表期日	要旨集等への掲載頁数
園芸学会 (平成28年度春季大会)	*柴田健一郎 小泉和明 曾根田友暁 北見丘	ニホンナシジョイントV 字トレリス樹形の省力性	H28. 3.27	275
日本応用動物昆虫学会 (日本昆虫学会第76回大会 、第60回応用動物昆虫学会 合同大会)	*川田祐輔 松田広子 大矢武志	高濃度二酸化炭素くん蒸 処理によるハダニ類防除 の現地実証	H28. 3.28	P28

5 依頼講演

演題	講師	依頼者	講演会名	講演日
農業分野の取り組み	深山陽子	神奈川工科大学	「Stop the CO2 最前線」講義	H27. 6. 5
野菜作におけるたい肥施用の基本と現場利用	竹本稔	農林水産省生産局長	平成27年度中央畜産技術研修会	H27. 9.17
牛ふん堆肥のカリウム肥効	竹本稔 重久綾子	(国)農研機構 中央農業総合研究センター	関東東海土壌肥料研究会	H27.10. 8
ニホンナシのジョイント仕立て	柴田健一郎	千葉県東葛飾農業事務所	ナシのジョイント仕立て研修会	H27.10.23
ジョイント栽培における省力・軽労型生産技術体系化への取組	柴田健一郎	新潟県農林水産部経営普及課	日本なしジョイント栽培研修会(佐渡市)	H27.11. 7
神奈川県における施設園芸と省エネへの取組み	深山陽子	(独)農研機構 近畿中国四国農業研究センター	温室の省エネルギー技術の現状と暴風施設の活用	H27.11. 9
果実の品質保持	吉田誠	J A さがみ果樹部会	J A さがみ果樹部会連絡協議会講習会	H27.11.11
ウメのジョイント仕立てせん定	柴田健一郎	水戸の梅産地づくり協議会	ウメのジョイント仕立てせん定講習会	H27.12. 2
神奈川県における施設園芸研究の取り組みと植物工場に期待すること	深山陽子	横浜市	ヨコハマ・アグリフォーラム 特別セミナー	H27.12.11
ナシのジョイント仕立ての管理について	柴田健一郎	茨城のナシ産地改革支援協議会	茨城県梨組合連合会登記研修会	H27.12.11
ジョイント栽培技術について	柴田健一郎	とちぎ農産物マーケティング協会果樹部会梨専門部	平成27年果樹部会梨専門部栽培技術向上セミナー	H27.12.17
ナシのジョイント栽培における剪定について	柴田健一郎	三重県中央農業改良普及センター	平成27年度三重ナシジョイント栽培研究会せん定研修会	H28. 1.15
果樹栽培の機械化、自動化へ向かうジョイント技術	柴田健一郎	農研機構・果樹研究所	平成27年度落葉果樹研究会小集会「機械化に適した樹形とは」	H28. 2. 3
みんなでつなげよう・ジョイント栽培	柴田健一郎	J A 郡山方部果樹部連絡協議会 J A 全農福島郡山営農事業所	J A 郡山方部果樹部連絡協議会ナシジョイント栽培管理講習会	H28. 2. 5
ジョイント樹形による果樹栽培の省力・機械化に向けた取組み	柴田健一郎	農研機構・生研センター	平成27年度農業機械開発改良試験研究打合せ会議・園芸部会	H28. 3.11

6 雑誌等発表

誌名	執筆者名	課題名	巻(号)	掲載
熊本の果実	北見丘	ジョイント仕立ての適用樹種の拡大への取り組みについて	第52巻 平成27年4月号	4-7
果実日本	曽根田友暁	「話題の品種」日本ナシ「なつみず」	第70巻第4号	4
施設と園芸	高田敦之	三浦半島における無加温パイプハウスによるパプリカ栽培体系の確立	No.170	14-17
植物防疫	折原紀子	神奈川県におけるQoI剤耐性ウリ科野菜つる枯れ病菌の発生とその効果	第69巻第8号	475-479
JATAFFジャーナル	柴田健一郎	果樹のジョイント栽培技術仕立てを核とした省力・低コスト栽培システムの開発	第3巻8号	57
JATAFFジャーナル	吉田誠	地域ブランドを創出するおいしさ(品質)評価 - 神奈川県の事例 -	第3巻12号	36-40
農業共済新聞	柴田健一郎	ジョイント栽培と作業機械を組み合わせた省力・軽労型果樹栽培技術の開発	平成27年12月 第2週号	営農技術面
農業電化	二村友彬	ネギアザミウマとミカンキイロアザミウマの光への応答反応と防除への応用の可能性	第69巻1号	16-19
果実日本	二村友彬	果樹管理のポイント キウイフルーツ	第71巻1号	118-120
農業共済新聞	柴田健一郎	脚立はもういらない！ ウメのジョイント仕立て	平成28年2月 第1週号	営農技術面
果実日本	二村友彬	果樹管理のポイント キウイフルーツ	第71巻3号	101-103
土作りとエコ農業	竹本稔	原材料のph等に留意した生ごみの効率的堆肥化方法	48(2)	11-16
雑草と作物の制御	聖代橋史佳	神奈川におけるSU剤抵抗性イヌホタルイの現状	第11号	31-32

受賞・特許等

1 受賞

(1)平成27年11月期 環境農政局長表彰（H27.11.17表彰）

ア 施設イチゴ、キュウリにおける環境保全型防御技術普及チーム

<業績の内容>

県内の施設野菜生産の主要品目であるイチゴ、キュウリにおいて、防除が困難な病害虫の被害増加による安定生産の困難さに加え、消費者からは安全安心な農産物の安定供給が求められている中で、化学農薬のみに頼らない病害虫防除技術の導入・普及に平成23年度から取り組んだ。栽培工程の適正管理の他、微生物農薬、天敵農薬、フェロモン剤等総合防除技術の導入・普及を図るため、関係機関との調整や県民の協力を得て啓発、誘導、指導を粘り強く続けた結果、病害虫の発生が大幅に削減され、またこれら一連の取り組みにより新技術に対する生産者の理解も進み、安定生産が図れた。

イ リンゴの樹体ジョイント栽培技術開発チーム

<業績の内容>

狭小で傾斜地が多く、高齢化が進む北相地域の状況を踏まえ、樹形がコンパクトで安全かつ省力的なリンゴ樹体ジョイント栽培技術の研究を進めた。研究蓄積が少ない上、種々の技術も求められたが、的確な情報収集、綿密な研究計画等により、収穫が定植3年目から可能で、果実品質の高い栽培技術を確立できた。この栽培方法によって、直売向けの様々なリンゴ品種を導入しやすくなり、また樹形が単純なため経験が少なくとも栽培できることが期待される。技術開発の過程で得られた知見は学術的価値が高く、リンゴ生産県の研究者からの注目度も高い。

(2)平成27年3月期 環境農政局長表彰（H28.3.18表彰）

ア 試験研究推進構想改定作業チーム

<業績の内容>

「農林水産」関係試験研究推進構想」について、本県の農畜水産業や研究を取り巻く状況、これまでの取組結果と課題、かながわランドデザイン第2期実施計画等を踏まえ、3つのセンターでは所内での検討のほか、関係機関との調整や担当者間での情報交換など連携しながら精力的に検討を重ねた結果、今後5年間で取り組むべき試験研究の基本姿勢等を取りまとめ、平成28年3月に改定、公表することができた。

イ 企画経営部普及企画担当

<業績の内容>

直接農業者に接して技術的な支援を行う普及指導活動の実施方針等の改定について、国の運営方針との整合を図りつつ、本県農業の特性を踏まえた普及指導活動を推進するため、チームワークを発揮して関係部署や市町村、農業関係団体との調整等を計画的、効率的に取り組んだ。

この結果、平成28年3月に改定作業を終了し、次年度から新たな普及指導基本計画等に基づき、担い手の育成・確保や地域農業の振興支援等を強化した協同農業普及事業の推進に大きく貢献した。

(3)職員功績賞（知事表彰）（H27.12.18表彰）

ア 赤色防虫ネットによる微小害虫防除技術開発チーム

<業績の内容>

赤色防虫ネットの目合いを細かくしても十分な進入防除効果が得られない微小害虫、特にアザミウマ類の防除方法として、赤色を認識できない特性に着目し、赤色防虫ネットを開発した。

(4)平成27年度優良職員表彰

ア 勤続25年表彰（H27.12.16表彰）	全7名
生産技術部（果樹花き研究課）	1名
" （野菜作物研究課）	1名
普及指導部（作物加工課）	1名
横浜川崎地区事務所	1名
三浦半島地区事務所	2名
足柄地区事務所	1名

2 権利化されたもの

区分	名称	発明者	特許等（登録）	
			年月日	番号
特許	*訪花性昆虫の誘殺装置	内田 正人	S48.9.7 S59.2.27消滅	702712
	* 植物栽培用光源体	佐藤 紀男 他	S51.11.18 S59.3.22消滅	835519
	*農作物の貯蔵方式	大垣 智昭 真子 正史 他	S52.3.31 消滅	853834
	*蚕用飼料添加物	村越 重雄 他	S55.11.25 消滅	1020721
	*温室内蓄熱暖房方法	佐々木 皓二 他	H 1. 7.26 H6.11.17消滅	1507466
	*シクラメンの組織培養法	三浦 泰昌 他	H 3.12.20 H9.11.15消滅	1629679
	*人力移動式植物栽培装置	土屋 恭一 成松 次郎 他工業試1名	H 6. 4.11 H17.7.23消滅	1837477
	* 植物種子の発芽率を向上させる処理方法	林 英明 他	H 6.10. 7 H10.12.15消滅	1878058
	*キウイかいよう病の診断方法	牛山 欽司 他衛生研4名	H 7.11. 8 H11.1.30消滅	1989019
	茶における -アミノ酪酸の蓄積方法	白木 与志也	H12. 7.21	3089596
	*ルバーブ飲料の製造方法処理方法	吉田 誠 石田 恵美 小清水 正美	H12.10.27 H15.10.27消滅	3122928
	*べたがけ用資材及び農作物類の栽培方法	五十嵐 大造 他	H12.10.27 H20.10.27消滅	3124504
	*養液栽培装置	成松 次郎 土屋 恭一 廣瀬 一郎	H13. 9. 7 H18.9.7消滅	3227564
	*野菜移植機および移植方法	米山 裕 逸見 繁樹 他	H21. 8.21 H25.8.21消滅	4359668
樹木の樹体ジョイント仕立て法	柴田 健一郎 川嶋 幸喜	H24.1.6	4895249	
花卉の育苗方法及び育苗システム	原 靖英 (株)スタンレー電気	H25.10.4	5376667	
実用新案	* 農産物貯蔵用容器	大垣 智昭 真子 正史 他	S52.4.28 消滅	1171752
	*水耕栽培用苗鉢における苗の支持装置	佐々木 皓二 他	S52.4.28 消滅	1172903
	*温湯を利用した温室の栽培土壌消毒装置	林 勇 他	S58.10.17 H4.7.23消滅	1510543

(注)*は権利が消滅したもの。 は実施許諾契約を締結している又はしていたもの。

区分	名称	発明者	特許等(登録)	
			年月日	番号
実用新案	* 組立あるいは分解可能な通風ダクトの構築体	佐々木 皓二 他	S59.9.28 H5.3.31消滅	1570172
	* 未熟落花生の脱莢用口ロール	土屋 恭一 廣瀬 一郎 河田 隆弘	H 8. 4.25 H14.4.25消滅	2504406
	* 野菜等の包装装置	土屋 恭一 他工業試1名	H 8.12.20 H12.12.20消滅	2530117
品種登録	* すいか「ラクビーボール」	平石 雅之	S58. 5.30 H10.5.31満了	403
	* ばら「フレンドソニア」	大川 清	S60. 1.23	800
	* ばら「プライダルソニア」		H15.1.24消滅	801
	* いちご「紅寿」	佐藤 紀男	S61. 1.18 H9.1.19消滅	944
	* もも「照手紅」	高橋 栄治	S61. 3. 3	970
	* もも「照手桃」	岡部 誠	H16.3.4消滅	971
	* もも「照手白」	山崎 和雄		972
	* ばら「湘南ファンタジー」	林 勇	S63.12.13 H17.12.14消滅	1845
	* アマリリス「スカーレットニノミヤ」	林 勇	H 2. 8. 4 H7.8.5消滅	2378
	* もも「照手水蜜」	浅岡 巳代治 高橋 栄治 山崎 和雄 岡部 誠 上代 嘉子	H 2.10. 6 H20.10.7消滅	2406
	* さといも「神農総研1号」	林 英明 藤代 岳雄	H 3. 6.19 H11.6.21消滅	2699
	* もも「照手姫」	高橋 栄治 堀越 禎一 山崎 和雄 岡部 誠 上代 嘉子	H 5. 3.17 H23.3.18消滅	3460
	* たまねぎ「早生湘南レッド」	林 英明 法月 靖生 藤代 岳雄	H 5.10.13 H20.10.15消滅	3701
	* ばら「プライダルファンタジー」	水野 信義 林 勇 川嶋 千恵	H 8. 6.13 H17.6.14消滅	5122
	* ばら「ラブミーテンダー」	水野 信義 林 勇 川嶋 千恵	H 8. 6.13 H22.6.15消滅	5123
* からしな「大山そだち」	藤代 岳雄 林 英明 法月 靖生 成松 次郎 坂本 英介 望月 正之	H 9. 2.28 H24.2.29消滅	5372	

(注)*は権利が消滅したもの。 は実施許諾契約を締結している又はしていたもの。

区分	名称	発明者	特許等（登録）	
			年月日	番号
品種登録	* なし「あけみず」	菱谷 政富 安延 義弘 重田 利夫 片野 佳秀 青野 信男 小田切 克治 柴田 健一郎 渡辺 裕恵	H 9. 3. 19 H25. 3. 20消滅	5554
	* ばら「スターマイン」	水野 信義 富田 裕明 川嶋 千恵	H10. 3. 9 H18. 3. 10消滅	6188
	* スイトピー「アルテミス」	山元 恭介	H10. 7. 14 H17. 7. 15消滅	6579
	からしな「さがみグリーン」	藤代 岳雄 林 英明 法月 靖生	H12. 3. 30	7905
	さるすべり「ディアパープル」	堀越 禎一 岡部 誠	H14. 9. 4	10612
	さるすべり「ディアルーージュ」	堀越 禎一 岡部 誠	H14. 11. 14	10859
	かんきつ類「湘南ゴールド」	真子 正史 牛山 欽司 廣部 誠 片木 新作 伊與部 有一 真壁 敏明 香川 陽子 簀島 恒樹 浅田 真一	H15. 11. 18	11469
	さるすべり「ディア ウィーピング」	堀越 禎一 岡部 誠	H15. 11. 18	11566
	* スイトピー「湘南オリオン」	柳下 良美 山元 恭介	H16. 3. 3 H23. 3. 4消滅	11732
	* ばら「湘南キャンディレッド」	原 靖英 柳下 良美 北浦 健生 山元 恭介	H17. 1. 19 H23. 1. 20消滅	12643
	スイトピー「リップルラベンダー」	山元 恭介 柳下 良美	H17. 3. 14	12874
	スイトピー「リップルピーチ」	山元 恭介	H18. 2. 27	13790
	スイトピー「リップルショコラ」	柳下 良美		13791
	* ばら「湘南キャンディピンク」	原 靖英	H18. 3. 24	14261
	* ばら「湘南キャンディルーージュ」	他1名	H23. 3. 25消滅	14262
ねぎ「湘南一本」	河田 隆弘 北 宜裕 野路 稔	H19. 8. 7	15544	

(注)*は権利が消滅したもの。 は実施許諾契約を締結している又はしていたもの。

区分	名称	発明者	特許等（登録）	
			年月日	番号
品種登録	あおき「湘南おりひめ」	原 靖英 堀越 禎一 岡部 誠 並河 治	H20. 2.22	16133
	あおき「湘南ひこぼし」	原 靖英 堀越 禎一 岡部 誠	H20. 2.22	16134
	* キウイフルーツ「片浦イエロー」	佐々木 皓二 鈴木 伸一 浅田 真一 真壁 敏明 真子 正史 片木 新作 香川 陽子 籾島 恒樹 鈴木 誠	H20. 3.13 H28.3.13消滅	16475
	* ばら「マリアージュシャルマン」	原 靖英	H21. 2.26 H25.2.26消滅	17564
	なす「サラダ紫」	北 宜裕 北浦 健生 曾我 綾香 サカタの種(株)	H21. 3.19	18153
	なし「香麗」 なし「なつみず」	内山 真由美 川嶋 幸喜 小泉 和明 柴田 健一郎 曾根田 友暁 関 達哉 北尾 一郎 大井 貴博	H24.10.23	22053 22054
	うめ「虎小姫」 うめ「十郎小町」	内山 真由美 川嶋 幸喜 小泉 和明 柴田 健一郎 曾根田 友暁 関 達哉 北尾 一郎 大井 貴博 小田原市梅研 研究会	H26. 3.12	23297 23298
	だいこん「湘白」	北浦 健生 太田 和宏 吉田 誠 曾我 綾香 北 宜裕 横浜植木(株) 野路 稔	H27. 6.19	24375

(注)*は権利が消滅したもの。 は実施許諾契約を締結している又はしていたもの。

3 出願中のもの

区分	名称	発明者	上段：出願、下段：公表	
			年月日	番号
特許	防虫ネット	大矢武志 仲田雅雄 植草秀敏 小林正伸 太田和宏 日本ワイドク ロス	H22.11.4	2010-247319
	作物の栽培装置	深山陽子 逸見繁樹 藤代岳雄	H27.2.4	2015-20113

注： は実施許諾契約を締結しているもの。

4 出願したもの

区分	名称	発明者	出願(受理)	
			年月日	出願番号
特許	× 温湯を利用した温室の栽培土壌消毒装置	林 勇 他	S52.7.23 S54.10.25承服	52-88736
	× 蓄熱槽	佐々木 皓二 他	S57.12.27 S62.8.18承服	57-226947
	× シクラメン苗の接木方法	三浦 泰昌	H 4. 3. 5 H8.6.10承服	4-48279
	× 桑葉加工食品とその製造方法	鈴木 誠 有賀 勲 高橋 恭一	H 7.11.15 H12.3.14承服	7-296979
	× シクラメンの半数体の育成方法	北浦 健生 三浦 泰昌 真子 正史 高柳 りか	H 7.12.28 H12.3.21承服	7-343330
	× マルチ栽培法及びマルチ資材への切れ目入れ装置	大嶋 保夫	H 8.12. 2 H12.9.5承服	8-321671
	× ダイコン洗浄機	土屋 恭一 米山 裕 廣瀬 一郎 他	H 9. 9. 4 H13.12.27承服	9-239652
	× 青果物非破壊糖度計	吉田 誠 坂本 真理 小清水正美 他	H11. 6.14 H16.6.29承服	11-166166
	× × 農産物の仕分け装置	土屋 恭一 米山 裕 他	H12. 8.25 H19.8.25放棄	00-255111
	× 有機物の堆肥化方法及び装置	竹本 稔 武田 甲 他	H14. 1.31 H23.1.11承服	2002-024134
	× 農業用液体の処理方法及び装置	深山 陽子 他	H14.12.27 (国内優先権) H18.4.7承服	2002-379967
	× × 循環型污水浄化方法	深山 陽子 他	H16.10.15	2004-301758
	× × 吸着型污水浄化方法	深山 陽子 他	H16.10.15	2004-301764
	× 切り花の品質保持方法およびシステム	吉田 誠 曾我 綾香他	H17. 1.14 H22.12.14承服	2005-007524
	× × 簡易型光触媒利用排水処理装置およびそれを用いる排水の浄化方法	深山 陽子 他	H17. 4.14 H20.3.21放棄	2005-116980
	× 小型溶液浄化装置	原 康明 吉田 誠 曾我 綾香	H18. 9. 1 H23.10.3承服	2006-237469
× バラの栽培方法	原 靖英	H20.11.17 H25.09.11	2008-293654	

(注) × は拒絶査定承服したもの、××は、審査請求しなかったもの

区分	名称	発明者	出願(受理)	
			年月日	出願番号
実用新案	× 溶液採取装置	郷間 光安	S62.05.12 H5.09.7承服	62-69609
	× 植木鉢温度調節装置	三浦 泰昌	H03.12.24 H7.12.5承服	3-111590
品種登録	× サイトピー「スプラッシュパープル」	柳下 良美	H24.11.16	27580
	× サイトピー「スプラッシュブルー」	柳下 良美	H25.02.25	27581
	× サイトピー「スプラッシュレッド」	柳下 良美	H25.10.21	28956

(注) × は拒絶査定承服したもの

広報及び公開

1 発行者

(1) 発行者一覧

刊行誌	発行年月	ページ数	発行部数
研究報告 第160号	H28. 3	28	570
農業技術センターニュース (年2回8月、3月)	H27. 9 H28. 3	4 4	4,000 4,000
平成27年度 普及活動実績(普及指導部)	H28. 3	66	200
平成27年度 普及活動実績(横浜川崎)	H28. 3	40	250
平成27年度 普及活動実績(北相)	H28. 3	29	100
平成27年度 普及活動実績(三浦半島地区)	H28. 3	42	200
平成27年度 普及活動実績(足柄)	H28. 3	36	100

(2) 農業技術センターニュースの掲載テーマ一覧

号数 発行年月	掲載テーマ
第26号 H27.9	水稲の新しい奨励品種‘はるみ’について (生産技術部・普及指導部)
	有孔高密度ポリエチレンシートを利用して‘湘南ゴールドの’の常温貯蔵ができます (足柄地区事務所)
	メロンのおいしさを示す指標を作成しました (企画経営部)
	ステップアップセミナー (横浜川崎地区事務所)
	新規参入者等の担い手の経営確立の支援 (北相地区事務所)
	トマト‘湘南ボモロン’の品質特性の解明 (生産環境部)
第27号 H28.3	キャベツ播種時の地床灌注処理によるネギアザミウマおよびハイマダラノメイガ同時防除 (生産環境部)
	高設栽培に適用する省エネルギー・高生産性イチゴ局所加温システムの開発について (生産技術部)
	全国的に生産量が少ない地域特産物の生産支援(農薬登録拡大の取り組み) (生産環境部)
	ブドウ‘シャインマスカット’の果粒肥大促進のための新梢管理法 (生産技術部)
	自動走行車(ゴルフカー)を利用した自動防除 (生産技術部)
	肥効調整型肥料を用いたアスターの育苗箱栽培 (生産技術部)
農業用アシストスーツの実証 (生産技術部)	

全てカラー印刷

掲載したテーマ数は13で、内訳は企画経営部1、生産技術部6、生産環境部3、普及指導部1、横浜川崎地区事務所1、北相地区事務所1、足柄地区事務所1であった。

2 記者発表等

年月日	発表内容	発信部所
H27. 9.25 参考資料送付	期待の新ブランド米、稔りの時を迎えています！ ～ 神奈川生まれのお米「はるみ」の収穫作業が佳境に入りました～	普及指導部
H27.10.21 参考資料送付	神奈川で生まれた「さがみグリーン」の試食販売会が開催されます！	普及指導部
H28. 1.28 参考資料送付	神奈川県農業技術センター研究成果発表会を開催します	企画経営部

3 研究成果の展示等

(1) 研究成果のパネル等展示

ア パネル展示

農業技術センター本館内に、次のとおり最近の研究成果等をパネル展示した。

展示場所	テーマ
1 階	神奈川県農業技術センター
	農畜水林を結ぶネットワーク
	GISソフトを利用した研究
	足柄地域手作り味噌の品質分析（2枚）
	短葉鞘化栽培ネギの品質評価
	キャベツの加重負荷処理による品質変動（バルクコンテナ輸送のための品質評価）
	ウメ‘十郎’の収穫熟度による生ウメ・梅干製品の品質変動
	湘南みかンドレッシングの開発
	食べごろメロンを提供するためのメロンの消費者ニーズの解明
	近赤外分光法による追熟中メロンの非破壊品質評価
	神奈川県産唐辛子を利用したホットソースの開発
	赤タマネギ‘湘南レッド’のアントシアニン色素と抗酸化活性
	花色・葉色の自動同定装置の開発
	イチゴ果実のアントシアニンおよびカロテノイド色素
	有機質資材の長期連用がハウレンソウの品質に及ぼす影響
	ハウレンソウ硝酸塩含有量簡易測定時の測定部位
	ダイコンを加工したツマ品質評価手法の検討
	農産物の短期流通における簡易品質保持方法の開発
	携帯型近赤外分析装置FQA-NIRGUNによるメロン糖度測定
	ふれあい 味わい かながわブランド（2枚）
	メロン用非破壊糖度計「甜瑞」のスイカへの応用
	メロン用簡易非破壊糖度計の開発
	近赤外分光によるメロン非破壊糖度計測定
	糖及び界面活性剤による前処理がバラ切り花の持ちに及ぼす影響
	小型溶液浄化装置による切り花品質保持の検討
	切り花品質保持期間を延長する小型溶液浄化装置の開発
	糖吸収を利用した切り花品質保持方法への光触媒応用
	農産物の非破壊品質評価技術の開発
	農産物の品質評価技術の開発
	カンキツ‘湘南ゴールド’貯蔵中の品質変化
	カンキツ‘湘南ゴールド’の品質特性
	あつぎフラワーマップ
	地元農産物を使った農産加工品の開発
	農産加工品が販売されている管内の主な大型直営所
	ナシの樹体ジョイント仕立て法ノ栽培の簡易・効率化（各1枚、写真1枚）
	ジョイント仕立て特許許諾システム
	省エネルギー・高生産を目指したバラ株元加温技術
	～切らずに測定可能な糖度計～メロン用近赤外分光によるメロン用非破壊糖度計「甜瑞」
	神奈川県農業技術センター20年のあゆみ
	白首総太りダイコン新品種「湘白（しょうはく）」
スイートピーの新品種リップルシリーズ	
トマト「湘南ポモロンシリーズ」	

展示場所	テーマ
1階	<p>ナシ「香麗」「なつみず」</p> <p>カンキツ「湘南ゴールド」</p> <p>キウイフルーツ「片浦イエロー」</p> <p>ウメ「十郎小町」「虎子姫」</p> <p>ナス「サラダ紫」</p>
3階	<p>神奈川県の新しい奨励品種 水稻「さとじまん」</p> <p>根深ねぎの新品種「湘南一本」</p> <p>ナシの樹体ジョイント仕立て法/栽培の簡易・効率化(各1枚)</p> <p>ジョイント栽培と作業機械を組み合わせた「省力・軽労、低コスト・安定」果樹栽培～省力樹形を基盤とする果樹の省力・軽労型生産技術体系の実証～</p> <p>継続的な果樹経営を可能とする生産技術の実証研究</p> <p>被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究</p> <p>ジュシーでさわやかな甘さ湘南ゴールド</p> <p>～切らずに甘さが分かります!～メロン用近赤外分光による非破壊糖度計「甜揣」</p> <p>～サラダでも美味しく食べられる～ ナスの新品種 サラダ紫</p> <p>～七夕のようなきらめきをお庭に～ アオキの新品種「湘南ひこぼし」</p> <p>「湘南おりひめ」誕生!!</p> <p>ダイコンの出荷調製作業を軽労 ダイコン水切り台車</p> <p>ダイコン水切り台車改良による作業姿勢改善効果</p> <p>豚舎汚水から回収されたリン酸結晶の肥料効果</p> <p>堆肥化による所内圃場残さの有効利用</p> <p>省エネルギー・高生産を目指したバラ株元加温技術</p> <p>イチゴ局所加温システムの開発</p> <p>ニホンナシジョイント 字トレリス樹形の省力性</p> <p>ニホンナシ樹体ジョイント仕立て樹の樹勢適正化のための主幹間引き適期の検討</p> <p>「みかん加工品」と「みかんの木パートナーシップ」プログラム</p> <p>県育成中晩柑品種「湘南ゴールド」の生産拡大</p> <p>地場産物を活用した農産加工企業活動の支援</p> <p>湘南みかンドレッシングの開発</p> <p>ニホンナシの新品種「香麗」「なつみず」</p> <p>ニホンナシ「樹体ジョイント仕立て」「幸水」実物模型</p>
4階	<p>県内土壌の化学性の経時変化</p> <p>紙の地図からコンピュータ利用へ</p> <p>土壌養分や作物の栄養状態をリアルタイムに診断する技術の開発</p> <p>土壌モノリス(9種類)</p>
5階	<p>日本産マルハナバチの農業利用</p> <p>サトイモ新品種「神農総研1号」</p> <p>家庭用生ごみ処理装置の開発</p> <p>ダイコンわか症の発生原因は白さび病菌である</p> <p>各種薬剤によるダイコンわか症に対する防除効果の検討</p> <p>生物及び化学農薬の花房処理によるトマト灰色かび病に対する防除効果の検討</p> <p>メロンホモプシス根腐病の太陽熱を利用した土壌消毒</p> <p>新しい土壌診断プログラムの開発</p>

イ 実物展示(花菜ガーデン)

NO.	展示期日	品目	担当部
1	H27.10.20- 11. 3	水稻奨励品種(はるみ、さとじまん)の展示	生産技術部
2	H27. 1.31- 2.11	スイートピーの展示	生産技術部

(2)本庁舎等での研究成果等の展示

ア 本庁舎公開

開催期間：平成27年5月30日～31日

開催場所：本庁舎大会議場

展示内容：当所育成品種等研究成果のパネル及び水稻‘はるみ’の実物展示

イ 家畜に親しむつどい

開催日：平成27年11月1日(日)

開催場所：畜産技術センター

展示内容：パネル(「所概要」1枚、「育成品種紹介」3枚、「普及活動紹介」1枚)

(3)「かながわ科学技術フェア2015」へ出展

開催日：平成27年11月7日(土)

開催場所：新都市プラザ(そごう横浜店地下2階正面入り口前)

展示内容：パネル(「育成品種の紹介」4枚、「所概要」1枚)

実物(当所育成品種:湘南一本・湘南ゴールド・片浦イエロー・サラダ紫)

(4)「アグリビジネス創出フェア2015」へ出展

開催期間：平成27年11月18日(水)～11月20日(金)

開催場所：東京ビッグサイト(東6ホール)

展示内容：神奈川県農畜水産系試験研究機関の紹介

農業技術センター

・ナシの樹体ジョイント仕立て法(模型、パネル)

・イチゴ局所加温システムの開発(模型、パネル)

水産技術センター

・相模湾産トラフグを増やしています(パネル)

4 研究成果発表会

農業技術センターの研究成果を広く県民等に紹介するために開催した。

開催日時：平成28年2月8日(月)18:00～21:00

開催場所：かながわ県民センター ホール

参加者数：119名

発表内容：かながわ特産品の開発(育成品種の紹介)

くだもの作りを革新する 果樹のジョイント栽培

施設栽培におけるエネルギー・高生産技術

農産物の品質・機能性・6次産業化

消費者ニーズに応える農産物の販売方法

展示内容：パネル 育成品種の紹介 5枚、栽培技術 3枚

実物 当所育成品種(湘南ゴールド・湘南ポモロン・湘南一本・スイートピー)

加工品(湘南ゴールド、湘南スタイル加工品)、赤ネット

5 公開

(1)本所

ア 科学技術週間 施設公開

開催日：平成27年8月7日(金)～8月8日(土)

見学数：203名（7日：130人、8日：73人）

開催内容： 本館、温室、試験ほ場、付属施設の公開、 試験研究成果等の展示
病害虫の顕微鏡観察、 園芸相談、 研究ほ場見学ツアー

イ かながわサイエンスサマー「こども科学教室」

開催日：平成27年8月7日(金)

参加者数：43名

教室別人数内訳

(単位；人)

行事名	対象児童	保護者他	合計
トマトとナスのつぼみから果実へ 見て、さわって、食べてみよう	5	3	8
花の色を使って液体の性質を調べてみよう	17	23	40
畑の虫・山の虫 虫をひきつけるもの	7	6	13
夏野菜を使ってジュースやジャムを作ろう	5	6	11
合計	34	38	72

(2)三浦半島地区事務所

ア 夏休み三浦半島野菜教室

開催日：平成27年7月23日(木)

開催場所：神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所

見学数：小学生と保護者20組 計52名

内容： 畑でのスイカの栽培方法や、特徴についての説明及び収穫

品種による重さ大きさ、糖度、食味の違いの調査

土作りのために栽培しているヒマワリ畑での迷路探検やヒマワリのつみ取り

イ 三浦ダイコン収穫体験学習

開催日：平成27年12月10日(木)、11日(金)

開催場所：神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所

人数：291名

内容：三浦半島農業、三浦ダイコンの説明、収穫体験

(3)施設見学者

(単位：人)

対象	本所			地区事務所			合計	備考
	県内	県外	小計	県内	県外	小計		
農業関係	265	483	748	236	150	386	1,134	生産者団体、全農 他
団体等	105	0	105	59	28	87	192	市民団体、各種講座、企業団体
官公庁	9	12	21	11	83	94	115	他県自治体、市町村 他
研究機関	3	8	11	0	3	3	14	他県農業関連研究機関、研究会
学校関係	280	24	304	198	29	227	531	高校生、中学生、大学生 他
一般県民	203	-	203	76	-	76	279	科学技術週間 他
海外	-	28	28	-	0	0	28	
計	865	555	1,420	580	293	873	2,293	

(4)オープンラボラトリー利用状況の推移

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
農産	件数	28	21	22	31	28	39	24	23	19	25
加工	人数	144	129	115	90	105	157	81	83	63	72
生物	件数	31	60	28	28	0	1	2	0	14	54
工学	人数	37	66	32	41	0	2	2	0	23	107
合計	件数	59	81	50	59	28	40	26	23	33	79
	人数	181	195	147	131	105	159	83	83	86	179

研修・諸会議

1 研修

(1) 研修の受入

ア 短期技術研修生

受入期間	所属等	研修対応部所	人数	研修内容
H27. 4. 1～ 28. 2.10	玉川大学 生物資源学部	生産環境部・ 病害虫研究課	2名	病害虫防除技術
H27. 8.17～ 8.28	岡山大学 農学部	生産技術部・ 病害虫研究課	1名	病害虫防除技術
H28. 2.29～ 3.11	東京農業大学 短期大学部	生産技術部・ 野菜作物研究課	3名	野菜栽培
		生産技術部・ 果樹花き研究課	3名	花き栽培

イ 海外技術研修員

受入期間	国名	研修対応部所	人数	研修内容
H27.10.1～ H28.3.4	ベナン	生産技術部・ 野菜作物研究課	1名	野菜栽培
	ベトナム	生産環境部 土壌肥料研究課	1名	土壌分析

(2) 農業技術センターセミナー実績

ア 第1回（開催日：平成27年6月24日 場所：本所）

【外部講師講演】

研究活動の不正行為及び研究費の不正な使用について

国立研究開発法人科学技術振興機構研究公正室室長 安藤利夫 他2名

イ 第2回（開催日：平成28年2月29日 場所：本所）

【外部講師講演】

都市農業を取り巻く制度・税制等について

JA神奈川中央会農政営農部副調査役 柳井祥宏

ウ 第3回（開催日：平成28年3月17日 場所：本所）

【外部講師講演】

生産技術の革命に向けた神奈川県試での取組

大阪府立大学名誉教授、合同会社つくばGBソリューション代表社員 池田英男

2 試験研究・事業諸会議の開催

開催場所	年月日	試験研究・事業諸会議
本所	H27. 5.22	平成26年度試験研究成績発表会（果樹）
本所	H27. 6.30	平成26年度農業技術センター組換えDNA実験安全委員会
足柄地区事務所研究課	H27. 6.25	平成26年度試験研究成績発表会（かつし・ちいぐるみ）
本所	H27. 6.30	平成27年度農業技術センター環境安全管理協議会
三浦半島地区事務所	H27. 7.10	平成26年度試験成績発表会（三浦半島野菜）
本所	H27. 8.12	平成26年度試験研究成績発表会（野菜・普通作・花き・鑑賞樹）
足柄上合同庁舎	H27. 8.25	平成26年度試験研究成績発表会（茶）
本所	H27.11.20	試験研究課題検討会議
本所	H27. 2.20	平成27年度病害虫発生予察事業総括検討会
本所	4～10及び 3月の月末	病害虫発生予察会議

平成 27 年度 気象表 (本所)

月	半旬	気 温 ()			降水量(mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
4 月	1	13.8	18.0	9.7	4.5	2.8
	2	9.4	14.5	5.4	40.0	15.7
	3	12.7	16.6	9.1	60.5	13.9
	4	15.8	21.4	8.8	17.0	27.9
	5	17.1	22.9	12.5	3.5	33.0
	6	18.1	24.1	12.0	0.0	39.5
	月平均	19.2	19.6	9.6	125.5	132.8
5 月	1	19.2	25.5	13.5	0.0	44.9
	2	18.4	24.0	13.9	.	32.9
	3	20.6	26.4	15.1	89.5	40.3
	4	20.6	25.4	17.2	21.0	19.0
	5	20.0	25.7	14.3	6.5	32.2
	6	22.5	27.7	18.1	0.0	47.9
	月平均	20.2	25.8	15.4	117.0	217.2
6 月	1	21.1	25.4	17.4	41.5	27.6
	2	19.6	24.1	15.8	61.5	15.0
	3	22.1	27.1	18.8	8.0	15.2
	4	20.9	24.8	18.3	24.0	7.2
	5	21.9	27.3	17.5	9.0	29.5
	6	21.9	27.1	18.8	31.0	11.8
	月平均	21.3	26.0	17.8	175.0	106.3
7 月	1	21.8	25.7	19.5	135.0	1.2
	2	21.1	24.1	19.2	83.0	7.1
	3	27.6	32.7	22.8	1.0	54.6
	4	27.1	31.3	23.9	152.0	17.2
	5	28.1	33.3	24.1	6.0	38.4
	6	28.8	33.9	24.9	0.0	44.1
	月平均	25.8	30.2	22.4	377.0	162.6
8 月	1	29.1	34.2	24.7	0.0	54.0
	2	29.1	34.4	25.1	0.0	38.8
	3	27.8	33.1	24.3	10.0	32.2
	4	26.7	31.0	23.9	114.5	12.2
	5	25.5	29.5	22.3	5.5	25.0
	6	22.5	26.4	20.2	33.0	12.8
	月平均	26.8	31.4	23.4	163.0	175.0
9 月	1	25.2	31.2	22.0	48.5	23.3
	2	22.3	25.4	20.1	169.5	2.5
	3	23.4	28.4	19.4	3.5	33.1
	4	21.2	25.7	17.7	68.5	18.6
	5	21.0	25.5	17.4	30.0	24.8
	6	21.6	26.8	18.1	1.0	23.2
	月平均	22.5	27.2	19.1	321.0	125.5

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値

月	半月	気 温 ()			降水量(mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
10 月	1	20.3	24.4	16.5	29.0	20.6
	2	17.6	23.1	11.7	0.5	40.6
	3	18.0	24.3	12.9	4.5	34.6
	4	18.1	23.0	14.7	6.5	23.5
	5	17.3	22.7	12.0	0.0	32.5
	6	16.5	22.0	11.7	0.0	35.8
	月平均	18.0	23.3	13.3	40.5	187.6
11 月	1	14.1	20.0	8.7	34.5	33.8
	2	16.6	21.0	12.8	25.0	13.9
	3	14.3	17.4	12.4	35.0	9.8
	4	15.7	20.4	12.2	38.5	11.4
	5	13.0	17.1	10.0	11.5	10.9
	6	9.8	15.7	4.5	20.5	32.8
	月平均	13.9	18.6	10.1	165.0	112.6
12 月	1	10.4	15.3	5.4	2.0	28.2
	2	8.5	13.4	3.9	3.0	23.2
	3	12.8	16.5	9.3	99.0	13.4
	4	7.8	15.0	2.2	1.0	35.4
	5	9.3	15.4	4.9	9.0	17.6
	6	7.4	12.2	-0.1	0.0	39.3
	月平均	9.4	14.6	4.3	114.0	157.1
1 月	1	7.8	16.2	0.6	0.0	40.5
	2	7.0	13.1	2.2	0.0	31.1
	3	4.6	10.7	-1.0	0.0	24.7
	4	5.3	10.5	-0.6	54.5	27.8
	5	3.3	9.6	-2.8	0.0	33.4
	6	5.1	10.0	0.0	34.0	28.6
	月平均	5.5	11.7	-0.3	88.5	186.1
2 月	1	5.0	10.3	0.6	0.0	26.2
	2	5.2	11.2	-0.5	0.0	38.3
	3	10.0	17.1	3.2	50.0	22.5
	4	6.4	12.8	0.4	39.0	33.2
	5	6.5	11.1	2.8	6.5	13.7
	6	6.9	13.2	-0.5	6.5	39.9
	月平均	6.7	12.6	1.0	102.0	173.8
3 月	1	8.6	15.2	2.5	3.5	33.3
	2	11.0	16.0	7.1	45.0	9.0
	3	6.3	10.1	2.5	38.0	21.5
	4	12.2	17.9	6.0	21.5	21.1
	5	8.8	14.0	4.4	0.0	27.4
	6	11.7	17.6	6.3	0.0	31.4
	月平均	9.8	15.1	4.8	108.0	143.7

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値

平成 27 年度 気象表 (北相地区事務所)

月	半旬	気 温 ()			降水量 (mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
4 月	1	11.8	17.6	6.2	45.5	30.2
	2	10.8	19.3	3.1	5.0	40.1
	3	11.8	19.4	4.0	0.0	47.8
	4	12.0	17.7	6.8	15.0	18.9
	5	13.5	21.0	7.7	4.0	32.8
	6	15.5	21.7	9.9	29.0	30.0
	月平均	12.6	19.4	6.3	98.5	199.7
5 月	1	17.8	25.0	11.1	6.0	37.7
	2	15.8	23.3	8.5	0.0	43.8
	3	18.5	26.0	11.9	3.5	29.9
	4	18.3	26.5	10.4	0.5	44.2
	5	17.9	24.9	12.8	59.0	25.8
	6	21.4	28.7	15.5	16.0	39.1
	月平均	18.4	25.8	11.8	85.0	220.4
6 月	1	22.8	29.5	17.3	23.0	27.4
	2	20.0	23.7	17.5	25.9	7.6
	3	22.0	27.9	17.3	44.0	30.0
	4	22.3	28.0	17.5	3.0	28.3
	5	21.3	26.4	17.8	24.5	12.3
	6	21.9	26.9	19.0	58.5	11.8
	月平均	21.7	27.1	17.7	412.0	117.5
7 月	1	22.1	26.1	19.4	13.0	9.3
	2	23.4	28.1	20.2	50.5	10.8
	3	26.7	32.9	22.5	3.0	27.8
	4	24.8	28.9	21.4	47.5	14.4
	5	27.1	33.8	21.8	1.0	32.3
	6	26.6	33.0	20.9	2.0	55.6
	月平均	25.1	30.5	21.0	117.0	150.1
8 月	1	28.8	35.9	23.0	5.5	40.2
	2	27.0	31.4	23.1	87.5	23.2
	3	26.3	31.2	22.5	19.0	23.6
	4	27.6	33.8	23.2	1.0	32.0
	5	27.0	32.2	22.8	2.0	29.4
	6	21.9	25.6	19.7	42.0	9.1
	月平均	26.3	31.5	22.3	157.0	157.6
9 月	1	23.0	28.5	18.9	38.5	18.4
	2	22.2	26.9	18.9	57.0	14.4
	3	21.0	27.2	16.9	0.0	25.4
	4	20.1	25.2	16.2	0.0	15.3
	5	20.3	27.4	14.8	8.0	32.8
	6	20.5	27.8	15.1	0.5	41.3
	月平均	21.2	27.2	16.8	104.0	147.5

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値

月	半月	気 温 ()			降水量(mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
10 月	1	20.1	25.0	17.3	142.5	12.5
	2	18.4	24.6	14.5	128.5	19.1
	3	16.6	20.7	13.2	101.5	15.1
	4	14.8	22.0	9.7	2.0	40.8
	5	14.8	19.6	11.7	31.5	18.8
	6	14.3	21.5	9.2	1.5	37.6
	月平均	16.4	22.2	12.5	407.5	143.8
11 月	1	14.1	19.1	10.6	7.0	18.3
	2	14.0	18.7	10.2	0.0	10.7
	3	10.6	16.6	6.3	1.0	27.7
	4	7.7	15.0	2.7	10.5	28.7
	5	9.9	16.7	5.6	9.5	30.0
	6	10.9	15.0	8.1	47.5	9.6
	月平均	11.2	16.9	7.2	75.5	124.9
12 月	1	7.6	13.2	1.8	18.0	26.1
	2	3.3	11.4	-1.4	0.0	32.5
	3	4.5	11.3	-0.9	0.5	21.8
	4	2.7	7.7	-1.4	44.5	24.8
	5	3.6	11.3	-1.4	0.0	33.7
	6	3.2	10.2	-1.4	9.5	42.2
	月平均	4.1	10.8	-0.8	72.5	181.0
1 月	1	0.9	9.0	-4.6	1.0	31.8
	2	2.7	11.3	-2.5	4.0	28.3
	3	2.7	10.0	-2.7	27.5	31.1
	4	3.3	11.7	-2.9	0.5	40.6
	5	3.5	8.3	-1.1	15.5	16.7
	6	3.9	9.5	-0.5	36.0	31.1
	月平均	2.9	10.0	-2.3	84.5	179.6
2 月	1	1.9	8.7	-3.5	8.5	35.9
	2	1.7	7.5	-2.7	9.0	25.8
	3	3.3	11.8	-3.2	0.0	44.1
	4	3.8	9.6	-0.6	14.5	25.2
	5	7.9	12.7	4.4	2.5	15.8
	6	6.4	11.6	1.9	8.0	16.4
	月平均	4.0	10.2	-0.8	42.5	163.3
3 月	1	6.4	12.3	1.5	60.0	24.6
	2	7.2	11.2	3.9	27.5	11.5
	3	5.7	14.2	-1.5	0.0	42.7
	4	12.0	17.4	7.4	17.0	20.0
	5	7.9	15.0	1.0	0.0	29.4
	6	11.7	20.1	3.7	0.0	55.2
	月平均	8.6	15.2	2.7	104.5	183.4

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値

平成 27 年度 気象表 (三浦半島地区事務所)

月	半旬	気 温 ()			降水量(mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
4 月	1	13.3	16.8	9.6	4.5	11.5
	2	9.6	13.5	6.6	30.5	14.5
	3	11.6	14.6	9.0	83.5	8.0
	4	15.2	20.7	8.7	2.5	34.5
	5	17.0	22.3	12.4	20.5	27.9
	6	18.1	24.1	12.3	0.0	45.1
	月平均	14.1	18.7	9.8	141.5	141.5
5 月	1	19.2	25.5	13.5	0.0	44.9
	2	18.4	24.0	13.9	0.0	32.9
	3	20.6	26.4	15.1	89.5	40.3
	4	20.6	25.4	17.2	21.0	19.0
	5	19.5	24.1	15.7	6.5	28.5
	6	21.6	26.0	18.7	12.5	46.4
	月平均	20.0	25.2	15.7	129.5	212.0
6 月	1	21.1	24.5	18.2	51.0	28.5
	2	19.9	24.1	16.6	47.0	19.6
	3	21.5	25.2	19.4	32.0	14.7
	4	21.0	24.9	18.5	4.5	14.2
	5	22.2	26.0	19.2	1.5	29.8
	6	22.0	25.5	19.0	13.5	13.7
	月平均	21.3	25.0	18.5	149.5	120.5
7 月	1	21.2	23.2	19.9	180.5	0.7
	2	20.9	23.1	19.3	115.0	10.2
	3	27.5	32.2	23.3	1.0	55.6
	4	27.1	31.3	23.9	152.0	17.2
	5	26.8	30.7	24.0	4.0	40.7
	6	28.2	32.7	25.0	0.0	57.3
	月平均	25.3	28.9	22.6	452.5	181.7
8 月	1	28.6	32.1	26.2	0.0	54.8
	2	28.8	34.1	25.6	1.5	45.4
	3	28.3	32.4	25.5	3.5	38.0
	4	26.7	30.4	24.7	57.0	10.0
	5	26.0	30.0	23.2	1.5	29.8
	6	22.5	25.6	20.2	52.0	9.1
	月平均	26.8	30.8	24.2	115.5	187.1
9 月	1	25.5	29.1	22.9	94.5	27.7
	2	23.0	25.0	20.8	285.0	2.1
	3	23.8	28.1	21.1	0.0	36.1
	4	21.6	25.7	18.6	57.0	18.3
	5	21.8	26.3	19.0	17.0	24.0
	6	22.1	26.4	19.4	0.5	26.9
	月平均	23.0	26.8	20.3	454.0	135.1

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値

月	半旬	気 温 ()			降水量(mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
10 月	1	21.3	25.1	18.3	26.5	23.9
	2	18.8	23.1	14.5	5.0	42.0
	3	19.8	23.9	16.1	6.0	35.2
	4	18.5	22.7	15.9	15.0	21.5
	5	18.3	23.2	14.8	0.0	35.6
	6	17.7	21.2	14.8	16.0	32.6
	月平均	19.1	23.2	15.7	68.5	190.8
11 月	1	15.4	20.6	11.3	15.0	34.3
	2	17.6	21.1	15.0	29.5	15.7
	3	14.7	17.6	13.1	28.5	11.9
	4	16.5	20.2	13.9	23.0	20.4
	5	13.6	17.1	11.0	15.5	14.6
	6	11.2	15.3	7.5	23.0	33.5
	月平均	14.8	18.7	12.0	134.5	130.4
12 月	1	11.9	15.1	9.5	24.0	27.5
	2	10.3	14.5	6.9	5.5	23.7
	3	13.8	16.3	11.5	38.0	17.2
	4	10.9	15.2	6.9	0.0	34.3
	5	9.3	15.4	4.9	9.0	17.6
	6	7.4	12.2	-0.1	0.0	39.3
	月平均	10.6	14.8	6.6	76.5	159.6
1 月	1	11.2	15.9	6.4	0.0	38.3
	2	9.4	13.7	5.6	0.0	34.7
	3	7.0	11.5	2.9	0.0	23.9
	4	5.7	10.3	1.0	58.0	28.6
	5	4.7	9.5	0.4	0.0	33.5
	6	6.6	10.1	2.8	28.0	30.0
	月平均	7.4	11.8	3.2	86.0	189.0
2 月	1	6.4	10.8	3.3	0.0	30.2
	2	6.7	11.4	2.4	0.0	40.7
	3	11.6	16.0	7.2	12.0	23.4
	4	8.6	12.9	5.0	43.0	34.3
	5	7.7	11.4	4.6	1.0	18.8
	6	8.8	13.3	4.1	11.0	25.6
	月平均	8.3	12.6	4.4	67.0	173.0
3 月	1	9.4	14.9	4.5	0.0	47.2
	2	12.0	15.2	8.7	113.0	8.1
	3	6.8	10.4	3.9	39.5	20.0
	4	13.5	17.4	9.4	39.0	23.9
	5	9.9	14.1	6.5	0.5	26.9
	6	12.4	16.9	8.9	3.5	33.7
	月平均	10.7	14.8	7.0	195.5	159.8

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値

平成 27 年度 気象表 (足柄地区事務所)

月	半旬	気 温 ()			降水量(mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
4 月	1	13.0	16.6	9.2	12.5	3.1
	2	8.3	12.6	5.0	56.0	15.2
	3	11.8	14.8	9.3	69.0	13.1
	4	15.1	20.1	10.2	33.5	23.8
	5	15.9	21.4	12.3	3.5	33.0
	6	17.3	22.4	13.9	0.0	30.1
	月平均	13.6	18.0	10.0	174.5	118.3
5 月	1	18.3	23.4	14.4	0.0	37.8
	2	17.4	21.7	13.9	0.0	28.2
	3	19.5	24.2	15.0	62.0	35.8
	4	19.5	23.6	16.7	29.0	16.9
	5	18.4	22.7	14.9	10.5	24.0
	6	21.1	25.7	17.8	1.5	44.6
	月平均	19.0	23.6	15.5	103.0	187.3
6 月	1	20.0	23.5	16.7	56.0	23.9
	2	18.4	21.8	15.6	77.0	15.1
	3	20.7	24.0	18.2	9.5	14.1
	4	19.7	22.5	17.5	23.0	5.7
	5	20.4	24.4	17.4	4.5	26.1
	6	20.8	25.1	17.9	39.0	17.7
	月平均	20.0	23.6	17.2	209.0	102.6
7 月	1	20.8	24.3	18.8	162.5	1.3
	2	19.8	22.2	18.5	106.5	6.8
	3	26.0	30.6	22.3	3.5	43.9
	4	25.9	29.4	23.6	195.0	15.6
	5	26.6	31.0	23.6	2.0	35.8
	6	27.1	31.1	24.2	0.0	41.5
	月平均	24.4	28.1	21.8	469.5	144.9
8 月	1	27.9	32.2	25.0	0.0	48.4
	2	27.2	31.3	24.2	10.5	31.4
	3	26.4	30.1	23.8	7.0	28.4
	4	25.4	28.3	23.3	74.0	11.0
	5	24.2	27.9	21.7	11.5	22.4
	6	21.4	24.5	19.4	69.5	8.6
	月平均	25.4	29.1	22.9	172.5	150.2
9 月	1	24.0	28.5	21.3	88.5	19.9
	2	21.5	24.3	19.8	218.5	3.2
	3	22.3	26.2	19.5	0.0	31.5
	4	20.1	23.6	17.3	92.5	16.9
	5	20.3	23.7	18.1	45.5	24.1
	6	20.6	24.1	18.2	1.0	22.3
	月平均	21.5	25.1	19.0	446.0	117.9

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値

月	半月	気 温 ()			降水量(mm)	日照時間(h)
		平均	最高	最低		
10 月	1	19.6	22.9	16.3	48.5	21.3
	2	17.6	21.5	14.3	0.5	36.0
	3	17.7	22.0	14.6	3.0	29.0
	4	17.7	21.3	15.8	13.5	19.2
	5	16.8	22.0	13.6	2.0	28.1
	6	16.4	21.3	12.8	2.5	32.1
	月平均	17.6	21.8	14.6	70.0	165.7
11 月	1	14.4	18.5	10.7	29.0	31.5
	2	16.7	20.1	14.0	41.0	14.8
	3	13.4	16.5	11.5	51.5	7.6
	4	15.1	18.3	13.0	59.5	7.6
	5	12.5	16.0	9.7	21.0	11.2
	6	10.3	14.6	7.6	23.5	27.4
	月平均	13.7	17.3	11.1	225.5	100.1
12 月	1	10.7	14.2	8.0	2.5	25.0
	2	9.1	13.1	6.3	7.5	24.8
	3	12.5	15.8	10.0	115.0	13.5
	4	9.3	14.4	4.9	0.0	27.3
	5	10.0	14.5	6.9	21.0	14.9
	6	6.8	11.5	2.9	0.0	29.4
	月平均	9.7	13.9	6.5	146.0	134.9
1 月	1	10.3	15.4	6.1	0.0	39.2
	2	8.1	13.0	4.4	0.0	29.3
	3	6.0	10.5	2.7	0.0	25.9
	4	5.3	9.7	1.6	54.5	27.6
	5	4.0	8.9	0.2	0.0	29.8
	6	5.6	9.8	2.5	65.0	25.4
	月平均	6.6	11.2	2.9	119.5	177.2
2 月	1	4.9	9.1	2.1	0.5	24.5
	2	5.5	10.6	2.0	0.0	29.7
	3	10.4	16.3	5.4	96.5	21.8
	4	6.7	12.2	2.2	42.5	29.5
	5	6.0	9.8	3.2	0.0	9.6
	6	7.8	12.7	3.7	18.0	27.2
	月平均	6.9	11.8	3.1	157.5	142.3
3 月	1	8.5	14.0	4.3	10.5	40.6
	2	10.4	13.9	7.5	63.5	7.7
	3	5.3	8.5	2.6	47.5	15.2
	4	11.5	16.5	7.4	27.5	18.4
	5	8.0	12.8	4.8	0.0	18.9
	6	11.0	15.4	7.2	1.0	37.9
	月平均	9.1	13.5	5.6	150.0	138.7

降水量及び日照時間の月平均欄の数値は月合計値